

第3章 若者の価値観・行動様式

本章では、前章までに確認した経済要因を踏まえつつ、若者の価値観や行動様式を把握する。

第1では、現代の若者を取り巻く諸相のうち、進学、就職、結婚について概説する。

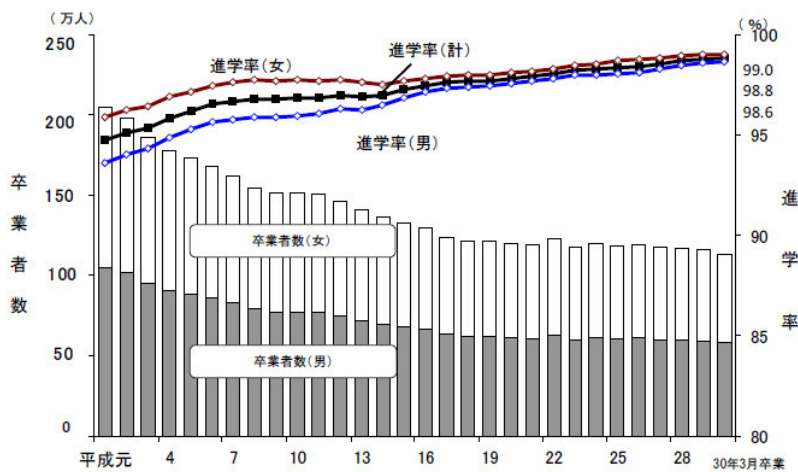
第2では、インターネット調査により東京に住む若者と、盛岡に住む若者を属性ごとに分類し、価値観や行動様式の比較を行った。

第1 現代の若者を取り巻く諸相

1 進学

2018年3月に中学校を卒業し、高校に進学した者は全国で1,119,580人おり、前年度より26,565人減少した。高等学校進学率は98.8%で前年度と同率である。岩手県の高校進学率は99.5%で、就業者の割合は0.1%である。

図表3-1-1 中学校の卒業生数・進学率の推移，都道府県別進学率・就業者の割合



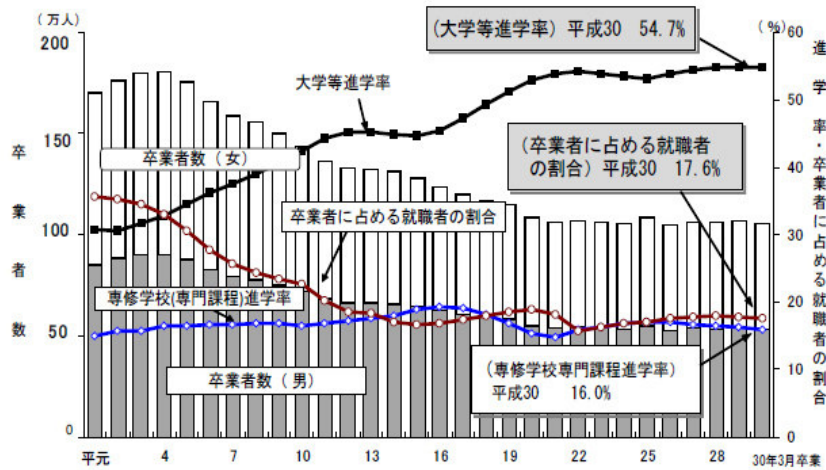
区分	高等学校等進学率(%)	専修学校(高等課程)進学率(%)	卒業者に占める就職者の割合(%)	区分	高等学校等進学率(%)	専修学校(高等課程)進学率(%)	卒業者に占める就職者の割合(%)	区分	高等学校等進学率(%)	専修学校(高等課程)進学率(%)	卒業者に占める就職者の割合(%)
北海道	98.9	0.3	0.2	福井	99.3	0.0	0.2	山口	98.2	0.3	0.3
青森	99.2	0.0	0.3	山梨	98.7	0.1	0.3	徳島	99.1	0.4	0.1
岩手	99.5	0.0	0.1	長野	99.1	0.2	0.1	香川	98.7	0.0	0.4
宮城	99.3	0.1	0.1	岐阜	99.0	0.0	0.3	愛媛	98.8	0.1	0.4
秋田	99.0	0.5	0.0	静岡	98.6	0.2	0.3	高知	98.6	0.1	0.1
山形	99.5	0.1	0.1	愛知	98.5	0.2	0.3	福岡	98.2	0.4	0.3
福島	98.3	0.9	0.2	三重	98.7	0.1	0.3	佐賀	98.1	0.6	0.3
茨城	98.8	0.2	0.2	滋賀	99.1	0.1	0.2	長崎	99.3	0.1	0.2
栃木	98.9	0.0	0.1	京都	99.3	0.1	0.1	熊本	99.2	0.2	0.2
群馬	98.9	0.1	0.2	大阪	98.5	0.4	0.3	大分	99.1	0.0	0.3
埼玉	99.0	0.1	0.2	兵庫	98.8	0.3	0.2	宮崎	98.4	0.2	0.3
千葉	98.9	0.1	0.2	奈良	99.0	0.2	0.1	鹿児島	98.9	0.0	0.3
東京	98.7	0.4	0.1	和歌山	99.3	0.2	0.1	沖縄	97.4	0.2	0.3
神奈川	99.1	0.1	0.1	鳥取	98.7	0.2	0.3				
新潟	99.6	0.0	0.1	島根	98.9	0.1	0.2	全国	98.8	0.2	0.2
富山	99.4	—	0.2	岡山	98.7	0.1	0.2	男	98.6	0.2	0.3
石川	99.4	—	0.1	広島	98.6	0.3	0.3	女	99.0	0.2	0.1

(注) 高等学校等進学率は、高等学校の通信制課程(本科)への進学者を含む。

出所：文部科学省『学校基本調査—平成30年度結果の概要—』(2018年)から引用

2018年3月に高等学校を卒業した者は全国で1,056,378人おり、前年度より13,190人減少した。大学等進学者は578,041人おり、前年度より7,143人減少した。大学等進学率は54.7%で2015年以降横ばいを続けている。専修学校(専門課程)進学者は168,782人おり、前年度より4,894人減少した。専修学校(専門課程)進学者は16.0%と減少を続けている。

図表 3-1-2 高等学校の卒業生数・進学率の推移、都道府県別進学率・就職者の割合



区分	進学率(%)				区分	進学率(%)			
	大学等	大 学 校	専修学校 (専門課程)	卒業生に占める 就職者の割合		大学等	大 学 校	専修学校 (専門課程)	卒業生に占める 就職者の割合
北海道	45.5	40.0	21.7	23.5	茨 郡	65.9	60.5	13.7	8.5
青 森	46.9	40.5	14.5	31.5	大 阪	59.5	53.8	14.6	11.5
岩 手	44.6	38.7	20.2	28.7	兵 庫	60.6	56.0	13.2	14.0
宮 城	49.3	44.7	16.3	23.1	京 都	58.2	52.8	14.2	11.6
秋 田	45.3	36.9	16.9	29.9	和歌山	47.8	42.1	18.0	23.1
山 形	45.3	38.9	17.4	30.1	鳥 取	43.8	35.6	17.4	25.8
福 島	46.3	39.8	17.1	29.1	島 根	46.7	41.2	20.0	23.5
茨 城	50.6	47.4	17.7	21.4	岡 山	51.0	45.8	16.3	23.3
栃 木	52.5	48.0	17.2	22.8	広 島	60.6	56.8	11.1	15.4
群 馬	51.9	46.5	18.6	20.1	山 口	44.1	37.8	16.6	29.8
埼 玉	57.2	52.7	17.0	13.7	徳 島	52.0	46.8	17.0	22.8
千 葉	55.7	51.9	18.0	13.2	香 川	52.2	45.1	14.8	18.3
東 京	64.7	62.4	10.6	6.5	愛 媛	53.7	46.6	18.9	22.5
神奈川	61.0	57.0	16.0	8.4	高 知	49.3	39.6	16.9	17.1
新 潟	46.4	41.0	28.1	19.5	徳 島	53.5	47.1	16.9	18.4
富 山	51.9	44.4	16.8	21.9	佐 賀	44.7	39.1	15.5	32.4
石 川	55.1	48.6	13.9	21.2	長 崎	45.0	39.5	16.0	29.7
福 井	56.8	50.7	15.2	21.8	熊 本	46.8	41.4	17.2	25.7
山 梨	57.2	51.9	16.2	16.6	大 分	47.9	37.7	19.4	26.0
長 野	47.7	39.5	21.3	18.8	宮 崎	48.0	37.8	16.4	28.3
岐阜	55.5	48.6	13.5	23.5	鹿児島	44.2	32.4	18.9	26.7
静 岡	53.0	48.5	17.2	22.2	沖 縄	39.7	35.7	24.5	16.0
愛 知	58.2	53.7	12.4	19.5	全国	54.7	49.6	16.0	17.6
三重	50.6	45.0	14.5	27.3	男	51.8	50.8	12.4	21.3
滋 賀	54.6	48.5	16.8	18.3	女	57.7	48.4	19.7	13.9

区分	卒業生数	A 大学等進学者		B 専修学校 (専門課程)	C 専修学校 (一般課程)	D 公共職業能力 開発施設等	就職者 (左記A～Dを除く)		一時的な 仕事に就 いた者	不詳・ 左記以外 の者	死亡の 者	(再掲)左記「A」「B」「C」「D」 のうち就職している者		
		うち通信教育 部を除く	うち大学 (学部)	進 学 者	等 入 学 者	入 学 者	うち正規 の職員等 でない者	うち正規 の職員等 でない者						
平成 20 年度	1,088,170	574,990	574,579	499,991	167,010	67,114	6,941	205,328	...	12,859	53,698	230	1,260	...
25	1,088,124	578,554	578,153	514,905	185,378	66,000	6,851	183,619	...	13,621	53,812	289	984	...
26	1,047,392	563,268	562,892	502,279	178,530	56,638	6,408	182,706	...	11,956	47,661	225	878	...
27	1,064,376	579,938	579,540	519,132	177,827	54,990	6,376	188,905	1,945	9,615	46,496	229	774	116
28	1,059,266	579,738	579,382	521,320	173,396	56,458	6,159	189,130	1,726	8,397	45,783	205	678	89
29	1,069,568	585,184	584,785	528,686	173,676	56,410	6,360	189,619	1,360	7,794	50,315	210	640	104
30	1,056,378	578,041	577,562	524,158	168,782	57,416	6,235	185,780	1,320	6,984	52,941	199	454	47

つづき (単位:人)

区分	大学等進学率 (%)		専修学校 (専門課程) 進学率 (%)	卒業生 に占める 就職者の 割合 (%)
	うち通信教育 部を除く	うち大学 (学部)		
平成 20 年度	52.8	52.8	45.9	15.3
25	53.2	53.1	47.3	17.0
26	53.8	53.7	48.0	17.0
27	54.5	54.4	48.8	16.7
28	54.7	54.7	49.2	16.4
29	54.7	54.7	49.4	16.2
30	54.7	54.7	49.6	16.0

出所：文部科学省『学校基本調査—平成 30 年度結果の概要—』(2018 年) から引用

岩手県の大学進学率は 44.6%で、全国平均を 10.1 ポイント下回っている。一方で、専

修学校（専門課程）の進学率は20.2%で、全国平均を4.2ポイント上回っている。

岩手県の高等学校卒業生（既卒者を含む）の進学先大学を都道府県別に確認したのが次の図表である。

岩手県内の大学への進学が男性で25.5%、女性で32.9%である。宮城県への進学は男性で19.0%、女性で17.9%である。東京圏への進学は男性で23.8%、女性で22.6%である。全国的に見ると地元進学率は女性のほうが高く、東京圏における地元進学率の高さと相まって、東京圏の女性の地元進学率は95%前後と極めて高くなっている。

図表3-1-3 出身高等学校の所在地、大学の所在地別入学者、男性、2018年

区分		出身高等学校の所在地												
		全国	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	埼玉	千葉	東京	神奈川	
大学の所在地	全国	339,867	11,948	2,784	2,441	5,488	1,909	2,263	4,194	19,484	16,424	38,473	23,880	
	北海道	11,440	7,960	211	166	100	93	60	51	156	160	421	200	
	青森	1,849	284	1,044	129	48	91	31	13	17	12	24	9	
	岩手	1,375	62	139	623	160	78	34	35	5	11	23	26	
	宮城	6,746	133	327	465	3,132	294	379	505	138	81	197	102	
	秋田	1,223	26	53	64	42	461	39	33	32	16	35	15	
	山形	1,520	43	52	60	272	48	440	136	33	16	27	13	
	福島	2,174	21	32	65	120	47	88	897	43	30	68	35	
	埼玉	17,437	236	115	92	178	86	112	358	6,028	1,045	3,212	516	
	千葉	16,384	187	106	73	140	61	147	289	1,291	5,717	2,694	708	
	東京	76,752	1,176	307	261	631	235	339	786	9,074	6,742	24,214	11,221	
	神奈川	27,374	388	117	156	221	103	190	375	1,280	1,273	5,274	9,869	

区分		出身高等学校の所在地												
		全国	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	埼玉	千葉	東京	神奈川	
大学の所在地	北海道	3.4%	66.6%	7.6%	6.8%	1.8%	4.9%	2.7%	1.2%	0.8%	1.0%	1.1%	0.8%	
	青森	0.5%	2.4%	37.5%	5.3%	0.9%	4.8%	1.4%	0.3%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	
	岩手	0.4%	0.5%	5.0%	25.5%	2.9%	4.1%	1.5%	0.8%	0.0%	0.1%	0.1%	0.1%	
	宮城	2.0%	1.1%	11.7%	19.0%	57.1%	15.4%	16.7%	12.0%	0.7%	0.5%	0.5%	0.4%	
	秋田	0.4%	0.2%	1.9%	2.6%	0.8%	24.1%	1.7%	0.8%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	
	山形	0.4%	0.4%	1.9%	2.5%	5.0%	2.5%	19.4%	3.2%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%	
	福島	0.6%	0.2%	1.1%	2.7%	2.2%	2.5%	3.9%	21.4%	0.2%	0.2%	0.2%	0.1%	
	埼玉	5.1%	2.0%	4.1%	3.8%	3.2%	4.5%	4.9%	8.5%	30.9%	6.4%	8.3%	2.2%	
	千葉	4.8%	1.6%	3.8%	3.0%	2.6%	3.2%	6.5%	6.9%	6.6%	34.8%	7.0%	3.0%	
	東京	22.6%	9.8%	11.0%	10.7%	11.5%	12.3%	15.0%	18.7%	46.6%	41.0%	62.9%	47.0%	
	神奈川	8.1%	3.2%	4.2%	6.4%	4.0%	5.4%	8.4%	8.9%	6.6%	7.8%	13.7%	41.3%	
	東京圏	40.6%	16.6%	23.2%	23.8%	21.3%	25.4%	34.8%	43.1%	90.7%	90.0%	92.0%	93.4%	

出所：文部科学省『学校基本調査』を基に作成。

図表3-1-4 出身高等学校の所在地、大学の所在地別入学者、女性、2018年

区分		出身高等学校の所在地												
		全国	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	埼玉	千葉	東京	神奈川	
大学の所在地	全国	288,954	8,733	2,398	2,213	4,644	1,686	1,961	3,308	14,869	13,320	38,082	20,132	
	北海道	7,553	5,876	145	109	47	82	33	34	47	71	203	84	
	青森	1,562	180	993	109	44	85	13	9	2	5	11	6	
	岩手	1,233	36	112	727	101	95	29	22	13	6	12	11	
	宮城	5,212	58	270	396	2,782	258	408	465	26	24	69	31	
	秋田	913	30	54	58	35	411	41	25	10	13	30	14	
	山形	1,317	32	47	69	279	51	460	102	20	11	20	9	
	福島	1,103	4	19	42	69	30	41	631	11	11	31	10	
	埼玉	13,639	162	85	65	124	74	81	214	4,636	905	3,169	380	
	千葉	10,866	136	88	62	103	63	73	179	668	4,224	1,928	323	
	東京	73,661	936	299	277	562	223	290	709	7,986	6,600	26,082	10,865	
	神奈川	20,881	317	92	97	195	92	133	267	696	854	5,062	7,762	

区分		出身高等学校の所在地												
		全国	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	埼玉	千葉	東京	神奈川	
大学の所在地	北海道	2.6%	67.3%	6.0%	4.9%	1.0%	4.9%	1.7%	1.0%	0.3%	0.5%	0.5%	0.4%	
	青森	0.5%	2.1%	41.4%	4.9%	0.9%	5.0%	0.7%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	岩手	0.4%	0.4%	4.7%	32.9%	2.2%	5.6%	1.5%	0.7%	0.1%	0.0%	0.0%	0.1%	
	宮城	1.8%	0.7%	11.3%	17.9%	59.9%	15.3%	20.8%	14.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	
	秋田	0.3%	0.3%	2.3%	2.6%	0.8%	24.4%	2.1%	0.8%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	
	山形	0.5%	0.4%	2.0%	3.1%	6.0%	3.0%	23.5%	3.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	
	福島	0.4%	0.0%	0.8%	1.9%	1.5%	1.8%	2.1%	19.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	
	埼玉	4.7%	1.9%	3.5%	2.9%	2.7%	4.4%	4.1%	6.5%	31.2%	6.8%	8.3%	1.9%	
	千葉	3.8%	1.6%	3.7%	2.8%	2.2%	3.7%	3.7%	5.4%	4.5%	31.7%	5.1%	1.6%	
	東京	25.5%	10.7%	12.5%	12.5%	12.1%	13.2%	14.8%	21.4%	53.7%	49.5%	68.5%	54.0%	
	神奈川	7.2%	3.6%	3.8%	4.4%	4.2%	5.5%	6.8%	8.1%	4.7%	6.4%	13.3%	38.6%	
	東京圏	41.2%	17.8%	23.5%	22.6%	21.2%	26.8%	29.4%	41.4%	94.1%	94.5%	95.2%	96.0%	

出所：文部科学省『学校基本調査』を基に作成。

2008年に遡って、岩手県の高等学校卒業生（既卒者を含む）の進学先大学を都道府県別に確認したのが次の図表3-1-5である。2008年と2018年を比較すると、東北各県の

男性では地元進学率の増減にばらつきが生じている。青森県、宮城県、秋田県では増加、岩手県、山形県、福島県では減少している一方で、女性では、各県とも地元進学率が上昇している。また、東北各県から宮城県への進学は男性では増加しているが、女性では秋田県及び福島県で増加し、青森県、岩手県、山形県で減少している。東京圏の大学への進学率は、男女とも宮城県を除く東北各県で低下している。

図表 3-1-5 出身高等学校の所在地別大学の入学者、男女、2008年

男性

区分	出身高等学校の所在地												
	全国	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	埼玉	千葉	東京	神奈川	
大学の所在地	北海道	2.7%	71.4%	6.4%	4.0%	0.9%	3.3%	1.7%	0.9%	0.3%	0.3%	0.3%	
	青森	0.5%	2.0%	34.8%	5.7%	0.8%	5.2%	0.9%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
	岩手	0.4%	0.4%	4.9%	29.1%	2.2%	5.9%	2.0%	0.8%	0.1%	0.0%	0.0%	
	宮城	2.0%	0.6%	12.4%	18.0%	63.8%	13.3%	21.2%	13.5%	0.1%	0.1%	0.1%	
	秋田	0.3%	0.3%	2.5%	3.5%	0.7%	21.3%	0.9%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
	山形	0.4%	0.4%	1.4%	2.8%	4.6%	2.5%	18.5%	2.4%	0.2%	0.1%	0.1%	
	福島	0.4%	0.1%	1.1%	2.2%	2.3%	2.3%	2.9%	16.1%	0.0%	0.1%	0.0%	
	埼玉	5.5%	1.8%	4.6%	3.6%	2.7%	5.0%	5.5%	8.3%	32.7%	9.0%	10.7%	
	千葉	3.6%	1.2%	2.9%	2.7%	1.8%	3.6%	3.8%	5.5%	5.5%	29.9%	5.3%	
	東京	23.6%	9.3%	15.4%	13.9%	10.2%	19.0%	18.2%	24.8%	49.9%	46.5%	64.1%	
	神奈川	8.1%	3.2%	5.5%	4.7%	3.4%	6.6%	7.0%	8.7%	6.1%	9.2%	16.2%	
	東京圏	40.8%	15.5%	28.4%	24.9%	18.1%	34.2%	34.5%	47.3%	94.2%	94.6%	96.2%	

女性

区分	出身高等学校の所在地												
	全国	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	埼玉	千葉	東京	神奈川	
大学の所在地	北海道	3.6%	70.8%	8.6%	5.0%	2.0%	4.6%	2.5%	1.1%	0.7%	0.7%	0.6%	
	青森	0.5%	1.8%	32.4%	5.6%	1.0%	4.4%	1.3%	0.6%	0.1%	0.1%	0.0%	
	岩手	0.4%	0.5%	4.7%	26.9%	3.0%	4.6%	1.4%	0.8%	0.1%	0.0%	0.1%	
	宮城	2.0%	0.8%	10.4%	17.2%	56.3%	13.0%	14.4%	10.7%	0.4%	0.4%	0.3%	
	秋田	0.3%	0.2%	2.0%	3.6%	0.9%	18.6%	1.7%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	
	山形	0.4%	0.3%	1.3%	3.8%	4.4%	2.2%	16.8%	2.3%	0.1%	0.1%	0.1%	
	福島	0.7%	0.2%	2.0%	2.6%	3.3%	3.2%	4.0%	22.3%	0.2%	0.2%	0.1%	
	埼玉	5.6%	1.8%	5.2%	4.1%	3.2%	5.8%	7.6%	8.5%	33.8%	6.9%	10.0%	
	千葉	5.1%	1.4%	3.8%	3.9%	2.4%	4.3%	6.3%	7.0%	7.0%	37.3%	8.1%	
	東京	22.0%	9.8%	14.2%	13.8%	11.1%	17.5%	16.9%	21.1%	44.2%	38.5%	60.6%	
	神奈川	9.0%	3.2%	5.2%	5.2%	4.6%	7.2%	8.9%	9.4%	7.8%	9.8%	15.9%	
	東京圏	41.8%	16.1%	28.3%	26.9%	21.3%	34.9%	39.7%	45.9%	92.8%	92.5%	94.6%	

出所：文部科学省『学校基本調査』を基に作成。

図表 3-1-6 何らかの奨学金を受給している学生、居住形態別学生数

	単位：%					
	2006年	2008年	2010年	2012年	2014年	2016年
大学(昼間部)	40.9	43.3	50.7	52.5	51.3	48.9
短期大学(昼間部)	-	-	-	53.4	52.9	52.2

出所：独立行政法人日本学生支援機構『学生生活調査結果』を基に作成。

居住形態		(単位：%)																	
		自宅						学寮						アパート等					
区分	年度	18	20	22	24	26	28	18	20	22	24	26	28	18	20	22	24	26	28
		大学昼間部	国立	31.6	33.1	33.2	33.3	31.3	31.9	6.8	6.0	5.9	5.5	5.7	5.9	61.6	60.9	60.9	61.2
公立	40.8		42.4	40.3	42.3	39.4	40.1	2.2	2.5	2.8	2.3	3.1	3.7	57.0	55.1	56.9	55.4	57.5	56.2
私立	56.8		59.7	61.1	63.0	63.3	64.7	5.5	4.6	5.6	5.8	5.7	5.1	37.6	35.7	33.3	31.2	31.1	30.2
平均	51.5		54.1	55.2	56.8	56.5	57.8	5.6	4.8	5.5	5.6	5.5	5.2	42.9	41.1	39.3	37.6	38.0	37.0
短期大学昼間部	国立	
	公立	47.9	51.8	44.5	44.6	44.8	45.7	6.4	6.4	8.9	5.9	6.5	7.9	45.8	41.7	46.6	49.4	48.7	
	私立	70.5	71.8	74.0	74.1	75.9	75.8	7.7	6.9	7.7	6.6	6.0	6.7	21.7	21.3	18.3	19.3	18.0	
	平均	69.2	70.7	72.4	72.6	74.4	74.3	7.7	6.9	7.8	6.5	6.0	6.8	23.1	22.5	19.8	20.9	19.6	

(注)設置者別の同一年度の横計は100%となっている。

出所：独立行政法人日本学生支援機構『学生生活調査報告』から引用

この10年間の大学生、短期大学生の奨学金の受給状況を確認したのが次の図表である。奨学金を受給している学生の割合は、2006年から徐々に増加、2012年にピークの52.5%

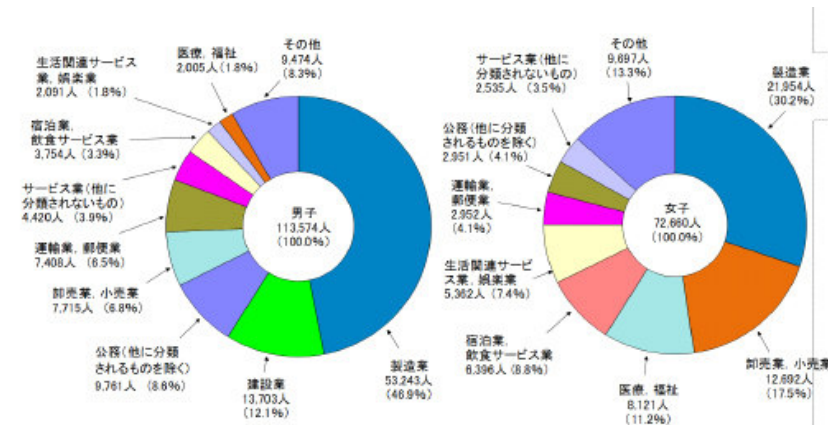
(大学)に達し、以降減少している。自宅から通う学生の比率が年々増加するとともに、アパート等から通う学生の比率が減少しており、奨学金の受給者の減少は実家で生活する学生が増加していることと関連性がある可能性がある。

2 就職

中学校を卒業して就職（進学しながら働いているものを含む）したものは全国で2,267人で、前年度より937人減少した。就職者総数を産業別にみると、最も多いのが第二次産業（鉱業・採石業・砂利採取業，建設業，製造業）の1,071人（就職者総数の47.2%）で、次いで第三次産業（電気・ガス・熱供給・水道業，情報通信業，運輸業・郵便業，卸売業・小売業，金融業，保険業，不動産業・物品賃貸業，学術研究・専門・技術サービス業，宿泊業・飲食サービス業，生活関連サービス業・娯楽業，教育・学習支援業，医療・福祉，複合サービス事業，サービス業（他に分類されないもの），公務（他に分類されるものを除く）の909人（同40.1%）等である。就職者総数のうち県外（出身中学校が所在する県以外の県）へ就職した者は358人で就職者総数の15.8%を占めており、前年度より2.3ポイント上昇している。岩手県の就職率は0.1%と低い。

高等学校を卒業して就職したもの（進学しながら働いているものを含む）は全国で186,234人で、前年度より4,025人減少している。卒業者に占める就職者の割合は17.6%で、前年度より0.2ポイント低下している。産業別にみると、製造業が40.4%を占め、卸売業・小売業が11.0%，建設業が8.2%である。就業者総数を職業別に見ると、生産工程従事者が39.3%で最も多く、サービス職業従事者が14.4%，事務従事者が11.2%，販売従事者が8.8%である。就職者総数のうち、県外へ就職したものは就職者の18.9%を占めており、前年度より0.1ポイント増加している。

図表3-1-7 高等学校を卒業した就業者の産業別就業者の比較



出所：文部科学省『学校基本調査—平成30年度結果の概要—』（2018年）から引用

岩手県の高等学校を卒業して就職したものを産業別に見ると、製造業が38.1%で最も多く、建設業が18.0%，公務が8.3%，卸売業・小売業が8.1%でつづく。女性では製造業が29.0%で最も多く、卸売業・小売業が16.3%，宿泊業・飲食サービス業が12.5%，医療・福祉が11.1%で続く。

県外に就職した者は、製造業が293人で最も多く、建設業が175人，卸売業・小売業が123人，宿泊業・飲食サービス業が106人で続く。

他県に就職した者が多い産業としては情報通信業（68.0%），電気・ガス・熱供給・水道業（67.2%），その他のサービス業（57.7%），運輸業・郵便業（53.3%）の4産業で

半数以上が県外に転出している。

図表 3-1-8 岩手県の高等学校を卒業した就業者の産業別就業者の比較

就職先の産業別、学科別就職者数、県外就職者数及び就職者のうち県外に就職した割合																	(単位：人・%)				
区 分	計	農 業 林 業	漁 業	鉱 業、採 石業、砂 利採取業	建 設 業	製 造 業	電 気・ ガス・ 熱供給・ 水道業	情 報 通信業	運 輸 業、郵 便業	卸 売 業、小 売業	金 融 業、保 険業	不 動 産業、 物品賃 貸業	学 術 研 究 ・ 専 門 ・ 技 術 サ ー ビ ス 業	宿 泊 業、 飲食サ ービス 業、飲 酒 業	生 活 関 連 サ ー ビ ス 業、娯 楽 業	教 育 ・ 学 習 支 援 業	医 療、 福 祉	複 合 サ ー ビ ス 業	サ ー ビ ス 業 (他に分類 されないもの)	公 務	左 記 以外 のもの
合 計	3,202	41	11	3	388	1,104	58	25	138	364	44	30	37	237	114	3	163	94	130	210	
男	1,942	30	11	3	350	739	52	19	96	158	10	9	31	79	45	-	23	24	96	161	
女	1,260	11	-	-	38	365	6	6	42	206	34	21	6	158	69	3	140	70	34	49	
普通	553	11	1	1	61	188	3	1	32	54	7	2	6	28	29	-	11	9	19	89	
男	384	5	-	-	3	123	1	1	8	46	7	3	1	51	30	1	48	16	13	26	
女	158	16	-	-	27	52	1	-	11	9	1	-	1	8	2	-	1	4	6	19	
農業	140	5	-	-	1	65	-	-	2	18	-	-	-	16	5	-	14	7	6	1	
男	837	2	2	1	231	373	42	13	25	37	-	4	19	1	2	-	-	2	58	25	
女	62	-	-	-	13	25	1	2	2	5	-	2	4	2	-	-	-	-	4	2	
工業	141	-	1	1	6	48	5	5	12	29	1	1	2	6	3	-	4	4	1	12	
男	302	-	-	-	16	64	4	2	17	75	22	9	1	20	9	-	17	31	8	7	
女	16	-	5	-	-	1	-	-	5	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
水産	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
男	28	-	1	1	3	4	-	-	1	1	-	-	-	15	3	-	-	-	-	-	
女	89	-	-	-	3	24	-	-	1	6	-	1	-	31	4	-	14	1	-	3	
家庭	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
看護	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
男	10	-	-	-	-	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	
女	38	-	-	-	-	3	-	-	-	5	-	-	-	3	-	-	26	-	-	1	
その他	199	1	1	-	22	69	1	-	9	24	1	2	3	21	6	-	7	5	11	11	
男	243	1	-	-	2	61	-	1	12	50	5	6	-	35	21	2	21	15	3	8	
女																					
(再掲) 県外就職者数	1,081	5	3	1	175	293	39	17	74	123	6	8	17	106	35	-	37	7	75	58	
就職者のうち県外に 就職した割合	33.8	12.2	27.3	33.3	45.1	26.5	67.2	68.0	53.6	33.8	13.6	26.7	45.9	44.7	30.7	0.0	22.7	7.4	57.7	27.6	25

出所：岩手県『学校基本調査報告書』（2018年）から引用

岩手県内の大学等の卒業生の県内就職率を一括して把握できる統計資料は存在しないため、岩手大学と岩手県立大学の県内就職状況を概観する。

岩手大学の2017年度卒業生の業種別・都道府県別就職先の一覧が次の表である。

学部生の就職者では岩手県（276人）が多く、東京都（139人）、宮城県（134人）が次ぐ。

岩手県への就職者を産業別にみると公務（82人）が最も多く、教育・学習支援業（64人）、金融業・保険業（24人）が次ぐ。宮城県への就職者を産業別に見ると、公務（44人）が最も多く、教育・教育支援業（26人）、金融業・保険業（9人）が次ぐ。岩手県市部において全国全産業中位所得の平均を超える産業（第2章参照）に合致する。

東京都への就職者を産業別にみると、情報通信業（24人）が最も多く、製造業（22人）、公務（17人）が次ぐ。国勢調査に基づく就業と社会移動の実態（第2章参照）で明らかにした東京圏への転出者（男性）が就業している産業に合致する。

なお、修士の就業者では、東京都（84人）が多く、岩手県（49人）、東京都を除く関東（35人）が次ぐ。

東京都への就職者を産業別にみると、製造業（44人）が最も多く、情報通信業（16人）、学術研究・専門・技術サービス業（7人）が続く。

岩手県への就職者を産業別にみると教育・学習支援業（21人）が最も多く、製造業（9人）、公務（5人）が次ぐ。

東京都を除く関東への就職者を産業別にみると製造業（27人）が最も多く、建設業（3人）が続く。

図表 3-1-9 岩手大学の都道府県別就職先（学部生），2017 年

業種別・都道府県別就職先一覧（全学部）

(学部・集計表)

産業分類	都道府県										計
	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	東京都	(東京圏を除く)	その他	
農 業 ・ 林 業			1							1	2
漁 業											0
鉱業・採石業・砂利採取業											0
建設業	1		8	3				11		2	25
製造業	食品・飲料・たばこ・煙草	2	4	5				1	3	4	22
	繊維工業			1							1
	印刷業			4					1		5
	化学・石油製造業						1		1	1	4
	鉄鋼業			3	1				3	2	10
	非鉄金属製造業			2	1			1	3	2	10
	電子部品製造業			4	2				3	1	11
	電気機器製造業			2	1				3	1	7
	輸送用機器製造業							2	2	5	9
	他の製造業			2	3		1		3	2	12
電気・ガス・水道業	1			4					1	6	
情報通信業			18	7				24	1	57	
運輸・郵便業	3		13	5	2		1	6		31	
卸・小売業	1		1	2				2		6	
小売業	3	1	15	3	1		2	7	2	37	
金融・保険業		4	21	5	3		1	2		36	
保険業			3	4	1			2		11	
不動産取引・賃貸・管理業				1				1		2	
物品賃貸業										0	
学術・開発研究機関								1	2	4	
法務・会計										0	
その他の専門・技術サービス業	4	1	4	7				11	3	36	
宿泊業・飲食サービス業			6					3		11	
生活関連サービス業・娯楽業			2	2				8		12	
教育・学習支援業	小学校	2	4	27	10	1		1	3	48	
	中学校	1		16	4	1	1			29	
	高等学校		2	9	4				1	16	
	中等教育学校			1						1	
	幼稚園			1					1	3	
	特別支援学校			8	1	1				10	
	その他			1						1	
	その他(上記事務職員等)			1	1					2	
医療・保健業			4					1		5	
医療業・保健衛生業			4					1		5	
社会保険・社会福祉・介護事業	2		2		1			3		8	
複合サービス事業	1	1	5	4	1	1		1		14	
サービス業			1							1	
他のサービス業	1	1	3	9				15	1	31	
国家公務	5	3	4	22				16	2	53	
地方公務	6	17	78	22	12	5	7	1	8	162	
上記以外										0	
計	33	38	276	134	24	9	14	139	47	757	

業別の就職率

4.3%	5.0%	38.5%	17.7%	3.2%	1.2%	1.8%	18.4%	6.2%	5.7%	100%
------	------	-------	-------	------	------	------	-------	------	------	------

図表 3-1-10 岩手県立大学の都道府県別就職先（学部，短期大学），2017 年，2016 年

学部	県内	県外	学部	県内	県外
看護	39名 (44.3%)	49名 (55.7%)	看護	47名 (51.1%)	45名 (48.9%)
社会福祉	63名 (62.4%)	38名 (37.6%)	社会福祉	48名 (48.3%)	51名 (51.5%)
アットワユ情報	33名 (26.2%)	93名 (73.8%)	アットワユ情報	25名 (21.4%)	92名 (78.6%)
総合政策	59名 (57.3%)	44名 (42.7%)	総合政策	61名 (56.3%)	47名 (43.5%)
計	194名 (46.4%)	224名 (53.6%)	計	181名 (43.3%)	235名 (56.5%)

学部	県内	県外	学部	県内	県外
盛岡短期大学部	42名 (68.9%)	19名 (31.1%)	盛岡短期大学部	41名 (62.1%)	25名 (37.9%)
宮古短期大学部	48名 (68.6%)	22名 (31.4%)	宮古短期大学部	47名 (66.2%)	24名 (33.8%)

出所：岩手県立大学ホームページから引用 <https://www.iwate-pu.ac.jp/career/>

岩手労働局が、過去 3 ヶ年度の学歴別の新卒者にかかる 2018 年 3 月までの間の離職状況をまとめたものが次の図表 3-1-11 である。

男女で比較すると、女性の離職率が高い。中学校卒を除いた学歴別で比較すると高卒の離職率が最も高く、短大等，大学と続く。

全国と岩手県を比較すると、大学卒の離職率が全区分で全国を大幅に上回っている。一方で、短大等，高等学校では、全区分で全国の離職率を下回っている。

岩手県立大学の 2017 年卒業生では、看護学部 (55.7%)，ソフトウェア情報学部 (73.8%) で県外就職が半数を超えている。2016 年卒業生では、社会福祉学部 (51.5%) とソフトウェア情報学部 (78.6%) で県外就職が半数を超えており、国勢調査に基づく就業と社会移動の実態 (第 2 章参照) で明らかにした東京圏への転出者 (男性：情報通信業，女性，医療・福祉) と合致している。短期大学部では、県内への就職が 6 割を超える。

この現象は、(a) 仕事の数＝岩手県内において大卒者に対して、大卒者が満足する仕事の絶対数が不足している、(b) 仕事の質＝岩手県内において大卒者が従事する仕事の質（内容、待遇）が低い、のいずれかが原因になっているものと考えられる。

図表3-1-11 岩手の在職期間別離職状況

過去3カ年度の在職期間別離職状況

岩手労働局職業安定部職業安定課

	就職者数			①卒業時から平成30年3月までの間に在職期間別離職状況						②在職期間別離職状況 (①の内訳)								
	A	B	C	a		b		c		1年目		2年目		3年目				
	計	男	女	就職者数	離職率 [a/A×100]	就職者数	離職率 [b/B×100]	就職者数	離職率 [c/C×100]	就職者数	離職率	就職者数	離職率	就職者数	離職率			
大 学	27年3月卒	岩手	1,662	887	775	628	37.8	303	34.2	325	41.9	計	270	16.2	208	12.5	150	9.0
		男										124	14.0	124	14.0	55	6.2	
		女										146	18.8	84	10.8	95	12.3	
	全国	441,936	243,696	198,240	140,660	31.8	68,368	28.1	72,292	36.5	計	52,542	11.9	46,075	10.4	42,043	9.5	
	28年3月卒	岩手	1,625	859	766	460	28.3	224	26.1	236	30.8	計	262	16.1	198	12.2		
		男										122	14.2	102	11.9			
		女										140	18.3	96	12.5			
	全国	448,164	247,599	200,565	98,270	21.9	49,143	19.8	49,127	24.5	計	51,105	11.4	47,165	10.5			
	29年3月卒	岩手	1,686	862	824	250	14.8	114	13.2	136	16.5	計	250	14.8				
		男										114	13.2					
		女										136	16.5					
	全国	457,956	249,532	208,424	52,642	11.5	26,057	10.4	26,585	12.8	計	52,642	11.5					
短 大 等	27年3月卒	岩手	1,607	570	1,037	622	38.7	205	36.0	417	40.2	計	289	18.0	166	10.3	167	10.4
		男										97	17.0	51	8.9	57	10.0	
		女										192	18.5	115	11.1	110	10.6	
	全国	149,840	48,701	101,139	62,190	41.5	18,840	38.7	43,350	42.9	計	27,071	18.1	18,281	12.2	16,838	11.2	
	28年3月卒	岩手	1,464	521	943	416	28.4	139	26.7	277	29.4	計	243	16.6	173	11.8		
		男										82	15.7	57	10.9			
		女										161	17.1	116	12.3			
	全国	149,685	48,359	101,326	44,673	29.8	14,157	29.3	30,516	30.1	計	26,173	17.5	18,500	12.4			
	29年3月卒	岩手	1,398	520	878	220	15.7	87	16.7	133	15.1	計	220	15.7				
		男										87	16.7					
		女										133	15.1					
	全国	150,164	48,163	102,001	26,379	17.6	8,463	17.6	17,916	17.6	計	26,379	17.6					
高 等 学 校	27年3月卒	岩手	2,389	1,322	1,067	927	38.8	444	33.6	483	45.3	計	402	16.8	314	13.1	211	8.8
		男										188	14.3	161	12.2	94	7.1	
		女										213	20.0	153	14.3	117	11.0	
	全国	178,176	105,737	72,439	70,112	39.3	36,035	34.1	34,077	47.0	計	32,410	18.2	20,588	11.6	17,114	9.6	
	28年3月卒	岩手	2,209	1,202	1,007	619	28.0	278	23.1	341	33.9	計	356	16.1	264	12.0		
		男										159	13.2	119	9.9			
		女										196	19.5	145	14.4			
	全国	178,535	105,936	72,599	51,837	29.0	26,514	25.0	25,323	34.9	計	30,991	17.4	20,846	11.7			
	29年3月卒	岩手	2,295	1,349	946	358	15.6	188	13.9	170	18.0	計	358	15.6				
		男										188	13.9					
		女										170	18.0					
	全国	179,343	106,405	72,938	30,618	17.1	15,675	14.7	14,943	20.5	計	30,618	17.1					
中 学 校	27年3月卒	岩手	11	9	2	5	45.5	4	44.4	1	50.0	計	3	27.3	2	18.2	0	0.0
		男										2	22.2	2	22.2	0	0.0	
		女										1	50.0	0	0.0	0	0.0	
	全国	1,335	1,075	260	856	64.1	687	63.9	169	65.0	計	599	42.6	173	13.0	114	8.5	
	28年3月卒	岩手	15	11	4	9	60.0	6	54.5	3	75.0	計	453	42.1	137	12.7	97	9.0
		男										116	44.6	36	13.8	17	6.5	
		女										8	53.3	1	6.7			
	全国	1,190	922	268	649	54.5	487	52.8	162	60.4	計	488	41.0	161	13.5			
	29年3月卒	岩手	8	6	2	5	62.5	4	66.7	1	50.0	計	371	40.2	116	12.6		
		男										117	43.7	45	16.8			
		女										5	62.5					
	全国	1,133	901	232	409	36.1	315	35.0	94	40.5	計	409	36.1					
											315	35.0						
											94	40.5						

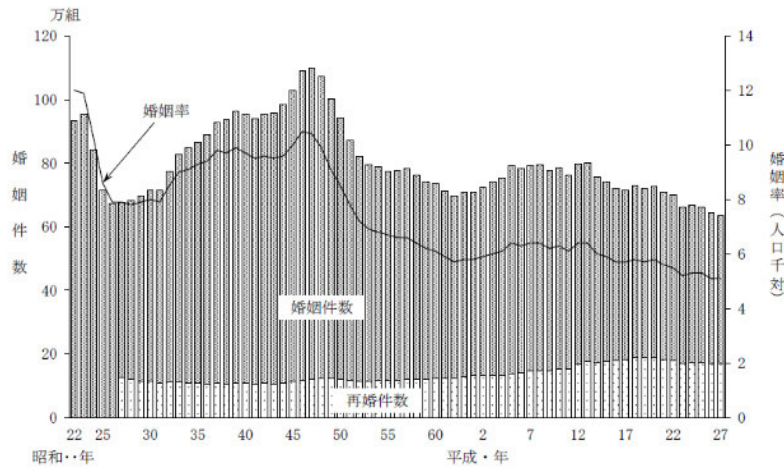
※ 事業所からハローワークに対して、新規学卒者として雇用保険の加入届が提出された新規被保険者資格取得者の生年月日、資格取得加入日等、資格取得理由から各学歴ごとに新規学校卒業者と指定される就職者数を算出し、更にその離職日から離職者数・離職率を算出している。
 ※ 雇用保険適用事業所の所在地を元に計上されるため、必ずしも岩手県内で採用された者の離職のみを意味するものではない。
 ※ 3年目までの離職率は、四捨五入の関係で1年目、2年目、3年目の離職率の合計と一致しないことがある。
 ※ 被保険者資格喪失の届出の関係で、前年度集計から変更が生じている場合がある。

出所：厚生労働省岩手労働局「新規学卒就職者の離職率」2018年

3 結婚

全国の終戦後の婚姻件数の年次推移を見ると、婚姻件数は終戦直後に急減したのち回復し、1970年にピークを迎えた。以降長期的に減少を続けている。婚姻率（人口千人あたりの婚姻件数）も減少を続け、1970年代と比較すると半分程度まで減少している。

図表 3-1-12 婚姻件数及び婚姻率（人口千対），1947-2015 年



出所：厚生労働省『平成 28 年度人口動態統計特殊報告「婚姻に関する統計」』の概況から引用

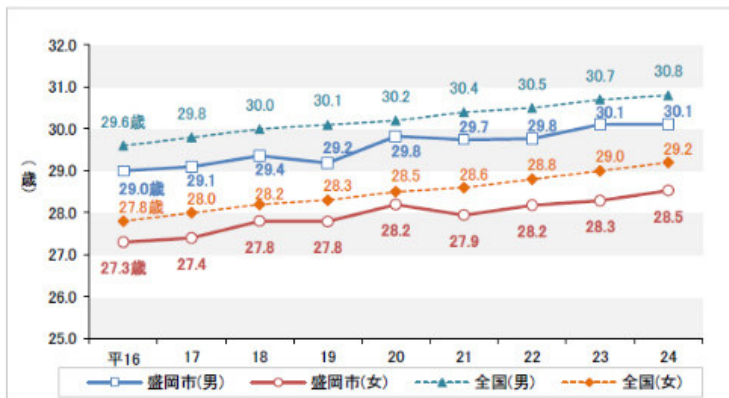
図表 3-1-13 夫婦の平均婚姻年齢及び年齢差，1975-2015 年

年次	(再婚 夫妻とも日本)										(再婚 夫妻とも外国)							
	全婚姻		夫妻とも初婚		平均婚姻年齢		去再婚-再初婚		夫妻とも再婚		全婚姻		夫妻とも初婚		夫妻とも再婚			
	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻	夫	妻		
昭和 50 年	27.7	25.1	26.9	24.4	29.6	29.9	36.1	30.4	40.3	36.2	2.6	2.5	△ 0.3	5.7	4.2			
55	28.7	25.9	27.7	25.0	30.9	31.1	36.2	30.2	40.6	36.8	2.8	2.7	△ 0.2	6.0	3.9			
60	29.2	26.4	28.0	25.3	32.4	32.3	36.7	29.9	42.0	38.3	2.9	2.7	0.1	6.8	3.7			
平成 2	29.5	26.8	28.1	25.6	32.9	32.8	36.5	29.3	43.5	39.7	2.7	2.5	0.1	7.2	3.8			
7	29.6	27.3	28.2	26.1	33.0	32.9	36.2	29.2	44.3	40.6	2.4	2.1	0.0	7.0	3.7			
12	30.0	28.1	28.4	26.7	32.8	33.0	35.9	29.7	44.5	41.0	1.9	1.6	△ 0.2	6.2	3.5			
13	30.1	28.3	28.5	26.9	32.8	33.1	35.8	29.8	44.1	40.7	1.9	1.6	△ 0.3	6.0	3.5			
14	30.4	28.5	28.7	27.1	33.0	33.3	35.9	30.1	43.9	40.6	1.9	1.6	△ 0.3	5.9	3.4			
15	30.8	28.9	28.9	27.4	33.2	33.5	36.2	30.3	44.1	40.7	1.9	1.6	△ 0.3	5.8	3.4			
16	31.0	29.1	29.1	27.6	33.5	33.8	36.4	30.5	44.0	40.7	1.9	1.6	△ 0.3	5.9	3.3			
17	31.2	29.3	29.3	27.7	33.6	33.9	36.5	30.6	44.3	41.1	1.9	1.6	△ 0.4	5.9	3.3			
18	31.4	29.5	29.4	27.9	33.8	34.1	36.7	30.9	44.1	40.9	1.9	1.5	△ 0.3	5.9	3.2			
19	31.6	29.7	29.6	28.0	33.9	34.3	36.9	31.0	44.2	41.0	1.9	1.6	△ 0.4	5.9	3.2			
20	31.7	29.8	29.7	28.1	34.2	34.6	37.2	31.3	44.3	41.2	1.9	1.6	△ 0.4	5.9	3.2			
21	31.9	30.0	29.9	28.3	34.4	34.8	37.4	31.6	44.7	41.5	1.9	1.6	△ 0.3	5.9	3.2			
22	32.1	30.2	30.0	28.5	34.7	35.0	37.8	31.9	45.0	41.7	1.9	1.6	△ 0.3	5.9	3.2			
23	32.3	30.4	30.2	28.6	35.0	35.3	38.0	32.1	45.2	42.0	1.9	1.6	△ 0.4	5.9	3.1			
24	32.6	30.6	30.3	28.8	35.2	35.6	38.4	32.4	45.5	42.3	2.0	1.6	△ 0.3	6.0	3.2			
25	32.7	30.8	30.4	28.9	35.4	35.7	38.5	32.5	45.5	42.3	2.0	1.6	△ 0.3	6.0	3.2			
26	32.9	30.9	30.6	29.0	35.6	35.8	38.8	32.8	45.8	42.6	2.0	1.6	△ 0.2	6.1	3.2			
27	33.0	31.0	30.6	29.0	35.6	35.9	39.1	33.0	46.0	42.8	2.0	1.6	△ 0.3	6.1	3.2			

注：平均婚姻年齢とは、各届出年に結婚生活に入り届け出たものについて、結婚式をあげたときまたは同居を始めたときのうち早いほうの年齢の平均である。

出所：厚生労働省『平成 28 年度人口動態統計特殊報告「婚姻に関する統計」』の概況から引用
注) 夫婦とも日本人。

図表 3-1-14 初婚年齢の推移，2004-2012 年，盛岡市



出所：岩手県保健福祉年報より本市作成

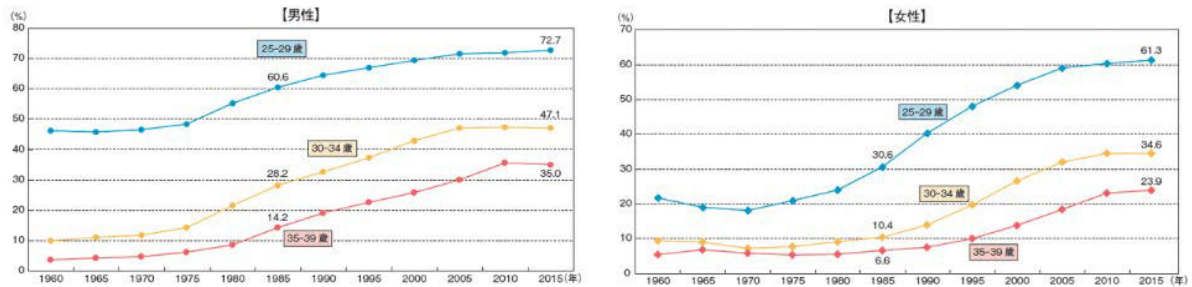
出所：盛岡市『人口ビジョン』（2017 年）から引用

全国の平均婚姻年齢の年次推移をみると、男女とも年々上昇傾向にあり、1975 年と 2015 年を比較すると男女とも 5-6 歳程度上昇している。また、男女の年齢差は縮小している。

盛岡市における 2004 年から 2012 年にかけての初婚年齢も、全国と同様、上昇傾向で推移している。

全国の年齢階級別未婚率の推移を見ると、長期的に未婚率の上昇が続いている。男性の35-39歳区分では、1985年から2015年にかけて2.5倍に増加し、同女性では3.6倍に増加している。

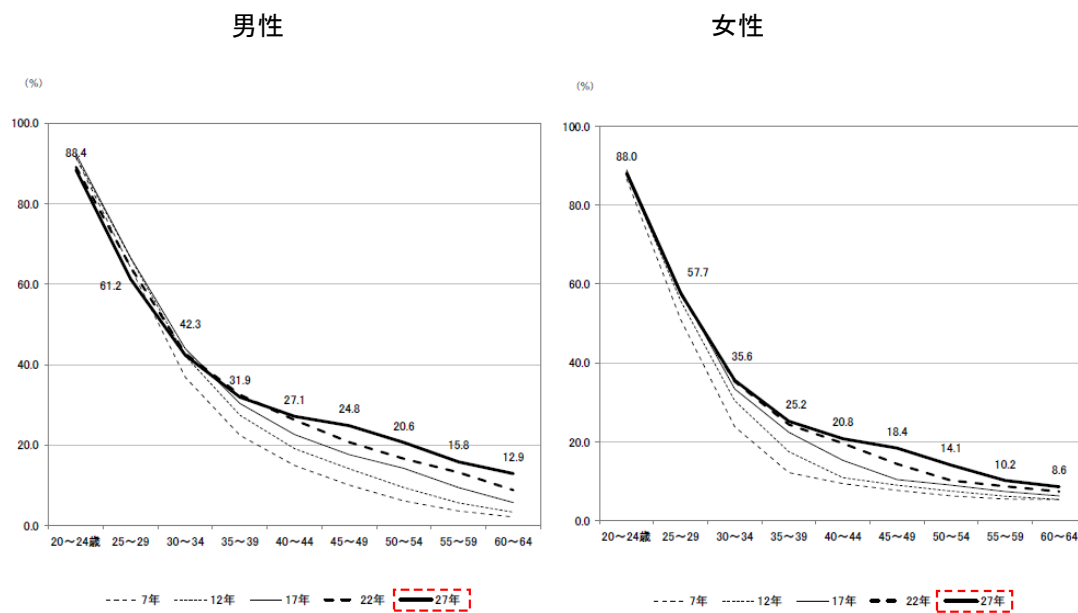
図表 3-1-15 年齢階級別未婚率の推移, 1960-2015年



出所：内閣府ホームページから引用 <https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/data/mikonritsu.html>

盛岡市の年齢階級別未婚率の推移を見ると、全国と同様に長期的に未婚率の上昇が続いている。

図表 3-1-16 盛岡市の年代別未婚率



出所：盛岡市『人口ビジョン』から引用

第2 大都市と地方の若者の価値観・行動様式の比較

第2では、東京圏に在住する若者と、盛岡広域に在住する若者の価値観や行動様式を比較することで、現代の若者の姿を浮き彫りにする。

なお、本研究は、一般財団法人静岡経済研究所が実施した「若年女性の流出問題を考える」を参考として岩手県立大学と盛岡市が2018年から2019年にかけて実施している協働研究「若者の社会動態の分析と関係人口を機軸とした移住・定住施策の推進について」のうち、2018年に実施したインターネット調査の一部を抜粋した。

1 全体の調査概要

調査方法 : インターネットによるアンケート調査

調査実施者 : 岩手県立大学及び盛岡市が(株)マクロミルに委託して実施

調査対象 : 盛岡広域に在住経験のある15-39歳の男女412人

アンケート回答者として(株)マクロミル及び協力企業にあらかじめ登録された者の中で、盛岡広域に居住歴がある者の回答を先着順で回収したため、属性ごとの出現率にばらつきがある。

実施時期 : 2018年7月

2 盛岡と東京の若者の価値観や行動様式の比較

若者個々の主観を把握するため、東京圏に在住する若者と、盛岡広域に在住する若者の価値観や行動様式を比較する。比較にあたって、回答者の中から以下の条件を満たす者262名を抽出し、以下の4つの組に分けて傾向を分析した。なお、件数が少ないため、全体を代表していないことに留意が必要である。本調査では埼玉県、東京都、千葉県、神奈川県を総称して首都圏と称していたため、表中で「首都圏」と表示していることがある。また、盛岡市及び盛岡広域を合わせて「盛岡」と称していることがある。

(a) 「ずっと岩手盛岡組」 岩手県内の学校に進学し、盛岡広域に就職したもの

(b) 「Uターン組」 東京圏の学校に進学し、盛岡広域に就職したもの

(c) 「進学時流出組」 東京圏の学校に進学し、東京圏に就職したもの

(d) 「就職時転出組」 岩手県内の学校に進学し、東京圏に就職したもの

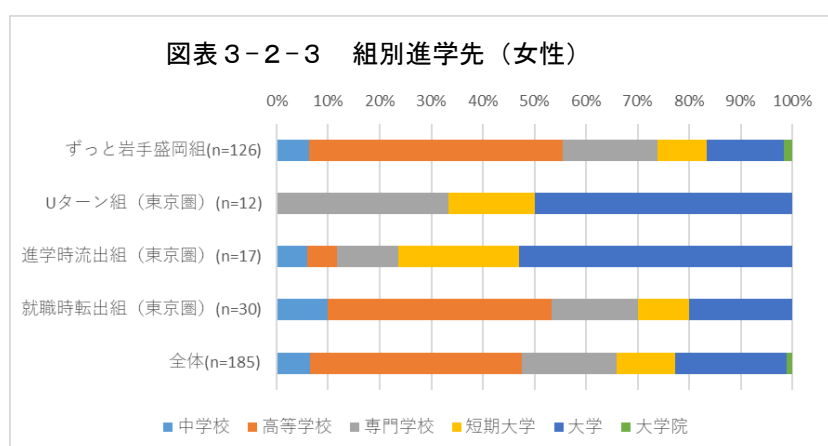
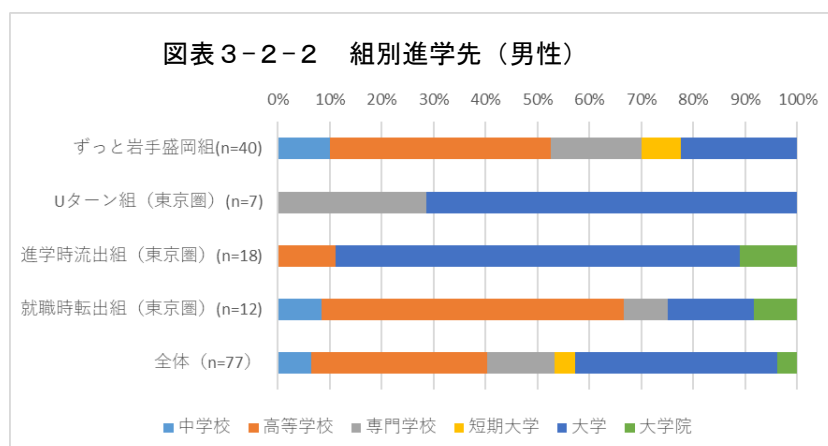
なお、「Uターン組」と「進学時流出組」を合わせて「東京圏進学グループ」と呼び、「進学時流出組」と「就職時転出組」を合わせて「東京圏就職グループ」と呼ぶ。また、「ずっと岩手盛岡組」と「Uターン組」を合わせて「盛岡広域就職グループ」と呼ぶ。

図表3-2-1 組別の分布

上段:度数 下段:%	性別		
	男性	女性	合計
ずっと岩手盛岡組	40	126	166
	24.1	75.9	100.0
Uターン組(首都圏)	7	12	19
	36.8	63.2	100.0
進学時流出組(首都圏)	18	17	35
	51.4	48.6	100.0
就職時転出組(首都圏)	12	30	42
	28.6	71.4	100.0
全体	77	185	262
	29.4	70.6	100.0

進学先(最終学校)は「ずっと岩手盛岡組」「就職時転出組」では男女とも中学・高等

学校が半数を超え、残りを専門学校、短大、大学が構成している。「Uターン組」「進学時流出組」は男女とも大学・短大が7割を超え、残りのほとんどを専門学校が占めている。



本調査の回答者の年齢区分は、30代がおおよそ回答者の60%を占めており、残りのほとんどを20代が占めている。男女とも「ずっと岩手盛岡組」「Uターン組」「就職時転出組」では年齢区分が上がるほど回答者は増加するが、「進学時流出組」は25-29歳及び30-34歳区分の回答者が多い。

図表 3-2-4 組別の年齢区分

男性	上段:度数 下段:%	AGEID					合計
		15才~19才	20才~24才	25才~29才	30才~34才	35才~39才	
code2	ずっと岩手盛岡組	3 7.5	4 10.0	7 17.5	6 15.0	20 50.0	40 100.0
	Uターン組(首都圏)	-	-	1 14.3	1 14.3	5 71.4	7 100.0
	進学時流出組(首都圏)	1 5.6	2 11.1	10 55.6	2 11.1	3 16.7	18 100.0
	就職時転出組(首都圏)	-	-	1 8.3	4 33.3	7 58.3	12 100.0
	全体	4 5.2	6 7.8	19 24.7	13 16.9	35 45.5	77 100.0

女性	上段:度数 下段:%	AGEID					合計
		15才~19才	20才~24才	25才~29才	30才~34才	35才~39才	
code2	ずっと岩手盛岡組	3 2.4	21 16.7	18 14.3	47 37.3	37 29.4	126 100.0
	Uターン組(首都圏)	-	1 8.3	4 33.3	1 8.3	6 50.0	12 100.0
	進学時流出組(首都圏)	-	1 5.9	5 29.4	7 41.2	4 23.5	17 100.0
	就職時転出組(首都圏)	-	1 3.3	9 30.0	10 33.3	10 33.3	30 100.0
	全体	3 1.6	24 13.0	36 19.5	65 35.1	57 30.8	185 100.0

本調査の回答者の婚姻状況は、男女とも未婚者のほうが多い。男女とも「ずっと岩手盛岡組」の未婚率が高い。男性では「進学時流出組」の未婚率が高く、女性にあっては「Uターン組」の未婚率が高い。

図表 3-2-5 組別の婚姻状況

男性	上段:度数 下段:%	MARRIED		
		未婚	既婚	合計
code2	ずっと岩手盛岡組	25 62.5	15 37.5	40 100.0
	Uターン組(首都圏)	4 57.1	3 42.9	7 100.0
	進学時流出組(首都圏)	14 77.8	4 22.2	18 100.0
	就職時転出組(首都圏)	5 41.7	7 58.3	12 100.0
	全体	48 62.3	29 37.7	77 100.0

女性	上段:度数 下段:%	MARRIED		
		未婚	既婚	合計
code2	ずっと岩手盛岡組	68 54.0	58 46.0	126 100.0
	Uターン組(首都圏)	8 66.7	4 33.3	12 100.0
	進学時流出組(首都圏)	8 47.1	9 52.9	17 100.0
	就職時転出組(首都圏)	12 40.0	18 60.0	30 100.0
	全体	96 51.9	89 48.1	185 100.0

本調査で、中位所得が最も高いのは「就職時転出組」で、「進学時流出組」、「Uターン組」とつづき、「ずっと岩手盛岡組」が最も低い。男性は正規分布に近い釣鐘状に分布しているが、女性は所得が高い人を頂点にしたピラミッド型に分布している。

図表 3-2-6 組別の所得状況(個人)

男性	上段:度数 下段:%	PINCOME							合計
		200万未満	200~400万	400~600万	600~800万	800~1000	1000~1200	わからない	
code2	ずっと岩手盛岡組	12 30.0	19 47.5	5 12.5	1 2.5	-	-	3 7.5	40 100.0
	Uターン組(首都圏)	1 16.7	4 66.7	1 16.7	-	-	-	-	6 100.0
	進学時流出組(首都圏)	3 16.7	6 33.3	5 27.8	3 16.7	-	-	1 5.6	18 100.0
	就職時転出組(首都圏)	-	2 18.2	5 45.5	4 36.4	-	-	-	11 100.0
	全体	16 21.3	31 41.3	16 21.3	8 10.7	-	-	4 5.3	75 100.0

女性	上段:度数 下段:%	PINCOME							合計
		200万未満	200~400万	400~600万	600~800万	800~1000	1000~1200	わからない	
code2	ずっと岩手盛岡組	58 50.0	45 38.8	5 4.3	-	-	-	8 6.9	116 100.0
	Uターン組(首都圏)	4 40.0	3 30.0	-	-	-	-	3 30.0	10 100.0
	進学時流出組(首都圏)	7 53.8	2 15.4	1 7.7	1 7.7	-	1 7.7	1 7.7	13 100.0
	就職時転出組(首都圏)	10 38.5	9 34.6	4 15.4	1 3.8	-	-	2 7.7	26 100.0
	全体	79 47.9	59 35.8	10 6.1	2 1.2	-	1 0.6	14 8.5	165 100.0

本調査における調査対象者の両親の最終学歴を分析したのが次の図表である。なお、表中「大学等」は大学及び大学院を指し、「短大・専門」は短期大学及び専門学校を指し、「高・中」は高等学校及び中学校を指す。男女とも「ずっと岩手盛岡組」では、両親とも高等学校卒、中学校卒の構成比が約半数を占める。「進学時流出組」では、両親の学

歴が高い層の構成比が高くなる。岩手県内では大学進学率が全国に比較して低いが、数少ない大卒者の子が東京圏に転出する比率が高いことは、東京圏に子どもを学生として送り出すことができる親の経済力を反映しているものと考えられる。「就職時転出組」では、両親の学歴が高い層が一定割合で含まれており、子どもの経済力に頼らない親の比率が高いものと考えられる。

図表 3-2-7 組別の両親の最終学歴

男性	上段:度数 下段:%	Q4											合計	
		両親とも大 学等	父親が大学 等 母親が短 大・専門 中	父親が大学 等 母親が高・ 大・専門 中	両親とも短 大・専門 中	父親が短 大・専門 母親が高・ 中	父親が高・ 中 母親が大学 等	父親が高・ 中 母親が短 大・専門 中	両親とも 高・中	父子家庭 で、父親が 高・中	母子家庭 で、母親が 短大・専門 高・中	母子家庭 で、母親が 高・中		わからない
code2	ずっと岩手盛岡組	2	1	4	-	1	-	2	20	-	-	1	9	40
	Uターン組(首都 圏)	5.0	2.5	10.0	-	2.5	-	5.0	50.0	-	-	2.5	22.5	100.0
	進学時転出組(首 都圏)	2	-	-	1	-	-	4	-	-	-	-	-	7
	進学時転出組(首 都圏)	28.6	-	-	14.3	-	-	-	57.1	-	-	-	-	100.0
	就職時転出組(首 都圏)	3	5	2	-	-	1	1	6	-	-	-	-	18
	就職時転出組(首 都圏)	16.7	27.8	11.1	-	-	5.6	5.6	33.3	-	-	-	-	100.0
	全体	4	-	2	-	1	-	4	-	-	-	-	1	12
	全体	33.3	-	16.7	-	8.3	-	-	33.3	-	-	-	8.3	100.0

女性	上段:度数 下段:%	Q4											合計	
		両親とも大 学等	父親が大学 等 母親が短 大・専門 中	父親が大学 等 母親が高・ 大・専門 中	両親とも短 大・専門 中	父親が短 大・専門 母親が高・ 中	父親が高・ 中 母親が大学 等	父親が高・ 中 母親が短 大・専門 中	両親とも 高・中	父子家庭 で、父親が 高・中	母子家庭 で、母親が 短大・専門 高・中	母子家庭 で、母親が 高・中		わからない
code2	ずっと岩手盛岡組	6	8	15	3	-	2	6	64	2	2	7	11	126
	Uターン組(首都 圏)	4.8	6.3	11.9	2.4	-	1.6	4.8	50.8	1.6	1.6	5.6	8.7	100.0
	進学時転出組(首 都圏)	-	3	1	1	-	-	1	2	-	-	1	3	12
	進学時転出組(首 都圏)	-	25.0	8.3	8.3	-	-	8.3	16.7	-	-	8.3	25.0	100.0
	就職時転出組(首 都圏)	5	4	2	2	1	-	-	2	-	-	-	1	17
	就職時転出組(首 都圏)	29.4	23.5	11.8	11.8	5.9	-	-	11.8	-	-	-	5.9	100.0
	全体	4	2	5	1	-	1	1	11	-	-	1	4	30
	全体	13.3	6.7	16.7	3.3	-	3.3	3.3	36.7	-	-	3.3	13.3	100.0

(1) 進学先を選ぶ基準

進学のために東京圏に進出した者は男性でおよそ 33%、女性で 16%存在した。卒業後にUターンしたものは男性でこのうちの 1/5、女性で 1/3 であり、男性の 4/5、女性の 2/3 は東京圏に転出したままとなることから、東京圏に進学したものは、そのまま東京圏に住み続ける傾向が強いと言える。

一方で、岩手県内の学校に進学した者は男性でおよそ 67%、女性で 84%存在した。卒業後に東京に進出したものは、男性でおよそ 1/4、女性で 1/5 であり、男性の 3/4、女性の 4/5 は盛岡広域に住み続けている。

東京圏就職グループでは、男女とも進学先が東京圏でも岩手県内のいずれでも、「将来就きたい仕事に必要なから」「将来の選択肢を増やすため」など、仕事選択に対する合目的性をもって進学先選択をしている傾向が強い。

岩手県内や盛岡広域を進学先として選択したものでは、男女とも「実家から通えるから」を重視している傾向が強く、特に女性でその比率が高い。

アンケート結果によれば、男性と女性では、女性がより具体的な将来の仕事をイメージして進学先を選択している傾向が読み取れる。

ずっと岩手盛岡組の男性が、県内の進学先を選択した基準として半数以上が“重視した”“やや重視した”と回答した項目は、「興味がある分野を学びたかったから」「実家から通えるから」の 2/15 項目あった。

ずっと岩手盛岡組の女性が、県内の進学先を選択した基準として半数以上が“重視した”“やや重視した”と回答した項目は、「実家から通えるから」の 1/15 項目あった。

ずっと岩手盛岡組の男女で比較すると、「興味がある分野を学びたかったから」の男女差はわずかであり、男女ともほぼ同じ傾向であることがわかる。

Uターン組の男性が東京圏の進学先を選んだ基準として半数以上が“重視した”“やや重視した”と回答した項目は、0/15 項目で、“どちらともいえない”の回答比率が高い。

Uターン組の女性が東京圏の進学先を選んだ基準として半数以上が“重視した”“やや重視した”と回答した項目は、「興味ある分野を学びたかったから」「将来の選択肢を増やすため」「校風や雰囲気」「就職実績がある」「知名度やブランド力があつたから」「大都会で生活できるから」「周辺に娯楽が充実しているから」「おしゃれな場所にすぐ行けるから」「先生や親の意見」の9/15項目あつた。

Uターン組の男女の傾向を比較すると、女性で重視した項目が圧倒的に多い。

進学時流出組の男性が東京圏の進学先を選んだ基準として半数以上が“重視した”“やや重視した”と回答した項目は、「将来就きたい仕事に必要なだから」「興味がある分野を学びたかったから」「将来の選択肢を増やすため」「校風や雰囲気」「就職実績がある」「一人暮らしができるから」「偏差値が高かつたから」「すべり止めで合格したから」「知名度やブランド力があつたから」「大都会で生活できるから」「オシャレな場所にすぐいけるから」「先生や親の意見」「学業以外（スポーツ・趣味）が充実しているから」の13/15項目あつた。

進学時流出組の女性が東京圏の進学先を選んだ基準として半数以上が“重視した”“やや重視した”と回答した項目は、「将来就きたい仕事に必要なだから」「興味がある分野を学びたかったから」「将来の選択肢を増やすため」「校風や雰囲気」「一人暮らしができるから」の5/15項目あつた。

進学時流出組の男女の傾向を比較すると、男性で重視する項目が多く、「就職実績がある」「偏差値が高かつたから」「すべり止めで合格したから」「知名度やブランド力があつたから」「大都会で生活できるから」「オシャレな場所にすぐいけるから」「先生や親の意見」「学業以外（スポーツ・趣味）が充実しているから」を積極的に評価していることが伺える。

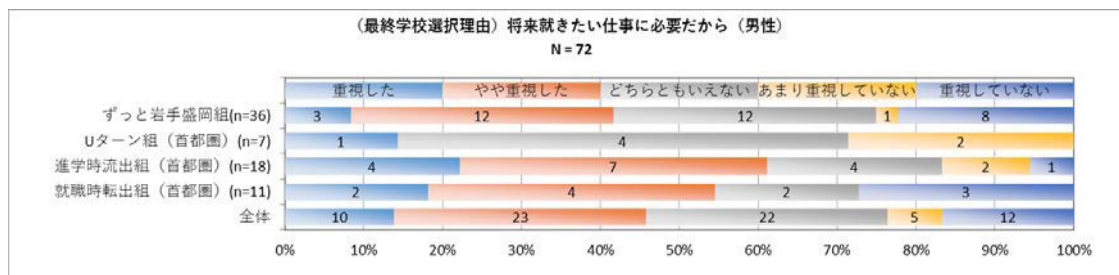
就職時転出組の男性が、県内の進学先を選択した基準として半数以上が“重視した”“やや重視した”と回答した項目は、「将来就きたい仕事に必要なだから」「興味がある分野を学びたかったから」「将来の選択肢を増やすため」「一人暮らしができるから」「すべり止めで合格したから」の5/15項目あつた。

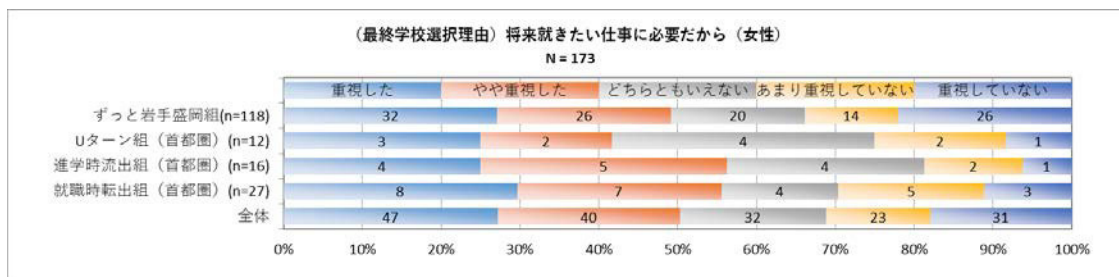
就職時転出組の女性が、県内の進学先を選択した基準として半数以上が“重視した”“やや重視した”と回答した項目は、「将来就きたい仕事に必要なだから」「興味がある分野を学びたかったから」「将来の選択肢を増やすため」「校風や雰囲気」「実家から通えるから」の5/15項目あつた。

就職時転出組の男女を比較すると、男性では「一人暮らしができるから」「すべり止めで合格したから」が多く、女性では「校風や雰囲気」「実家から通えるから」が多い。

ア 将来就きたい仕事に必要なだから

進学先を選択するにあたって将来就きたい仕事に必要なであることを「重視した」「やや重視した」比率は、女性でやや高い。男女とも進学時流出組で重視している比率が最も高く、次いで就職時転出組、ずっと岩手盛岡組が次ぎ、Uターン組が著しく少ない。東京圏就職グループで、進学先選択と希望の仕事との関連がやや高いといえる。「重視していない」「あまり重視していない」比率は、ずっと岩手盛岡組、就職時転出組で高い。



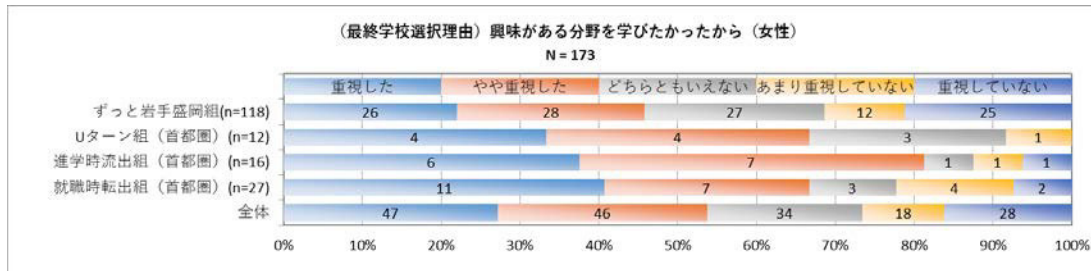
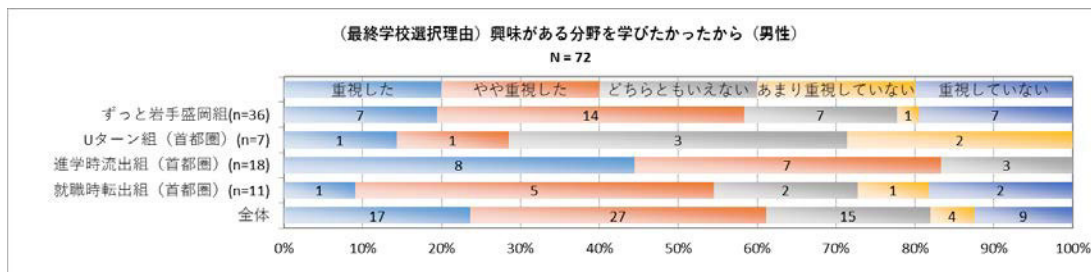


イ 興味がある分野を学びたかったから

進学先を選択するにあたって、興味がある分野の学びを「重視した」「やや重視した」比率は、男性で高い。男性では、進学時流出組が著しく高く、ずっと岩手盛岡組、就職時転出組が次ぎ、Uターン組の比率が著しく低い。

女性では進学時流出組、就職時転出組、Uターン組の順に高く、ずっと盛岡岩手組の比率が著しく低い。

男女とも、「将来就きたい仕事に必要なから」に比べて本項目を重視している比率が高く、進学は自分の知識や経験の蓄積が主眼であると考えられている傾向がみられる。

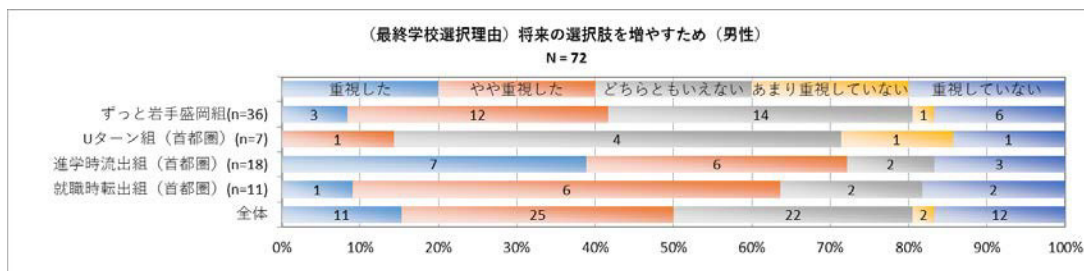


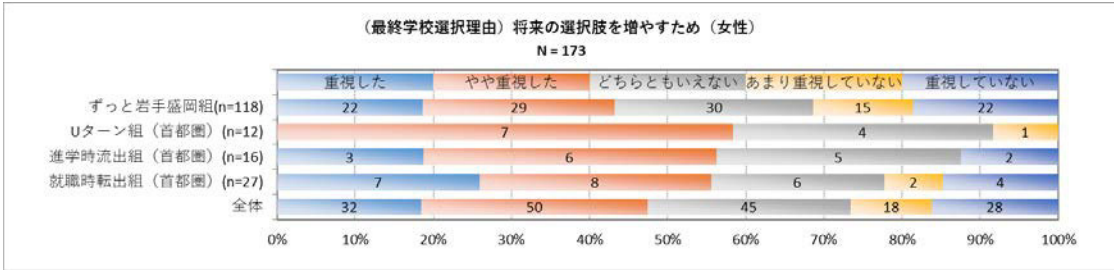
ウ 将来の選択肢を増やすため

進学先を選択するにあたって、将来の選択肢を増やすために「重視した」「やや重視した」比率は、男性がやや高い。男性では、進学時流出組、就職時転出組が高く、Uターン組の比率が著しく低い。女性ではUターン組、進学時流出組、就職時転出組が高い。

設問「将来就きたい仕事に必要なから」と比較すると、男性の進学時流出組と女性のUターン組で重視した比率が高い。

また、就職時転出組とずっと岩手盛岡組を比較すると、就職時転出組で男女とも本項目に重点を置いている比率が高い。

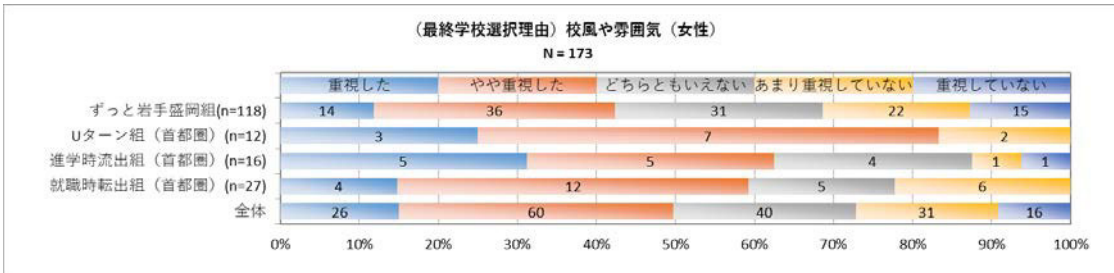
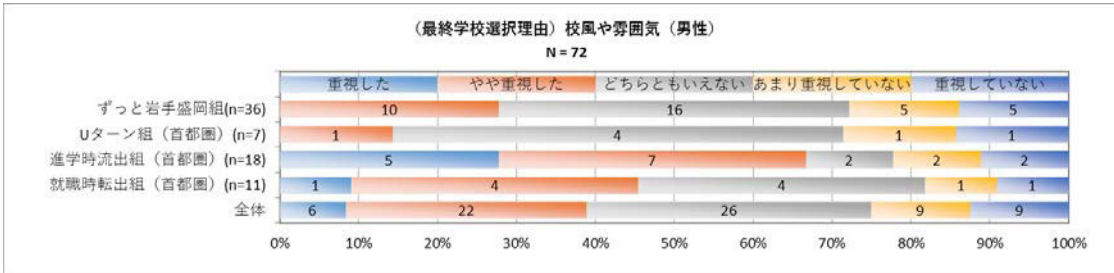




エ 校風や雰囲気

進学先を選択するにあたって、校風や雰囲気を「重視した」「やや重視した」比率は、女性の比率が高い。女性ではUターン組が著しく高く、進学時流出組、就職時転出組がそれに次ぐ。男性では進学時流出組が特に高く、就職時転出組がそれに次ぎ、ずっと岩手盛岡組が著しく低い。

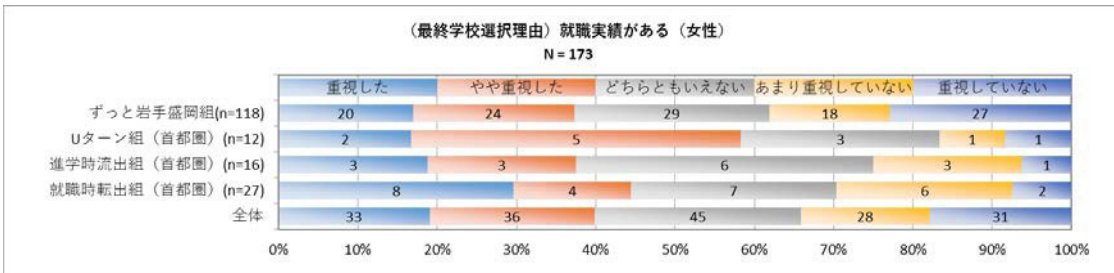
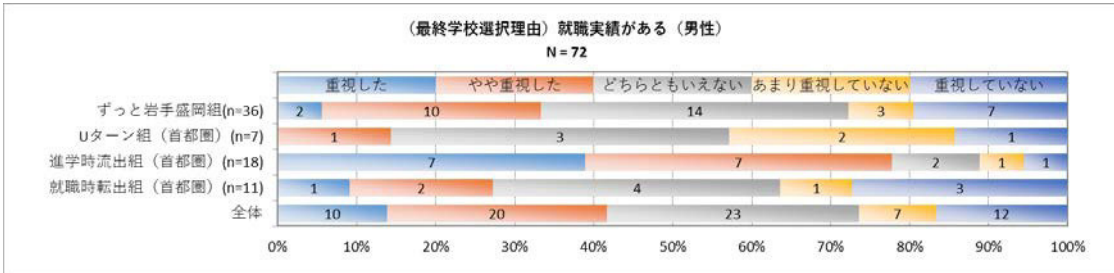
女性が重点をおく傾向が強い価値基準であると考えられる。



エ 就職実績がある

進学先を選択するにあたって、就職実績を「重視した」「やや重視した」比率は、男女とも半数を超えない

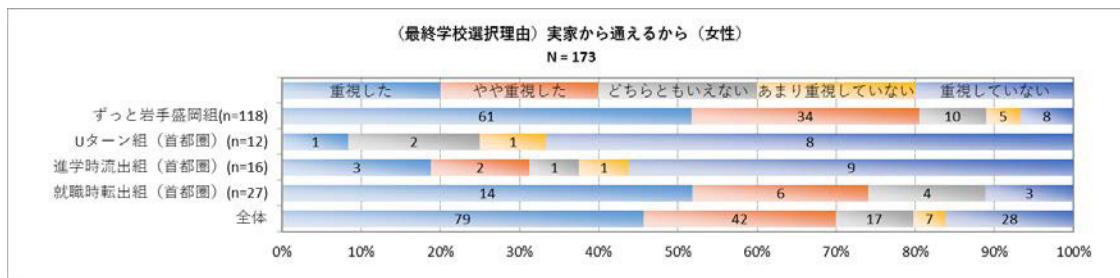
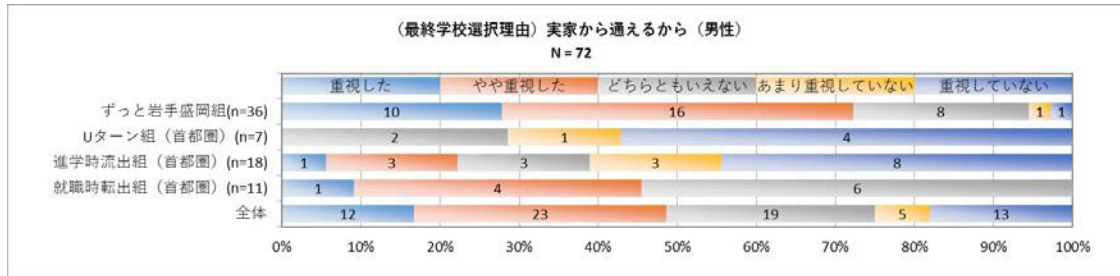
男性では進学時流出組が著しく高く、女性ではUターン組が著しく高い。



オ 実家から通えるから

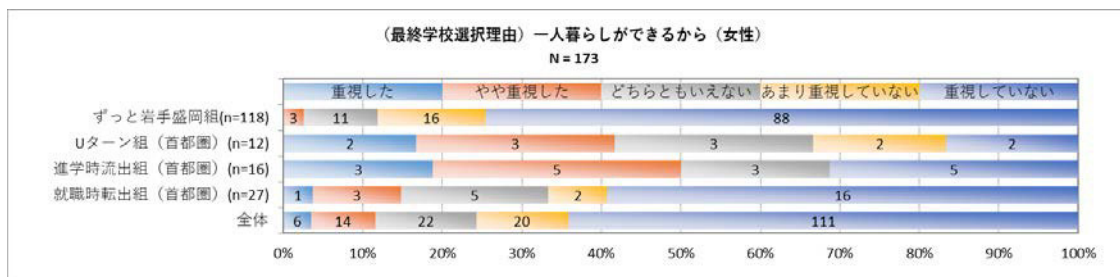
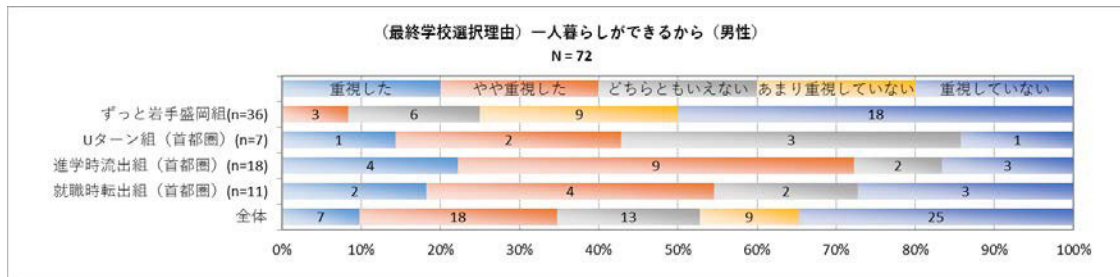
進学先を選択するにあたって、実家から通えるからを「重視した」「やや重視した」比率は、男女とも、ずっと岩手盛岡組と就職時転出組で高い。

男性でずっと岩手盛岡組と就職時転出組を比較すると、ずっと岩手盛岡組で重点を置く傾向が強く、就職時転出組では低い。一方で、女性では、ずっと岩手盛岡組も就職時転出組の両方とも高い重点配分をしている。このことから、より女性が重点をおいている項目であると考えられる。



カ 一人暮らしができるから

進学先を選択するにあたって、一人暮らしができるからを「重視した」「やや重視した」比率は、男性の比率が高く、進学時流出組、Uターン組で高い。女性では、進学時流出組、Uターン組とも半数に達していない。前の設問と合わせて考えると、実家志向は女性のほうが強く、一人暮らし志向は男性のほうが強いことがうかがえる。

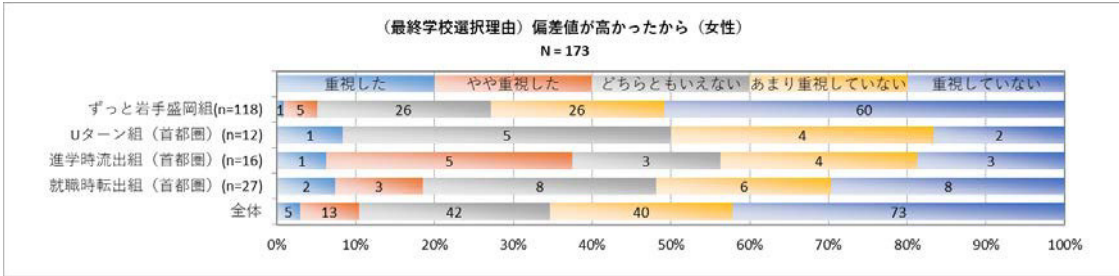
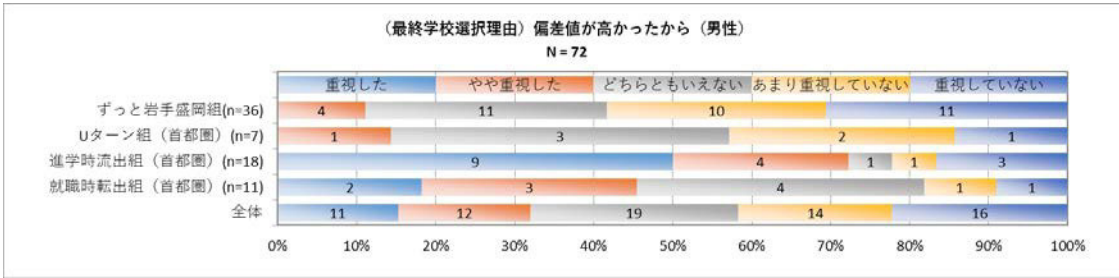


キ 偏差値が高かったから

進学先を選択するにあたって、偏差値の高さを「重視した」「やや重視した」比率は、男性の進学時流出組で極めて高く、女性の進学時流出組がそれに次ぐ。一方で、Uターン組ではこの項目が低い、偏差値が高かった学校に進学した若者が東京に残っている可能性もある。

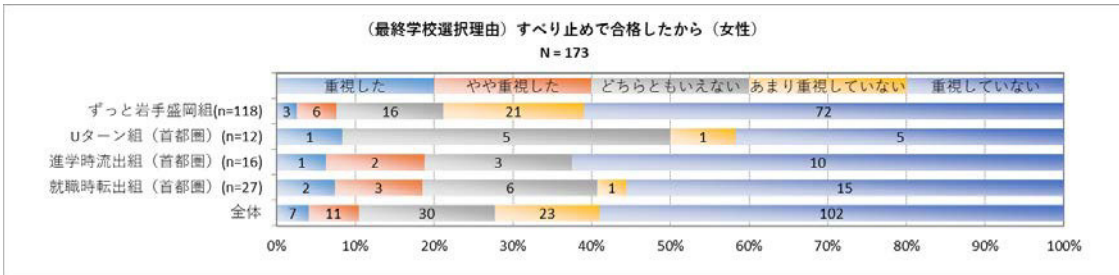
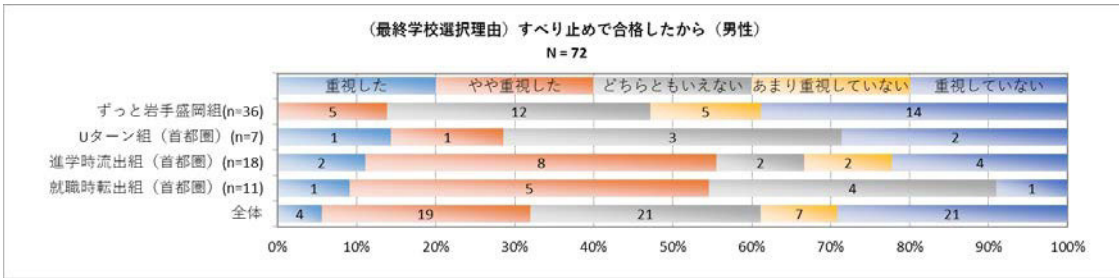
ずっと岩手盛岡組と就職時転出組では比率が低くなっている。また、女性では「あまり重視していない」「重視していない」の比率が高く、男性が重点をおく傾向があると考

られる。



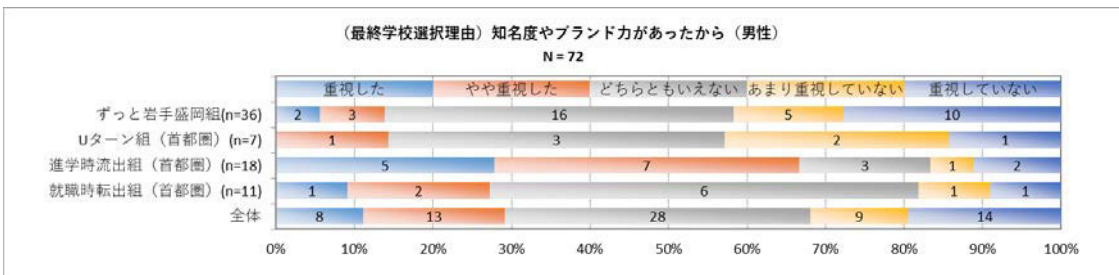
ク すべり止めで合格したから

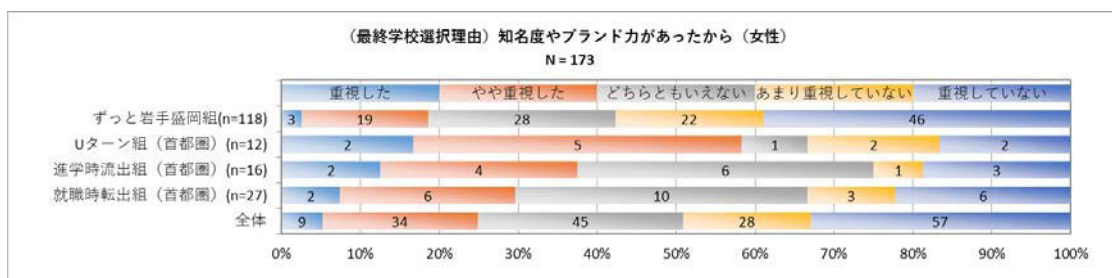
進学先を選択するにあたって、すべり止めで合格したからを「重視した」「やや重視した」比率は、男性の進学時流出組及び就職時転出組で高い。女性では極めて少なく「あまり重視していない」「重視していない」の構成比が高い。男性が重点をおく傾向があると考えられる。



ケ 知名度やブランド力があったから

進学先を選択するにあたって、知名度やブランド力を「重視した」「やや重視した」比率は、男性の進学時流出組及び女性のUターン組で極めて高い。ずっと岩手盛岡組では、「あまり重視していない」「重視していない」の構成比が高く、女性では特に顕著である。

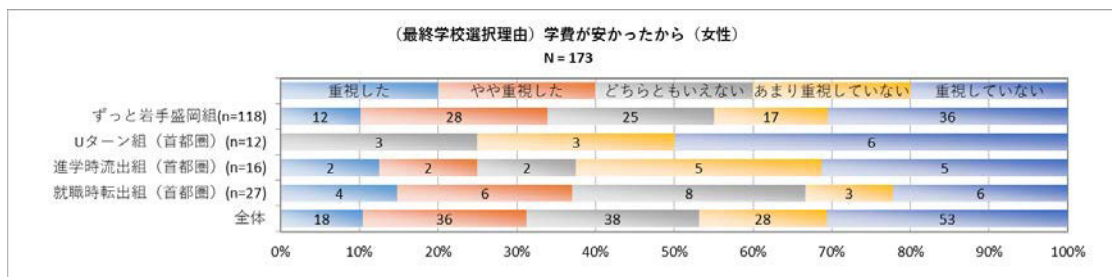
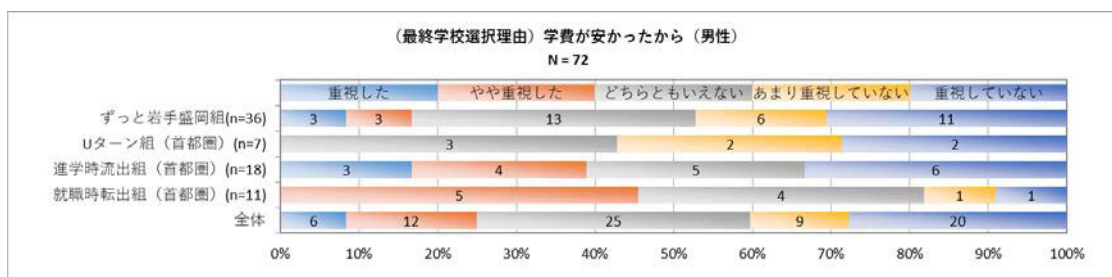




コ 学費が安かつたから

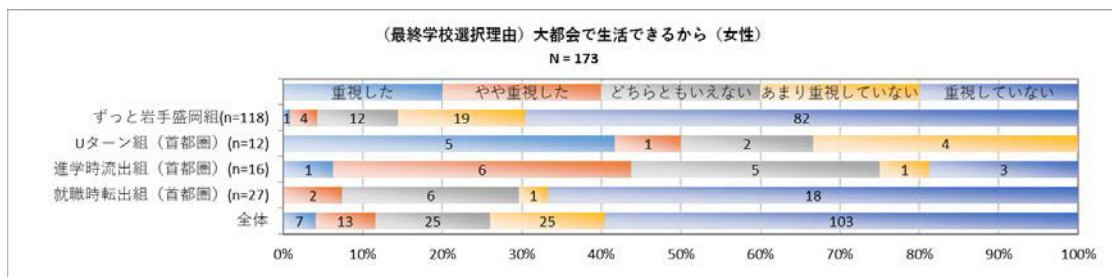
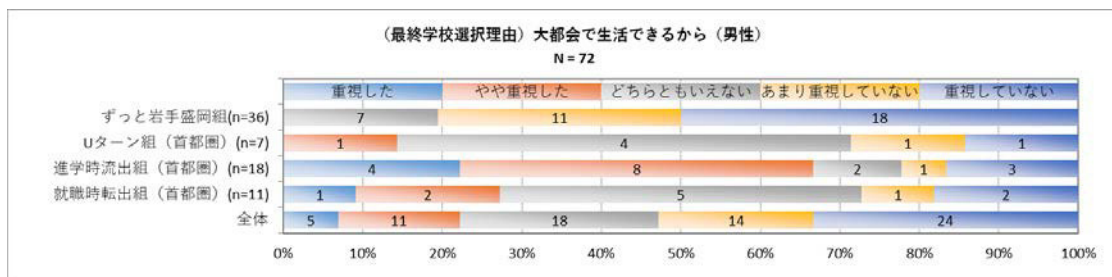
進学先を選択するにあたって、学費の安さを「重視した」「やや重視した」比率は過半数を超えない。学費は親が負うことが多いためと考えられる。比較的高い比率を有するのは、男女とも就職時転出組である。

「あまり重視していない」「重視していない」の構成比が最も高いのは男女ともUターン組である。



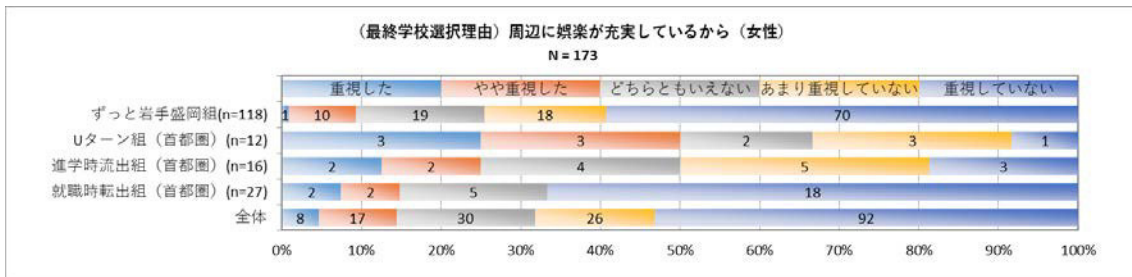
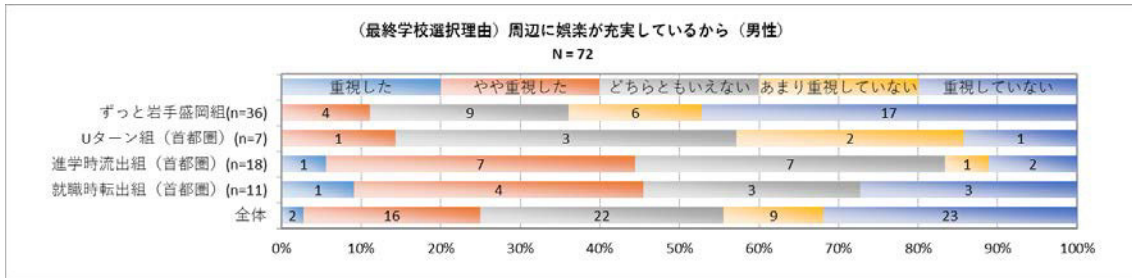
サ 大都会で生活できるから

進学先を選択するにあたって、大都会で生活できるからを「重視した」「やや重視した」比率は、男性では、進学時流出組で半数を超え、女性ではUターン組が半数を占め、進学時流出組がそれに迫る。特に女性では進学先を選択する価値基準の大きな比率を占めていると言える。



シ 周辺に娯楽が充実しているから

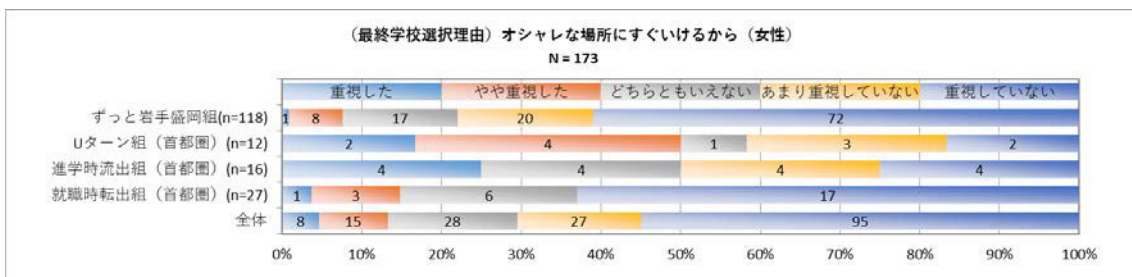
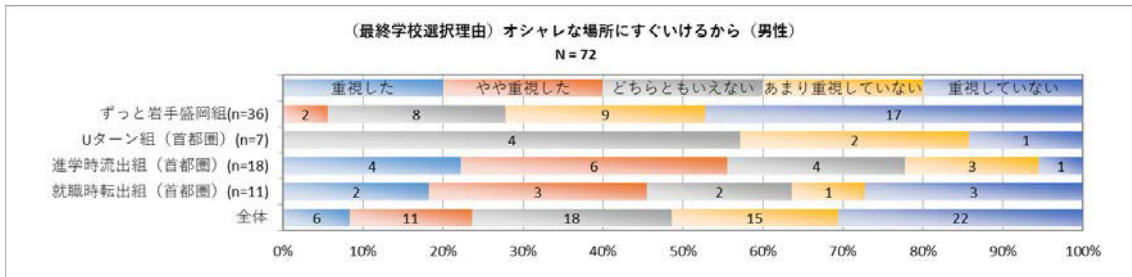
進学先を選択するにあたって、周辺に娯楽が充実しているからを「重視した」「やや重視した」比率は、女性のUターン組で半数を占め、男性では進学時流出組、就職時転出組のおよそ半分に達している。一方で、「あまり重視していない」「重視していない」の比率は、男性のUターン組、女性の進学時流出組で大きい。



ス オシャレな場所にすぐ行けるから

進学先を選択するにあたって、おしゃれな場所にすぐいけるからを「重視した」「やや重視した」比率は、女性のUターン組で半数を占め、男性では進学時流出組、就職時転出組のおよそ半分に達している。一方で、「あまり重視していない」「重視していない」の比率は、男性のUターン組、女性の進学時流出組で大きい。

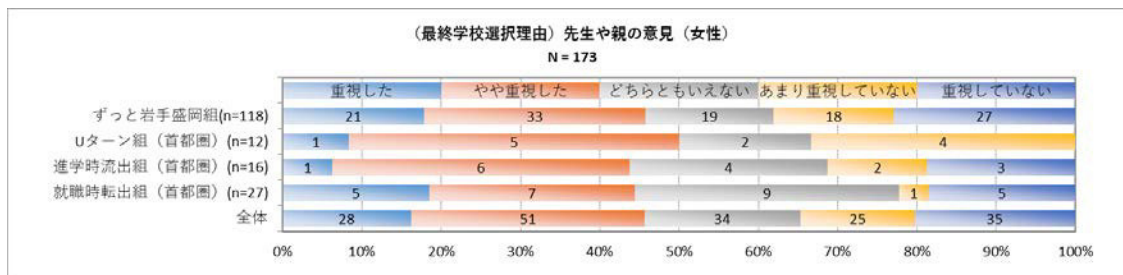
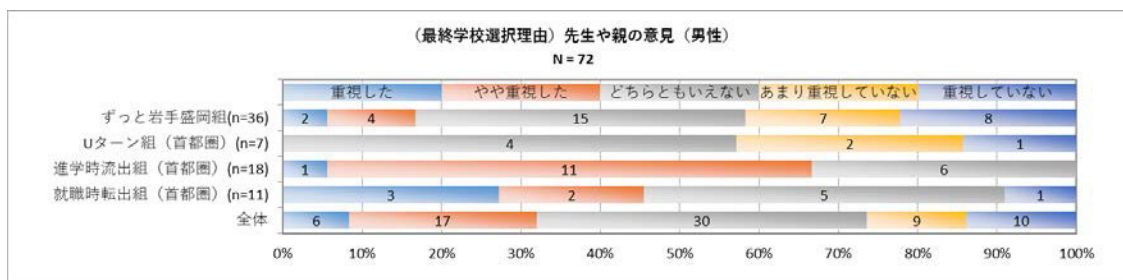
周辺に娯楽が充実しているからの構成比と類似している。



セ 先生や親の意見

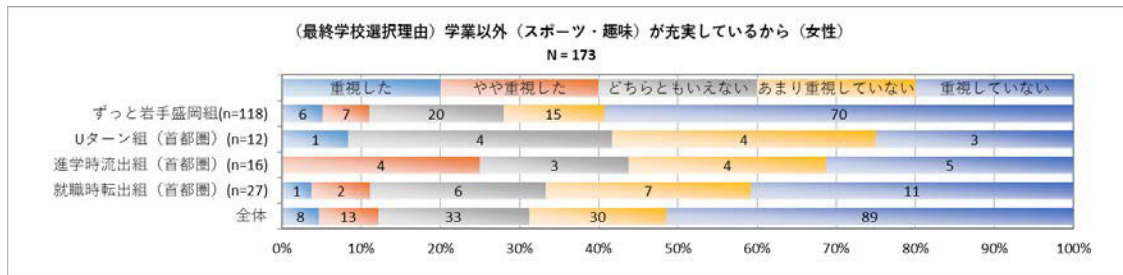
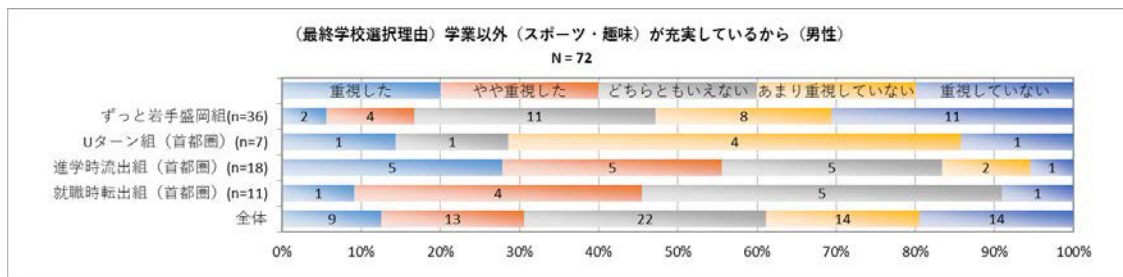
進学先を選択するにあたって、先生や親の意見を「重視した」「やや重視した」比率は、女性のすべての組で半数程度を占めているのに対し、男性では進学時流出組と就職時転出組で際立って高い。

一方で、「あまり重視していない」「重視していない」の比率は、男女ともずっと岩手盛岡組、Uターン組で比率が高い傾向にある。



ソ 学業以外 (スポーツ・趣味) が充実しているから

進学先を選択するにあたって、学業以外 (スポーツ・趣味) が充実しているかを「重視した」「やや重視した」比率は、男性の東京圏就職グループで高い。男性のずっと岩手盛岡組、Uターン組では「あまり重視していない」「重視していない」の比率が高い。また、女性では、すべての組で「あまり重視していない」「重視していない」が過半数を超えている。



(2) 仕事を選択する理由

各組の仕事の分布を確認する。

事務系の正規雇用の会社員の構成比は、男性では就職時転出組が最も高く（58.3%）、進学時流出組が続く（22.2%）。女性では進学時流出組が高い（41.2%）。

専門的な技術を持つ正規雇用会社員の構成比は、男性ではUターン組（42.9%）、就職時転出組（33.3%）、ずっと岩手盛岡組（32.5%）、進学時流出組（22.2%）の順に高く、女性では、ずっと岩手盛岡組（8.7%）と就職時転出組（6.2%）にわずかに存在する。

特別な技術を有しないその他の正規雇用者は、男性ではずっと岩手盛岡組（20.0%）に、女性では就職時転出組（20.0%）、ずっと岩手盛岡組（12.7%）に存在している。

なお、女性では、非正規雇用率が高いほか、専業主婦がおおよそ16%を占めている。また、無職の者がずっと岩手盛岡組とUターン組に存在している傾向がうかがえる。

図表3-2-8 各組の職種の分布

男性		上段人数	Q6																
下段-%			会社経営者・役員	会社員(正規雇用事務系)	会社員(正規雇用技術系)	会社員(正規雇用その他)	公務員(正規職員)	自営業	自由業	専業主婦・専業主夫	パート・アルバイト	派遣社員	契約社員	嘱託	学生	無職	その他【】	合計	
code2	ずっと岩手盛岡組	2	5.0	13	32.5	20.0	8	2	2	-	7.5	-	3	-	5	2	-	40	
	Uターン組(首都圏)	1	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12.5	5.0	1	1	7
	進学時流出組(首都圏)	14.3	14.3	42.9	4	2	2	-	-	-	1	-	-	-	4	-	14.3	14.3	100.0
	就職時転出組(首都圏)	27.8	22.2	11.1	11.1	-	-	-	-	-	5.6	-	-	-	22.2	-	-	-	18
	ずっと岩手盛岡組	7	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	12
	Uターン組	58.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	8.3	-	-	-	-	-	-	100.0
	全体	1	15	24	10	4	2	-	-	-	4	1	3	-	9	3	1	77	
	1.3	19.5	31.2	13.0	5.2	2.6	-	-	-	5.2	1.3	3.9	-	11.7	3.9	1.3	100.0		

女性		上段人数	Q6																
下段-%			会社経営者・役員	会社員(正規雇用事務系)	会社員(正規雇用技術系)	会社員(正規雇用その他)	公務員(正規職員)	自営業	自由業	専業主婦・専業主夫	パート・アルバイト	派遣社員	契約社員	嘱託	学生	無職	その他【】	合計	
code2	ずっと岩手盛岡組	12	9.5	11	8.7	16	12.7	2	1	22	33	1	7	-	10	11	-	126	
	Uターン組(首都圏)	1	-	-	8.3	1	-	-	0.8	17.5	26.2	0.8	5.6	-	7.9	8.7	-	100.0	
	進学時流出組(首都圏)	7	-	-	8.3	1	-	-	1	2	3	-	1	-	4	-	4	12	
	就職時転出組(首都圏)	41.2	-	-	5.9	-	-	-	8.3	16.7	25.0	-	8.3	-	-	-	33.3	-	100.0
	ずっと岩手盛岡組	4	2	6	1	1	3	-	-	3	7	3	-	-	1	-	-	17	
	Uターン組	3.3	13.3	6.7	20.0	3.3	3.3	10.0	23.3	10.0	3.3	-	-	-	-	-	3.3	100.0	
	全体	1	23	13	24	3	3	-	3	30	45	7	9	-	11	15	1	185	
	0.5	12.4	7.0	13.0	1.6	1.6	-	1.6	16.2	24.3	3.8	4.9	-	5.9	8.1	0.5	100.0		

なお、女性と非正規雇用の関係性についてグループごとに識別すると、盛岡広域在住者の未婚者ではパート・アルバイトの比率が高く、全体のおよそ15%に達する。また、Uターン女性では、非正規雇用の比率は25%、無職の比率が25%と極めて高い。

図表3-2-9 女性の非正規雇用の分布

ずっと岩手盛岡組	パート・アルバイト	契約社員	派遣社員	総計	Uターン組	パート・アルバイト	契約社員	派遣社員	総計
未婚	16		3	19	未婚	3		1	4
既婚	17	1	4	22	既婚	0	0	0	0
総計	33	1	7	41	総計	3	0	1	4
進学時流出組	パート・アルバイト	契約社員	派遣社員	総計	就職時流出組	パート・アルバイト	契約社員	派遣社員	総計
未婚	0	2		2	未婚	2	3		5
既婚	2	1	0	3	既婚	5	0	1	6
総計	2	3	1	5	総計	7	3	1	11

盛岡広域就職グループと東京圏就職グループに分けて業種を確認する。なお、本調査項目では、無職の者や専業主婦・専業主夫、学生の属性の者は除いている。

盛岡広域就職グループでは、男性では医療・福祉が最も多く15.4%を占め、建設業、製造業、卸売業・小売業がそれぞれ10.3%でそれに次ぐ。女性も、医療・福祉が最も多

く19.1%を占め、次いで卸売業・小売業18.0%，教育・学習支援業10.1%と続く。

東京圏就職グループでは、男性では製造業と情報通信業がそれぞれ23.1%でほぼ半数を占め、その他のサービス業、卸売業・小売業と続く。女性では、医療・福祉が17.5%で最も多く、情報通信業(12.5%)、製造業(10.0%)と続く。

図表3-2-10 盛岡広域在住者と東京圏在住者の業種の分布

男性		上段選抜																			合計		
下段%	業種	農業、林業	漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業(郵便、協同組合)	その他のサービス業	公称(他に分類されるものを除く)		その他【】	
code2	岩手盛岡就職グループ(ずっと岩手盛岡組、Uターン組)	3			4	4	3		3	4			2	2	2	2	6		3		1	39	
	東京圏就職グループ(進学時流出組、就職時転出組)	7.7			10.3	10.3	7.7		7.7	10.3			5.1	5.1	5.1	15.4		7.7		2.6	100.0		
	全体	3		1	4	10	3		6	3	8		3	2	2	3	6		8	2	1	65	
		4.6		1.5	6.2	15.4	4.6		9.2	4.6	12.3		4.6	3.1	3.1	4.6	9.2		12.3	3.1	1.5	100.0	
女性		上段選抜																			合計		
下段%	業種	農業、林業	漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業(郵便、協同組合)	その他のサービス業	公称(他に分類されるものを除く)		その他【】	
code2	岩手盛岡就職グループ(ずっと岩手盛岡組、Uターン組)	5			4	7		4	3	16			1	5	6	9	17	1	4	2	5	89	
	東京圏就職グループ(進学時流出組、就職時転出組)	5.6			4.5	7.9		4.5	3.4	18.0			1.1	5.6	6.7	10.1	19.1	1.1	4.5	2.2	5.6	100.0	
	全体	5		4	11	11	9	6	19	2	2	8	9	10	24	2	5	4	2	5	4	129	
		3.9		3.1	8.5	7.0		7.0	4.7	14.7			1.6	1.6	6.2	7.0	7.8	18.6	1.6	3.9	3.1	7.0	100.0

各組の業種の分布を確認すると、Uターン組、進学時流出組で業種の構成が大きく異なる。これは、東京圏に比べて盛岡広域では業種が限られていることを示していると考えられる。ずっと岩手盛岡組と就職時転出組では、盛岡広域と東京圏で業種の構成に大きな違いはない。

図表3-2-11 各組の業種の分布

男性		上段選抜																			合計		
下段%	業種	農業、林業	漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業(郵便、協同組合)	その他のサービス業	公称(他に分類されるものを除く)		その他【】	
code2	ずっと岩手盛岡組	2			2	3		3		4			2	2	1	2	6		3		1	33	
	Uターン組(首都圏)	6.1			6.1	9.1		9.1		12.1			6.1	6.1	3.0	6.1	18.2		9.1		1	100.0	
	進学時流出組(首都圏)	16.7			33.3	16.7		4		1			1		16.7	1	1	3	2	16.7		14	
code2	ずっと岩手盛岡組				1	14.3		28.6		7.1			7.1		7.1		7.1		21.4	14.3		100.0	
	就職時転出組(首都圏)			1		4		2		3									2			12	
	全体	3		8.3	4	10	3	6.7	6	3	25.0		3	2	2	3	6		16.7	2	1	65	
		4.6		1.5	4	10	3	6.7	6	3	25.0		3	2	2	3	6		16.7	2	1	65	
女性		上段選抜																			合計		
下段%	業種	農業、林業	漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業(郵便、協同組合)	その他のサービス業	公称(他に分類されるものを除く)		その他【】	
code2	ずっと岩手盛岡組	5			4	7		4	3	16			5	6	6	8	16		2	2	5	83	
	Uターン組(首都圏)	6.0			4.8	8.4		4.8	3.6	19.3			1	6.0	7.2	9.6	19.3		2.4	2.4	6.0	100.0	
	進学時流出組(首都圏)				1	2		2	1	1			1	16.7	1	16.7	16.7	16.7	1	2	2	13	
code2	ずっと岩手盛岡組				7.7	15.4		7.7	7.7	7.7			7.7		7.7	7.7	7.7		23.3	15.4		100.0	
	就職時転出組(首都圏)				3	11.3		3	2	2			2	2	3	6	6		2	2	2	27	
	全体	5		4	11	11	9	6	19	2	2	8	9	10	24	2	5	4	2	5	4	129	
		3.9		3.1	8.5	7.0		7.0	4.7	14.7			1.6	1.6	6.2	7.0	7.8	18.6	1.6	3.9	3.1	7.0	100.0

これらを踏まえて、各組ごとの仕事の選択理由を分析すると、以下の傾向が見られる。(a) 東京圏就職グループでは「自分がやりたい仕事」をはじめとする多様な価値観をより多く満たす仕事を選択している傾向がある。(b) Uターン組では、実家から通うことを前提に選択可能な仕事の中で「自分がやりたい仕事」を求める傾向がある。(c) ずっと岩手盛岡組では、実家から通うことを前提とし「自分にできる仕事」を求める傾向が強い。

ずっと岩手盛岡組の男性が、盛岡広域の仕事を選択した基準として半数以上が“重視した”“やや重視した”と回答した項目は、「自分にできる仕事だった」「盛岡・盛岡周辺にある」「実家から通勤できる」の3/27項目あった。

ずっと岩手盛岡組の女性が、盛岡広域の仕事を選択した基準として半数以上が“重視した”“やや重視した”と回答した項目は、「自分がやりたい仕事だった」「自分にできる仕事だった」「仕事の安定性」「時間のゆとり」「転勤がない」「盛岡・盛岡周辺にある」

「実家から通勤できる」の7/27項目あった。

ずっと岩手盛岡組の男女で比較すると、女性で「自分がやりたい仕事だった」「仕事の安定性」「時間のゆとり」「転勤がない」の3項目多く、盛岡広域の仕事についてより多様な面を評価している傾向がうかがえる。

Uターン組の男性が盛岡広域の仕事を選じた基準として半数以上が“重視した”“やや重視した”と回答した項目は、「自分がやりたい仕事だった」「自分にできる仕事だった」「盛岡・盛岡周辺にある」「実家から通勤できる」の4/27項目あった。

Uターン組の女性が盛岡広域の仕事を選じた基準として半数以上が“重視した”“やや重視した”と回答した項目は、「自分がやりたい仕事だった」「自分にできる仕事だった」「仕事の安定性」「仕事の成長性」「仕事の専門性・先進性・高度性」「時間のゆとり」「社風や雰囲気がある」「女性や若者が活躍できる」「世間や周囲の評判がよい」「自分の経験や知識を活かせる」「社会に貢献できる、人の役に立つことができる」「自分が持っている能力を発揮して活躍できる」「盛岡・盛岡周辺にある」「実家から通勤できる」「趣味・社外活動がしやすい」の15/27項目あった。

Uターン組の男女の傾向を比較すると、女性で「仕事の安定性」「仕事の成長性」「仕事の専門性・先進性・高度性」「時間のゆとり」「社風や雰囲気がある」「女性や若者が活躍できる」「世間や周囲の評判がよい」「自分の経験や知識を活かせる」「社会に貢献できる、人の役に立つことができる」「自分が持っている能力を発揮して活躍できる」「趣味・社外活動がしやすい」の11項目多く、盛岡広域の仕事についてより多様な面を評価している傾向がうかがえる。

進学時流出組の男性が東京圏の仕事を選んだ基準として半数以上が“重視した”“やや重視した”と回答した項目は、「自分がやりたい仕事だった」「自分にできる仕事だった」「周囲の人の期待に沿う仕事だった」「高収入」「仕事の安定性」「仕事の成長性」「仕事の専門性・先進性・高度性」「時間のゆとり」「転勤がない」「知名度や規模」「社風や雰囲気」「職場の人間関係がよい」「女性や若者が活躍できる」「世間や周囲の評判がよい」「親など周囲の意見」「自分の経験や知識を活かせる」「高度なスキルや経験を身につけることができる」「社会に貢献できる、人の役に立つことができる」「自分が持っている能力を発揮して活躍できる」「首都圏・大都市にある」「趣味・社外活動がしやすい」の21/27項目あった。

進学時流出組の女性が東京圏の仕事を選んだ基準として半数以上が“重視した”“やや重視した”と回答した項目は、「自分がやりたい仕事だった」「自分にできる仕事だった」「仕事の安定性」「仕事の成長性」「時間のゆとり」「転勤がない」「知名度や規模」「社風や雰囲気」「職場の人間関係がよい」「自分の経験や知識を活かせる」「自分が持っている能力を発揮して活躍できる」「首都圏・大都市にある」「趣味・社外活動がしやすい」の13/27項目あった。

進学時流出組の男女の傾向を比較すると、男性で「周囲の人の期待に沿う仕事だった」「高収入」「仕事の成長性」「仕事の専門性・先進性・高度性」「女性や若者が活躍できる」「世間や周囲の評判がよい」「親など周囲の意見」「高度なスキルや経験を身につけることができる」「社会に貢献できる、人の役に立つことができる」の8項目多く、東京圏の仕事についてより多様な面を評価している傾向がうかがえる。

就職時転出組の男性が、東京圏の仕事を選じた基準として半数以上が“重視した”“やや重視した”と回答した項目は、「自分がやりたい仕事だった」「自分にできる仕事だった」「周囲の人の期待に沿う仕事だった」「仕事の安定性」「仕事の成長性」「仕事の専門性・先進性・高度性」「時間のゆとり」「福利厚生が整っている」「転勤がない」「知名度や規模」「社風や雰囲気」「職場の人間関係がよい」「世間や周囲の評判がよい」「親など周囲の意見」「自分の経験や知識を活かせる」「自分が持っている能力を発揮して活躍できる」「首都圏・大都市にある」「ひとり暮らしができる」「趣味・社外活動がしやすい」

い「近隣に娯楽が充実している」の20/27項目あった。

就職時転出組の女性が、東京圏の仕事を選択した基準として半数以上が“重視した”“やや重視した”と回答した項目は、「自分がやりたい仕事だった」「自分にできる仕事だった」「仕事の安定性」「仕事の専門性・先進性・高度性」「時間のゆとり」「福利厚生が整っている」「転勤がない」「自分の経験や知識を活かせる」「自分が持っている能力を発揮して活躍できる」「首都圏・大都市にある」の9/27項目あった。

就職時転出組の男女を比較すると、男性では「自分にできる仕事だった」「周囲の人の期待に沿う仕事だった」「仕事の成長性」「知名度や規模」「社風や雰囲気」「職場の人間関係がよい」「世間や周囲の評判がよい」「親など周囲の意見」「ひとり暮らしができる」「趣味・社外活動がしやすい」「近隣に娯楽が充実している」の11項目多く、東京圏の仕事についてより多様な面を評価している傾向がうかがえる。

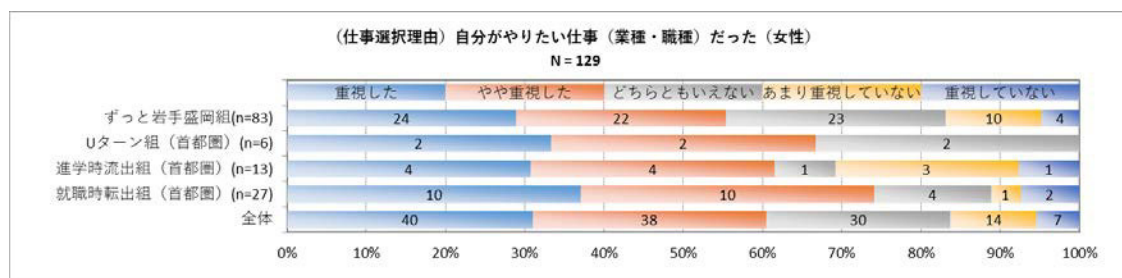
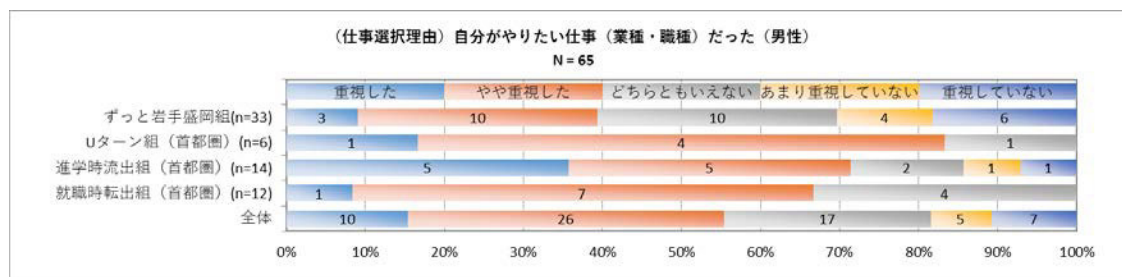
なお、文中単に「重視した」といったときには、「重視した」「やや重視した」と回答したものを指し、逆も同様である。

ア 自分がやりたい仕事（業種・職種）だった

この項目では、本人の嗜好に従って仕事を選択したかどうかを確認する。

仕事を選択するにあたって自分がやりたい仕事であることを「重視した」「やや重視した」比率は、女性でやや高く、どの組でも過半数を超える。また、女性では、「重視した」の比率はすべての組で30%を超える。しかしずっと岩手盛岡組では重視する比率が低く、「どちらともいえない」の比率も大きい。また、進学時流出組でも、「あまり重視していない」「重視していない」の比率が高い。

男性でも過半数が、自分がやりたい仕事を重視して仕事を選択しているが、ずっと岩手盛岡組ではこの項目に対して重視する比率が低く、「あまり重視していない」「重視していない」比率が比較的高い。一方、Uターンした男性は、重視する比率が高く、自分がやりたい仕事があつてUターンを選択した可能性が示唆される。



イ 自分にできる仕事だった

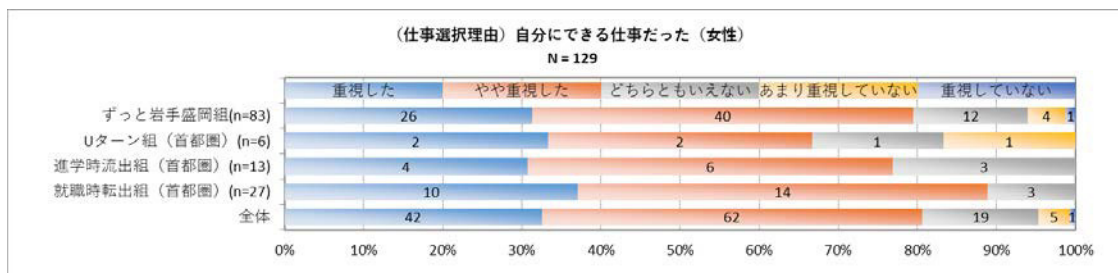
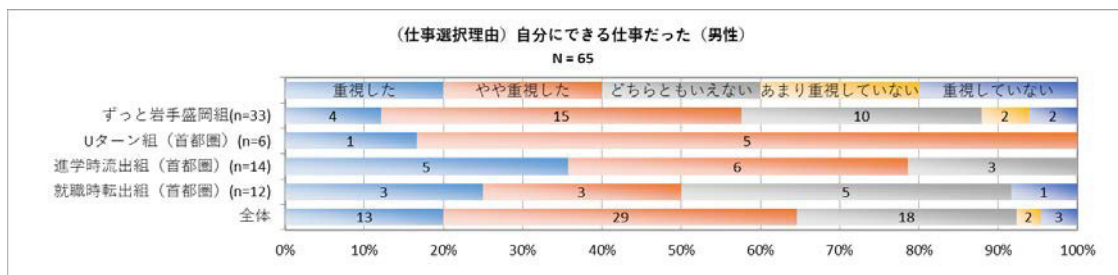
この項目では、本人の能力や経験の範囲内で仕事を選択したかどうかを確認する。

仕事を選択するにあたって自分にできる仕事であることを「重視した」「やや重視した」比率は、女性で極めて高い。

男性では、Uターン組と進学時流出組でその比率が高く、ずっと岩手盛岡組と東京圏転出組でその比率が低い。

設問「自分がやりたい仕事だった」に比較すると、ほぼすべての組で重視した比率は上回っており、嗜好よりも自分の能力や経験と仕事の内容を天秤にかけて判断している

傾向がみられる。



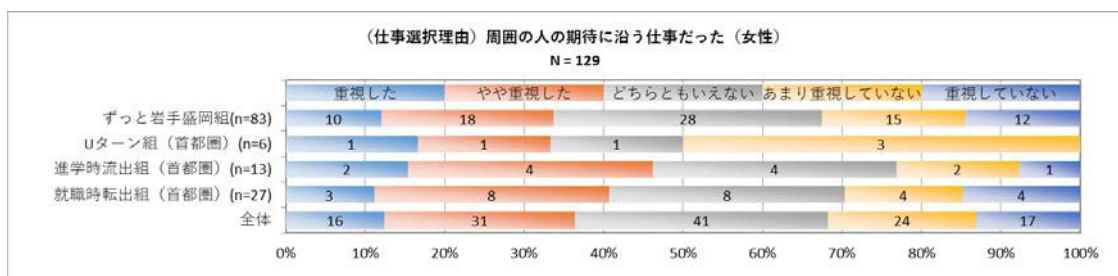
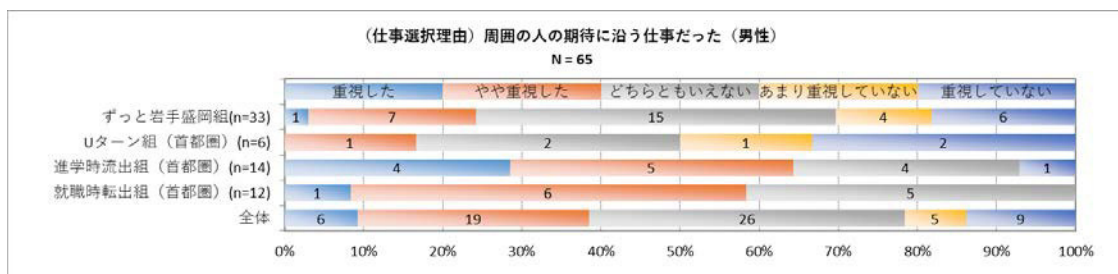
ウ 周囲の人の期待に沿う仕事だった

この項目では、親など自分の周辺の人が期待した仕事を選択したかどうかを確認する。

周囲の人の期待に沿う仕事であることを「重視した」「やや重視した」比率は、男性で進学時流出組と就職時転出組で高い。

女性ではすべての組でおおむね3割から4割の人が重視しているが、ほぼ同数の人が「あまり重視していない」「重視していない」を選択している。

設問「自分がやりたい仕事だった」「自分にできる仕事だった」に比較すると、重視する比率は低い。

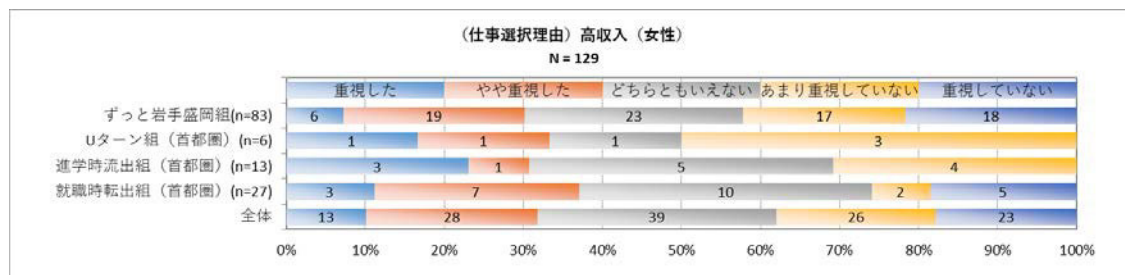
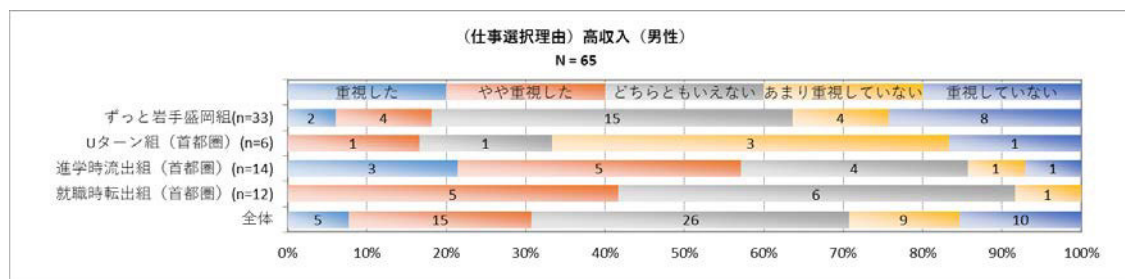


エ 高収入

この項目では、高収入を目的として仕事を選択したかどうかを確認する。

高収入の仕事であることを「重視した」「やや重視した」比率は、男性で進学時流出組と就職時転出組で高く、東京圏で高収入が得られると考えられている傾向がある。女性では、すべての組で3割程度が重視している。ずっと岩手盛岡組及びUターン組の男性では、高収入に重視する傾向が弱い。女性では、男性に比較して「あまり重視していない」「重視していない」傾向が強く特にずっと岩手盛岡組とUターン組で高い。また、Uターン組では男女とも「あまり重視していない」「重視していない」の比率が高く、Uタ

ーンは高収入以外の理由で行われたことが伺える。

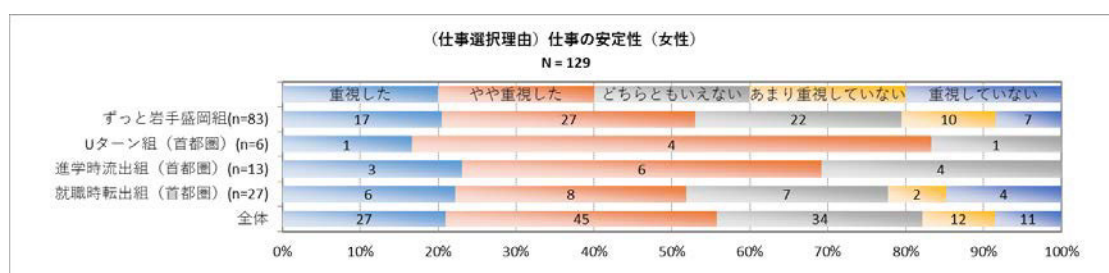
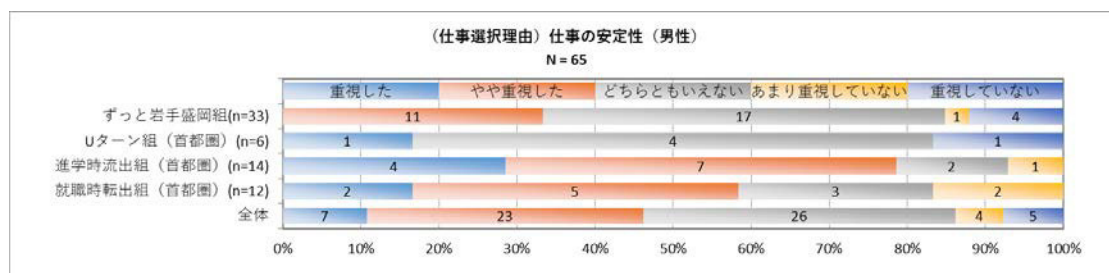


オ 仕事の安定性

この項目では、仕事の安定性を重視して仕事を選択したかどうかを確認する。

仕事の安定性を「重視した」「やや重視した」比率は、女性でその比率が高い。女性では、すべての組で半数以上が重視しており、Uターン組と進学時流出組などでその傾向が強い。男性では、進学時流出組と就職時転出組で重視している。男性のずっと岩手盛岡組では「重視した」評価がない。

設問「高収入」と比較すると男女とも本設問を重視する比率が高く、仕事の安定性すなわち継続性を重視している若者が多く、特に女性で安定性を求める傾向が強い。

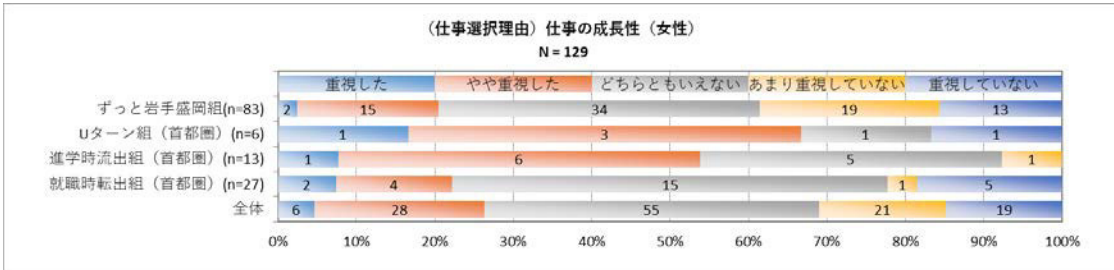
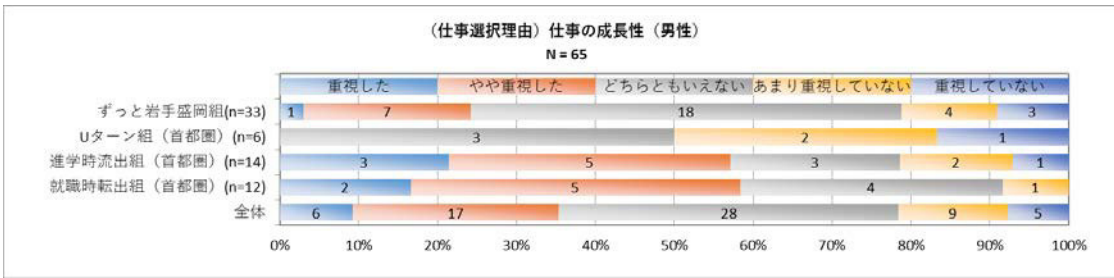


カ 仕事の成長性

この項目では、仕事（勤め先）の成長性を重視して仕事を選択したかどうかを確認する。

仕事の成長性を「重視した」「やや重視した」比率は、男性でその比率が高い。男性では進学時流出組と就職時転出組でその傾向が強い。一方で、女性ではUターン組と就職時転出組でその傾向が強い。

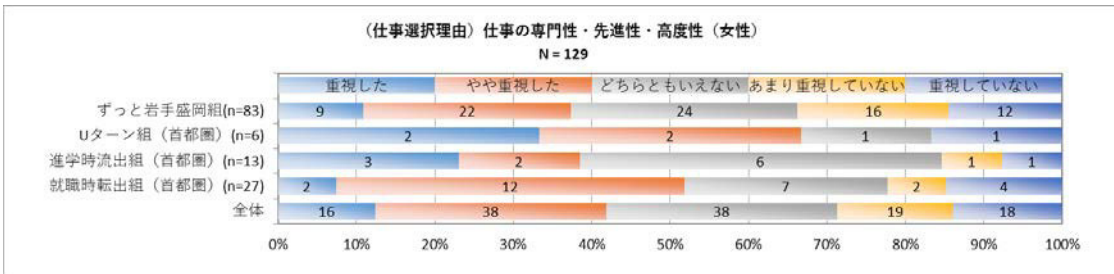
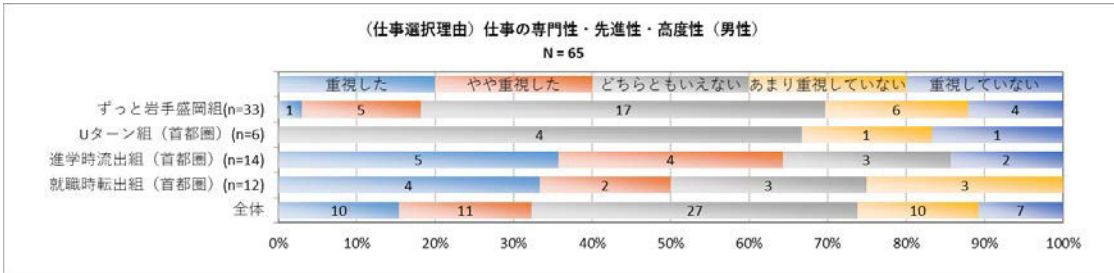
男性のUターン組と女性の就職時転出組、男女のずっと岩手盛岡組では仕事の成長性について重視する傾向は低い。



キ 仕事の専門性・先進性・高度性

この項目では、仕事の専門性や先進性、高度性を重視して仕事を選択したかどうかを確認する。

仕事の専門性・先進性・高度性を「重視した」「やや重視した」比率は、女性で比率が高い。女性では、Uターン組と就職時転出組でその比率が高いが、進学時流出組では、この項目を重視する比率は低い。男性では進学時流出組と就職時転出組で重視する比率が高い。なお、ずっと岩手盛岡組では女性で重視する比率が高い。

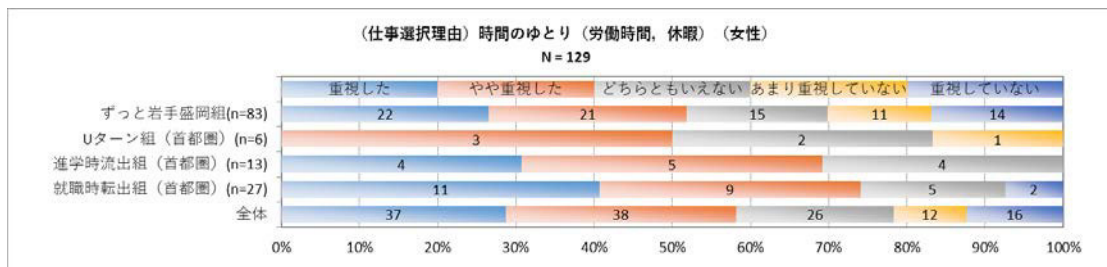
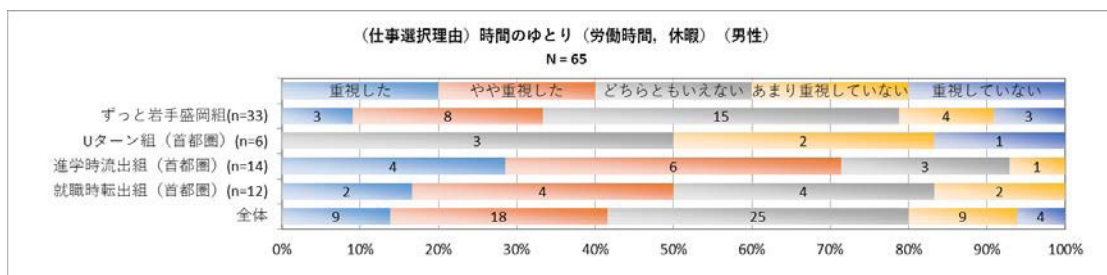


ク 時間のゆとり (労働時間, 休暇)

この項目では、勤務時間や休暇の取得が容易であるなど、時間のゆとりを重視して仕事を選択したかどうかを確認する。

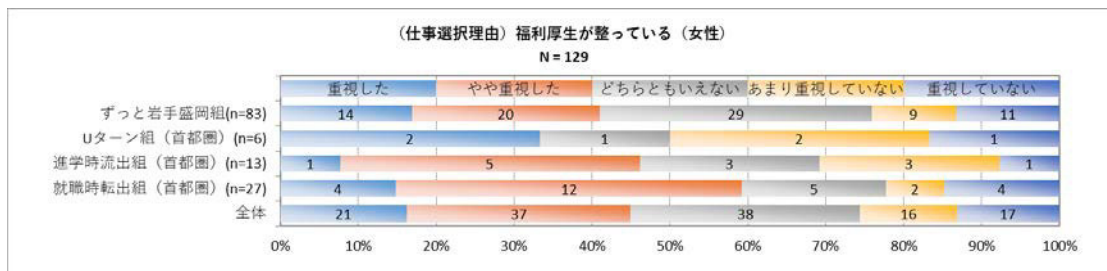
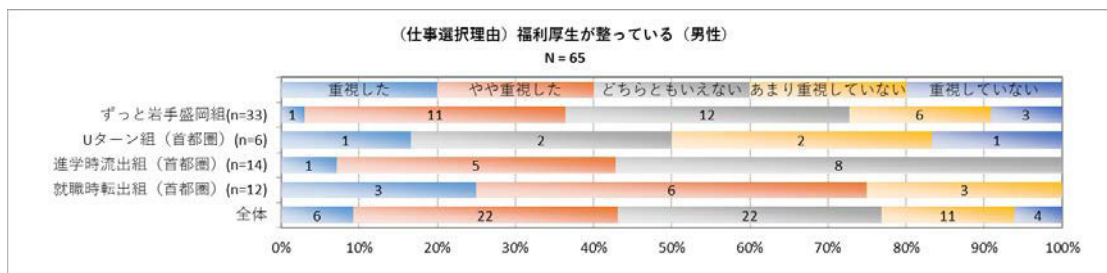
時間のゆとりを「重視した」「やや重視した」比率は、女性でその比率が圧倒的に高い。女性では、就職時転出組と進学時流出組でその傾向が強い。Uターン組、ずっと岩手盛岡組でも過半数を超えているが、ずっと岩手盛岡組のみ「あまり重視していない」「重視していない」が3割程度出現する。

男性では、時間のゆとりを重視するものは半数に満たない。ただし、進学時流出組と就職時転出組で重視する傾向が強い。



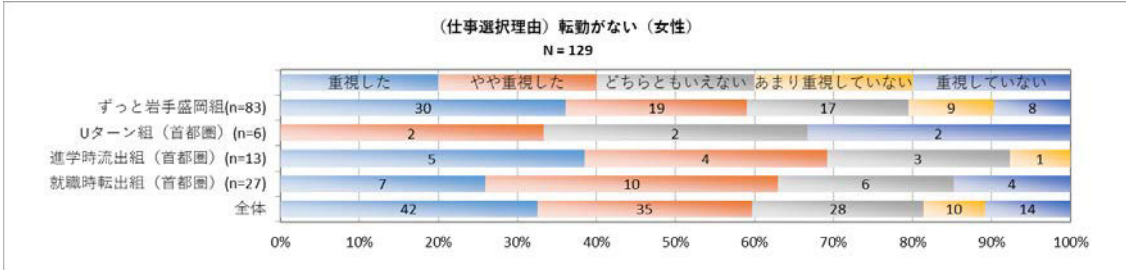
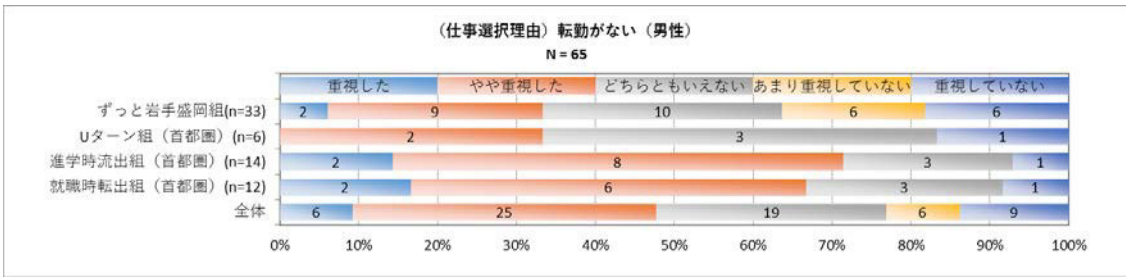
ケ 福利厚生が整っている

この項目では、給与以外の福利厚生を重視して仕事を選択したかどうかを確認する。福利厚生を「重視した」「やや重視した」比率は、男女とも就職時転出組で著しく高い。ついで、男女とも進学時流出組で比率が高いものの半数を割っている。なお、男性と女性を比べると、「重視した」の比率は女性のほうが多く、女性がより評価する項目であると考えられる。



コ 転勤がない

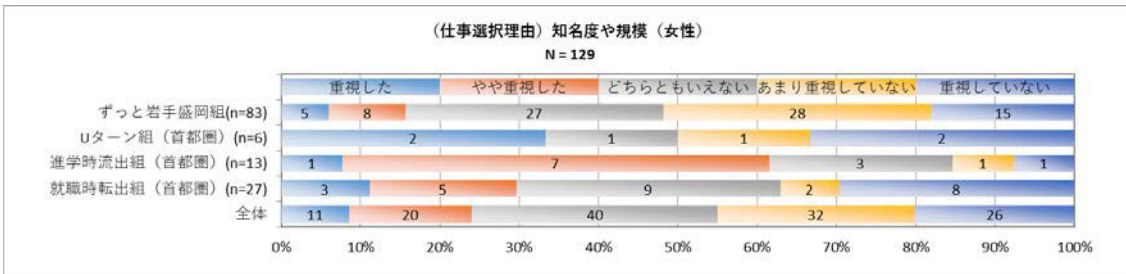
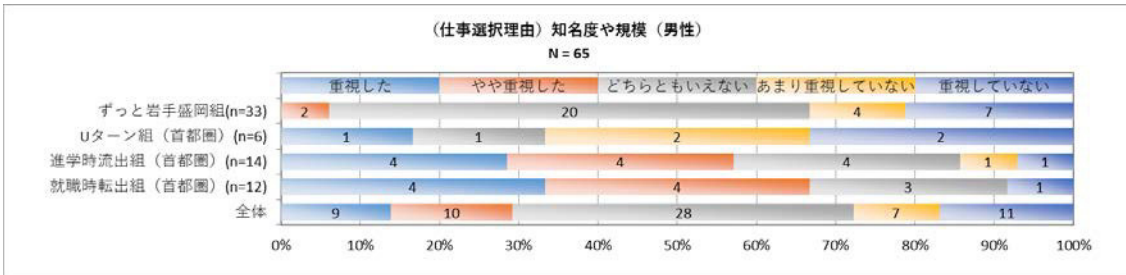
この項目では、転勤がないことを重視して仕事を選択したかどうかを確認する。転勤がないことを「重視した」「やや重視した」比率は女性で高く、「重視した」の比率が女性では著しく高い。男女とも進学時流出組、就職時転出組で過半数を超えている。ずっと岩手盛岡組では男性では「あまり重視していない」「重視していない」が突出して高くなっている一方で、女性では「重視した」「やや重視した」の比率が高くなっている。



サ 知名度や規模

この項目では、知名度や規模で仕事を選択したかどうかを確認する。

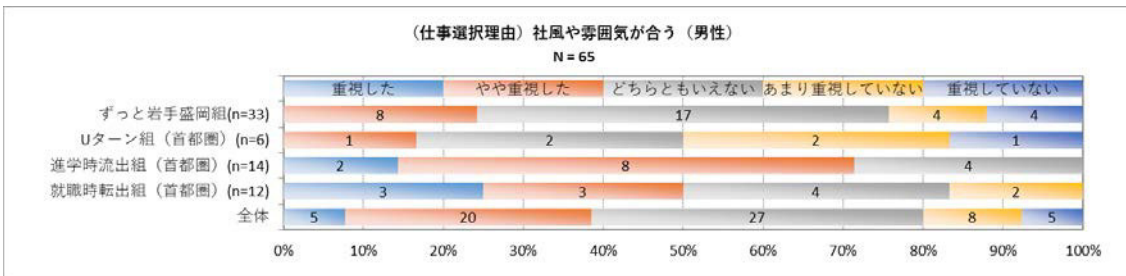
知名度や規模を「重視した」「やや重視した」比率は、男性では東京圏就職グループで過半数を超える。女性では、進学時流出組で過半数を超えるが、就職時転出組では3割にとどまる。また、「あまり重視していない」「重視していない」の傾向が強い。

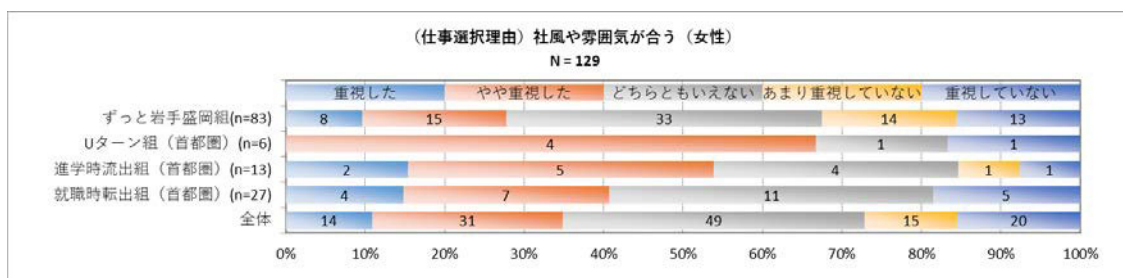


シ 社風や雰囲気があう

この項目では、企業の社風や雰囲気で仕事を選択したかどうかを確認する。

社風や雰囲気を「重視した」「やや重視した」比率は、男性では東京圏就職グループで過半数を超える。女性では、Uターン組と進学時流出組で過半数を超える。



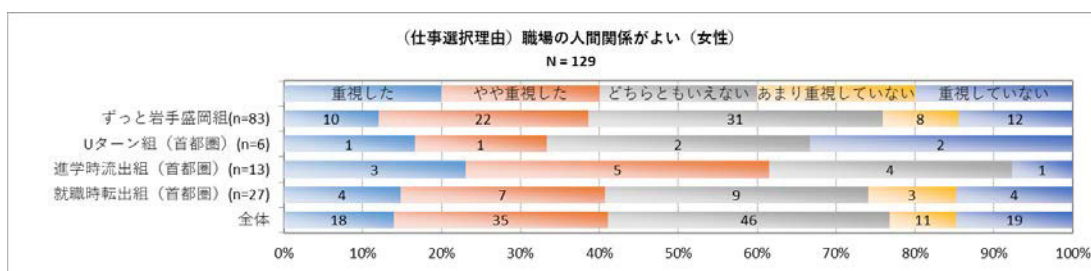
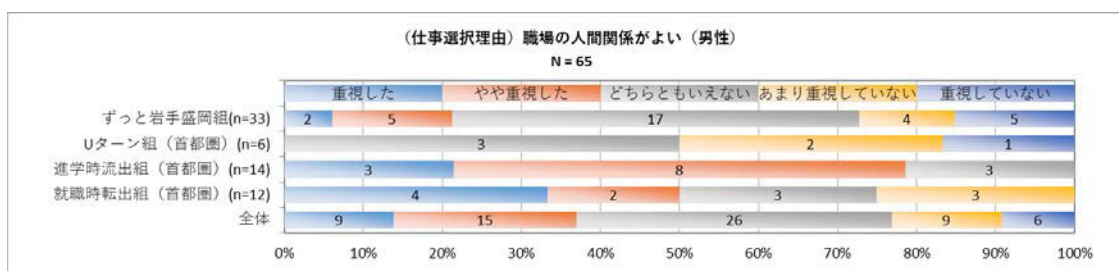


ス 職場の人間関係がよい

この項目では、職場の人間関係で仕事を選択したかどうかを確認する。

職場の人間関係を「重視した」「やや重視した」比率は、男女とも進学時流出組で比率が高い一方で、Uターン組では「あまり重視していない」「重視していない」比率が高い。

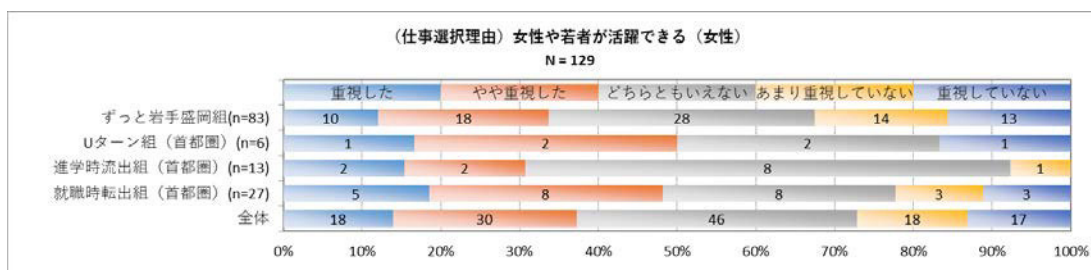
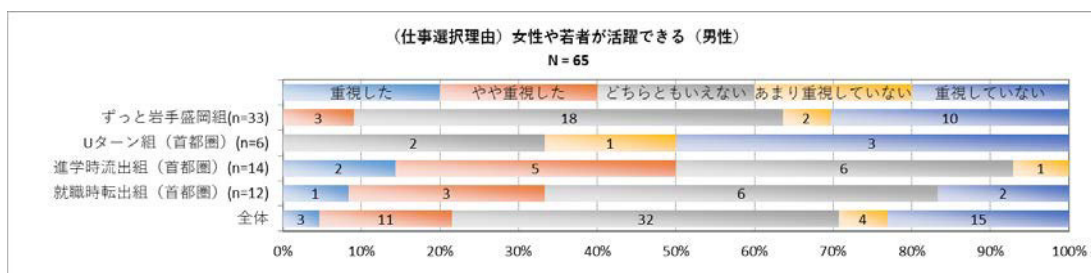
女性ではどの組でも4割程度で重視しているが、男性で重視するものは東京圏就職グループに集中している。



セ 女性や若者が活躍できる

この項目では、女性や若者が活躍できることで仕事を選択したかどうかを確認する。

男性では、重視する比率は低いですが、女性はUターン組と就職時転出組が重視している。

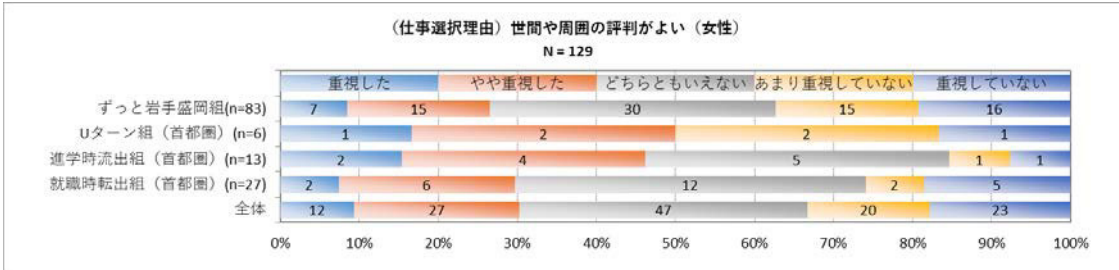
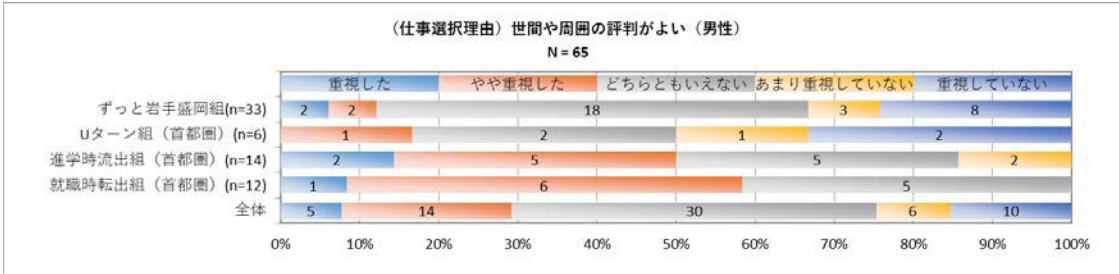


ソ 世間や周囲の評判がよい

この項目では、世間や周囲の評判がよいことで仕事を選択したかどうかを確認する。男女とも世間や周囲の評判がよいことを重視した比率は高くない。

男性の東京圏就職グループで重視する傾向がある。

女性のUターン組で高く、進学時流出組がそれに次ぐ。

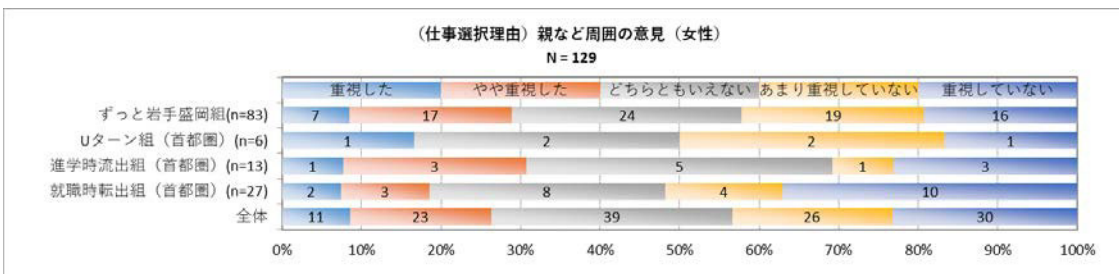
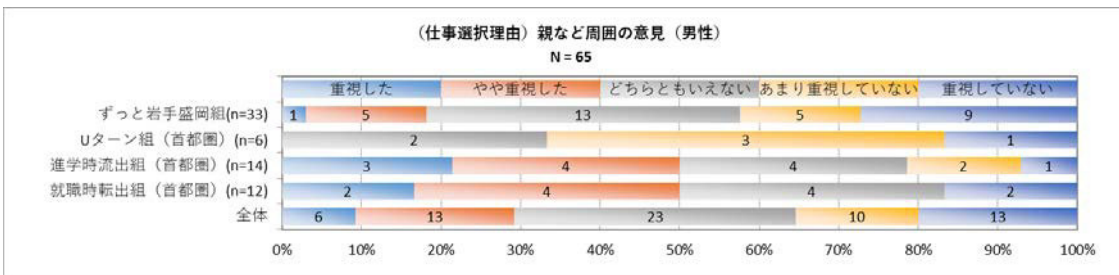


タ 親など周囲の意見

この項目では親など周囲の意見をどの程度重視したかを確認する。

男性では進学時流出組と就職時転出組で「重視した」「やや重視したが」半数に達しているが、ずっと岩手盛岡組、Uターン組では「あまり重視していない」「重視していない」が半数近くに達している。

女性では、進学時流出組とずっと岩手盛岡組で3割程度の者が重視している一方で、4割程度の者が「あまり重視していない」「重視していない」と回答しており、男性に比較してその比率が高い。



チ 自分の知識や経験を活かせる

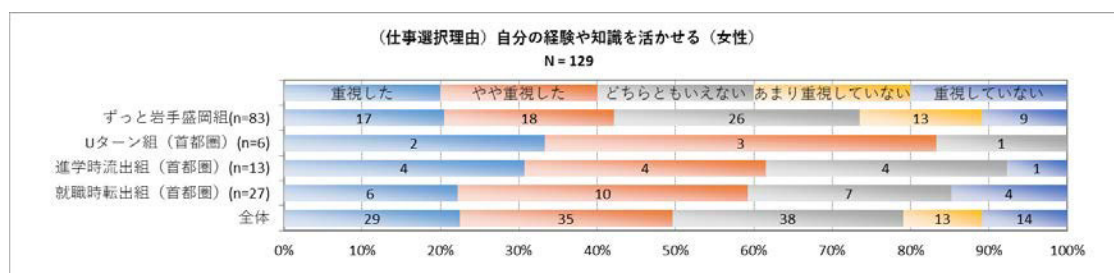
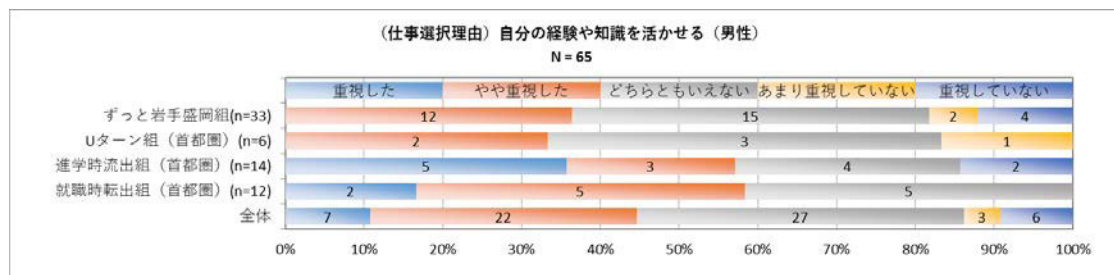
この項目では自分の知識や経験を活かせる仕事を選択したかを確認する。

男性では、進学時流出組と就職時転出組で「重視した」「やや重視したが」半数に達しているが、ずっと岩手盛岡組、Uターン組では「やや重視した」が3割を超えた程度で

低い。

女性では、Uターン組でほぼすべてが、進学時流出組とずっと岩手盛岡組で3割程度の者が半数を超えており、またずっと岩手盛岡組でも3割を超えている。ただし、ずっと岩手盛岡組では、「あまり重視していない」「重視していない」も2割を超える。

男性と女性では女性で重視する比率が高く、より女性に訴求力がある価値基準であると考えられる。

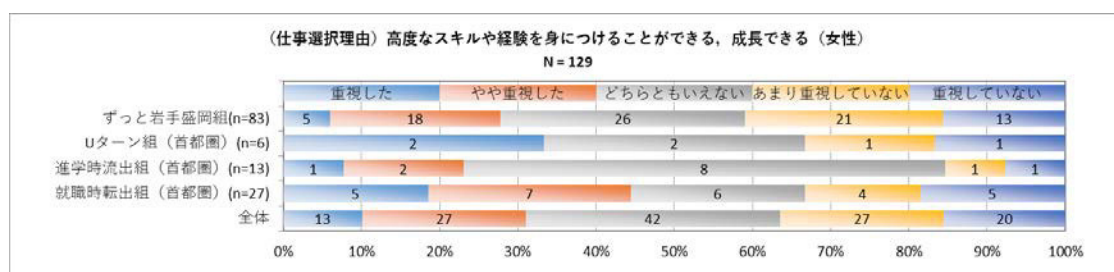
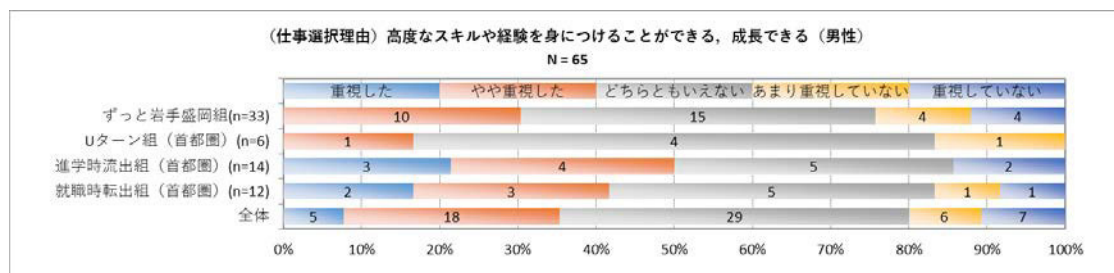


ツ 高度なスキルや経験を身につけることができる、成長できる

この項目では仕事を通じてスキルや経験を身につけることができる、成長できるなど、次のステップアップを見据えた投資として仕事を選択したかを確認する。

男性では、進学時流出組と就職時転出組で「重視した」「やや重視した」がやや高い比率を示しており、ずっと岩手盛岡組、Uターン組では3割を切る。

女性では、就職時転出組が最も重視しており、4割を超える。次いでUターン組、ずっと岩手盛岡組で3割程度を占める。進学時流出組では「どちらともいえない」の比率が高い。



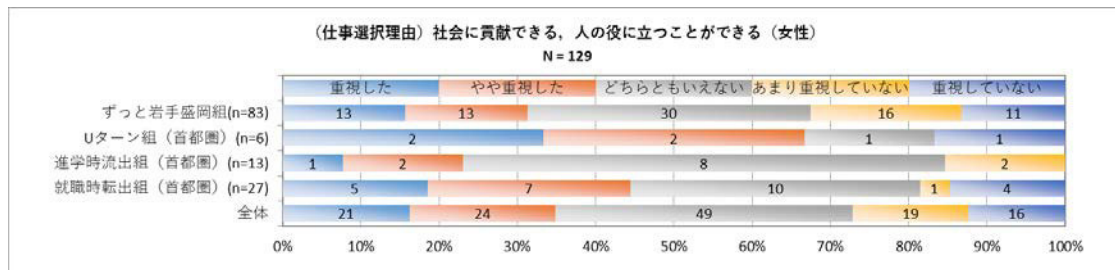
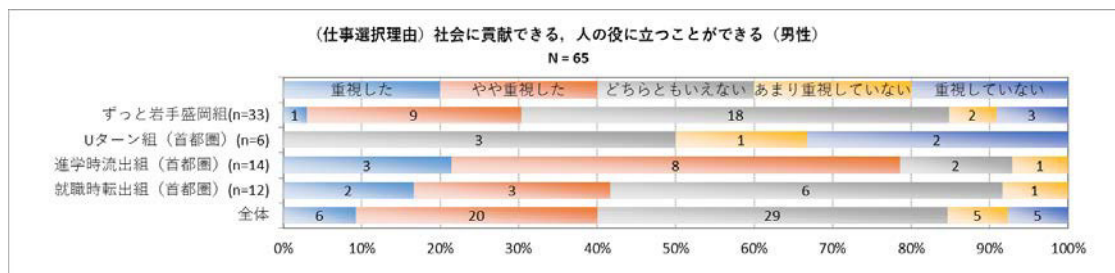
テ 社会に貢献できる、人の役に立つことができる

この項目では仕事を通じて社会に貢献できる、人の役に立つことができるなど、利他的な側面で仕事を選択したかを確認する。

男性では、進学時流出組で重視した比率が極めて高く、Uターン組で低い対象的な分

布になっている。

女性では、Uターン組で重視している比率が極めて高く、進学時流出組で極めて低い対象的な分布になっている。



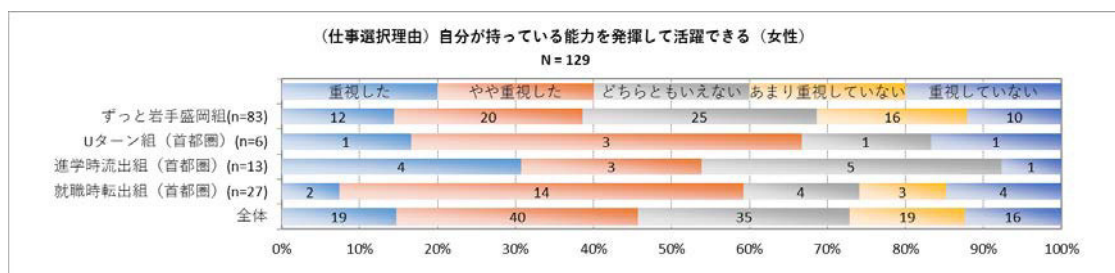
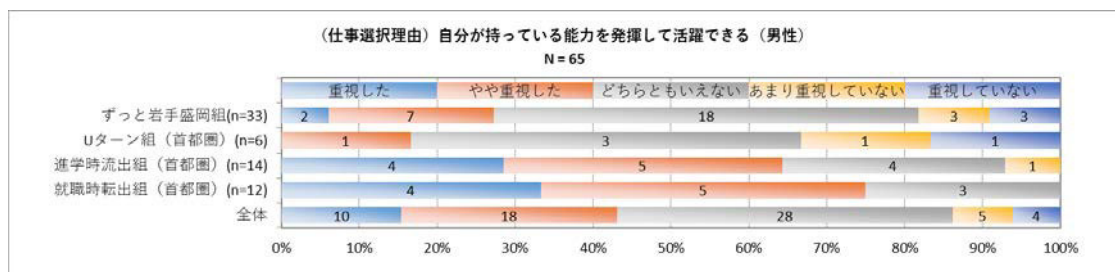
ト 自分が持っている能力を発揮して活躍できる

この項目では、自分が持っている能力を発揮して創造的な活動ができることで仕事を選擇したかを確認する。

男性では、進学時流出組と就職時転出組で「重視した」「やや重視した」がやや高い比率を示しており、ずっと岩手盛岡組、Uターン組では3割を切る。

女性では、ずっと岩手盛岡組以外のすべての組で重視する傾向にある。

ずっと岩手盛岡組では、男性より女性で重視する傾向が強く、女性では「重視していない」「あまり重視していない」と重視しない傾向もまた顕著である。



ナ 盛岡・盛岡周辺にある

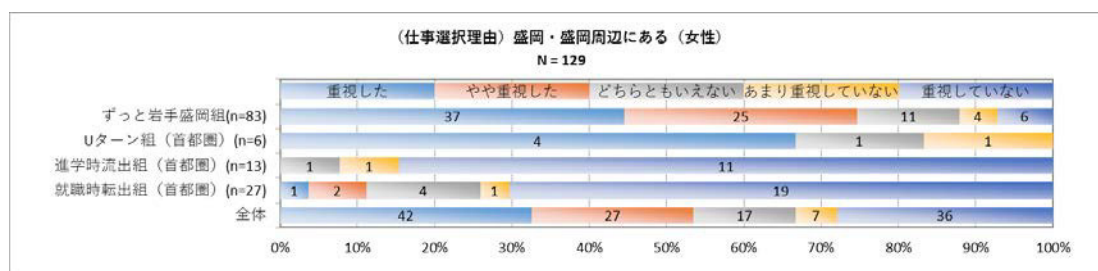
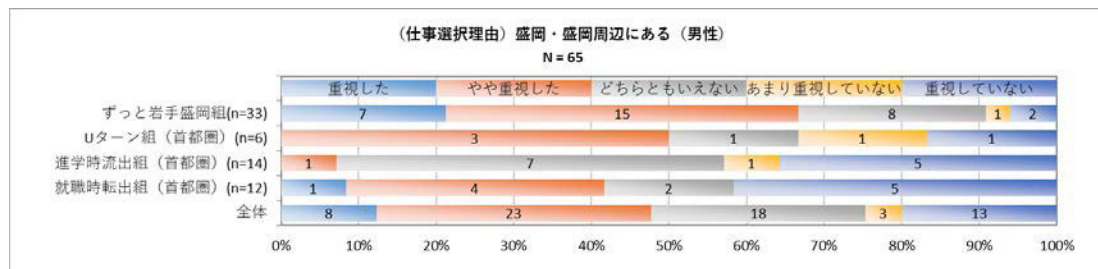
この項目では、地元盛岡で働けることを重視したか確認する。

ずっと岩手盛岡組では、男性と女性では、女性で「重視した」の比率が著しく高く、「やや重視した」も含めて7割を超える。男性では、「重視した」の比率は低いものの、「やや重視した」の比率が高く、合わせて6割を超える。

Uターン組でも同様の傾向があり、特に女性では「重視した」が6割を超え、男性でも「やや重視した」が5割を占めている。

東京圏就職グループでは対照的に、「重視していない」の比率が著しく高くなり、特に女性でその傾向が顕著である。男性では、進学時流出組で「重視していない」傾向が強い一方で「どちらともいえない」が半数を占めている。

なお、進学時流出組と就職時転出組で一部「重視した」「やや重視した」が出現するのは、盛岡に存在する支店や開発拠点等に将来Uターンする前提で一時的に東京に居住している者が含まれているためと考えられる。



二 東京圏・大都市にある

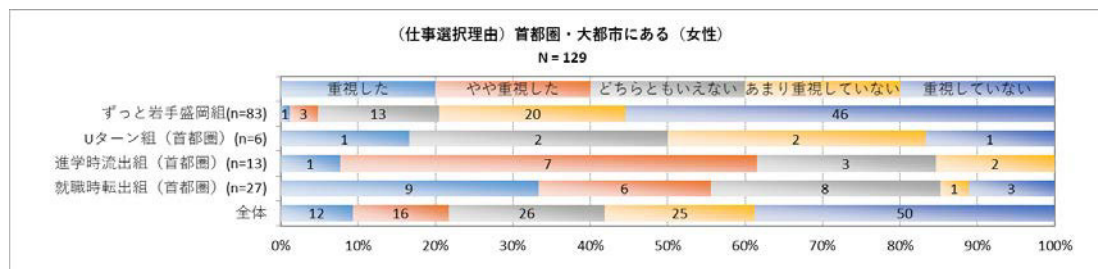
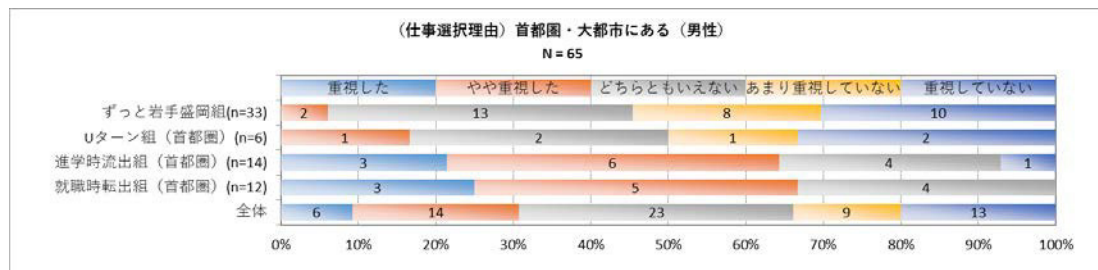
この項目では、東京圏や大都市で働けることを重視したかを確認する。

男性と女性では、男性で「重視した」「やや重視した」の比率が高く、女性で「あまり重視していない」「重視していない」の比率が高い。

男性では、東京圏就職グループで「重視した」「やや重視した」者が6割を超える。

女性では、「重視した」と回答した者が就職時転出組で多い。

ずっと岩手盛岡組では、男性で「あまり重視していない」「重視していない」の比率が5割程度であるのに対し、女性では8割に達しており、都会志向は男性で強いと考えられる。



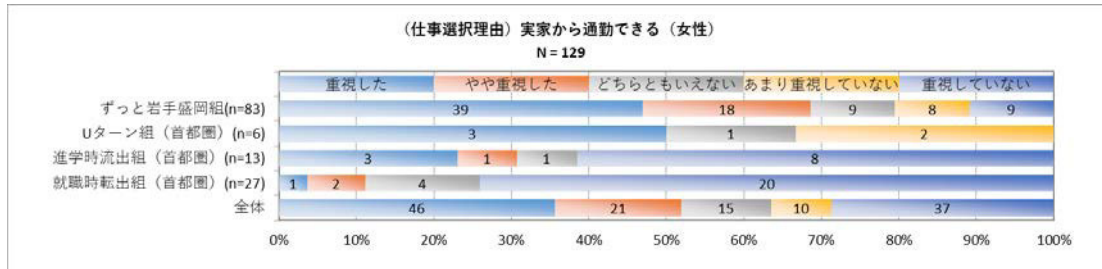
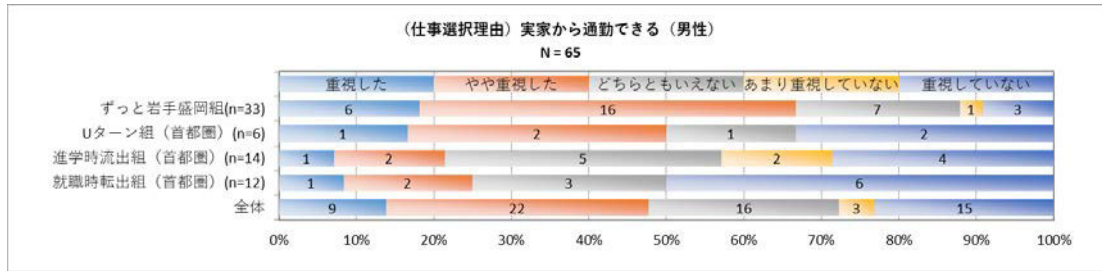
又 実家から通勤できる

この項目では、実家から通えることを重視したかを確認する。

男女とも、盛岡広域就職グループで実家志向が強く、東京圏就職グループで実家志向

が弱い。

男性と女性を比較すると、特に女性で「重視した」の比率が高く、地元定着の最大要因であると考えられる。

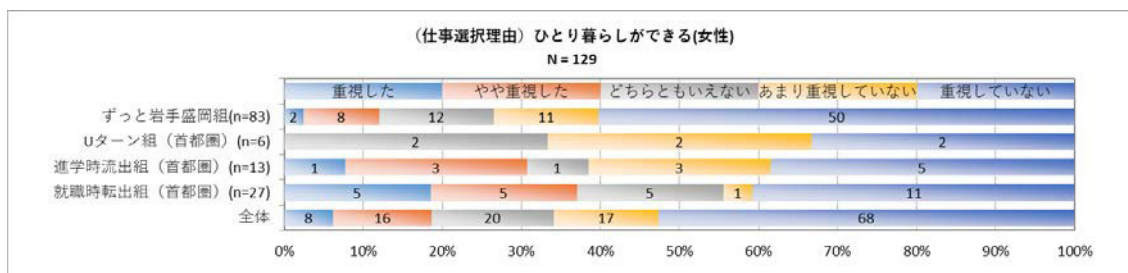
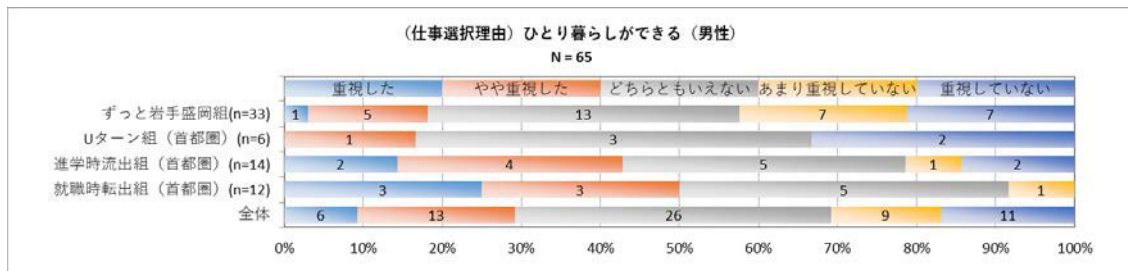


ネ ひとり暮らしができる

この項目では、ひとり暮らしができることを重視したかを確認する。

男性では、女性よりも構成比が高く、東京圏就職グループで重視する傾向が顕著である。一方で、女性では「あまり重視していない」「重視していない」の比率が高く、ずっと岩手盛岡組、Uターン組、進学時流出組、就職時転出組の順にその比率は低くなる。

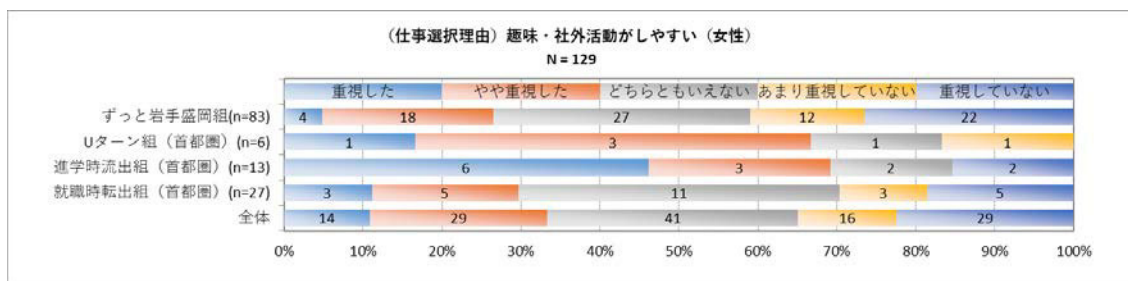
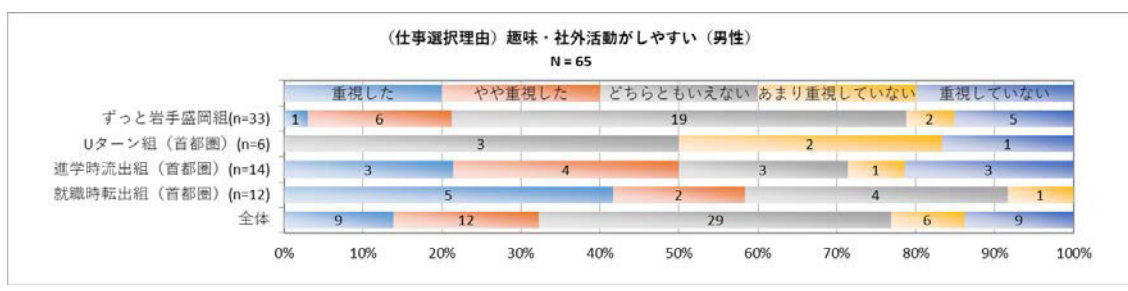
男性に対して訴求力がある項目であることが伺える。



ノ 趣味・社外活動がしやすい

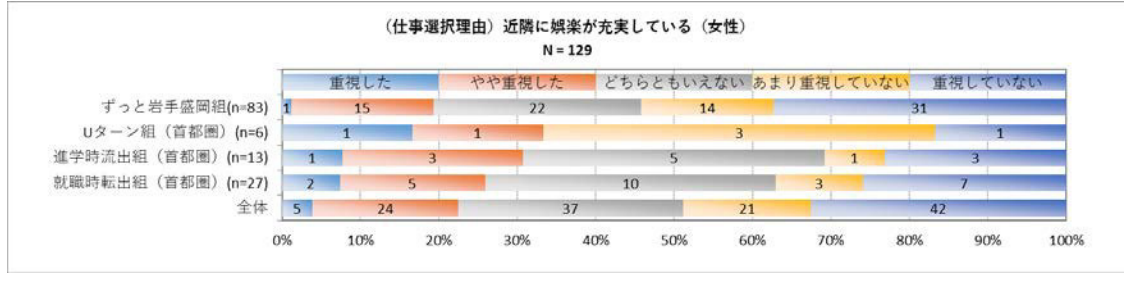
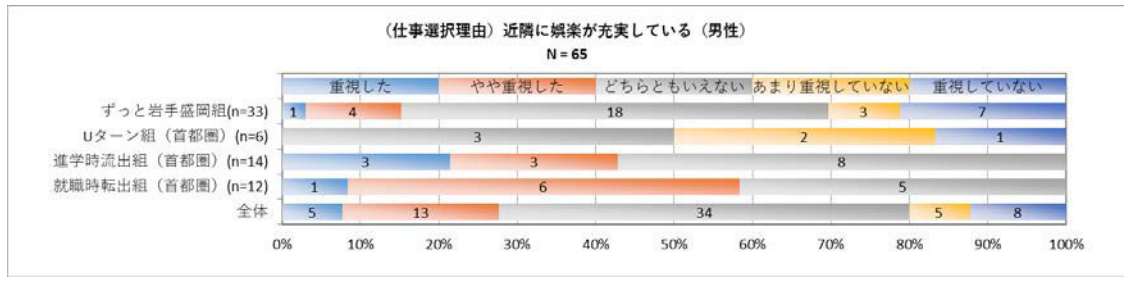
この項目では、仕事以外の趣味や社外活動を重視して仕事を選択したかを確認する。

男女とも3割が「重視した」「やや重視した」と回答している。男性では東京圏就職グループで顕著で、女性では東京圏に進学したグループで顕著である。この中でも、男性は就職時転出組で「重視する」が4割を超え、女性は進学時流出組で「重視する」が4割を超える。



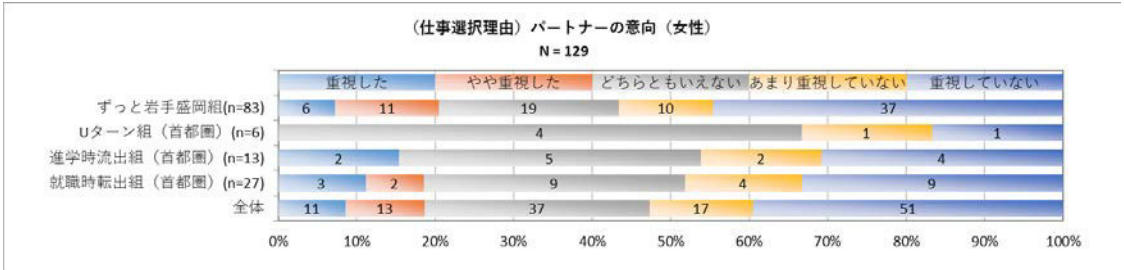
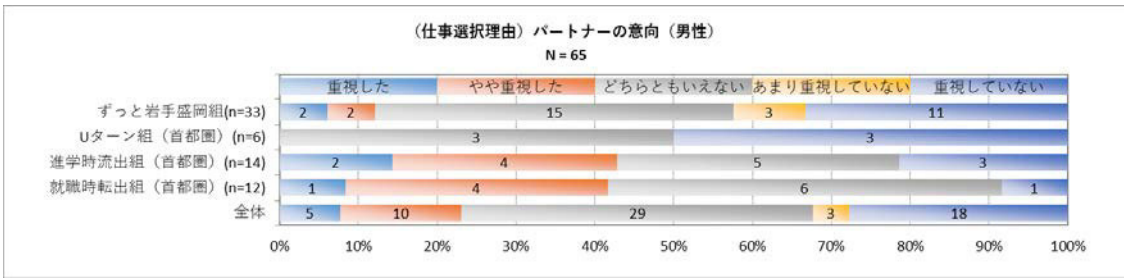
ハ 近隣に娯楽が充実している

この項目では、近隣の娯楽の充実を条件にして仕事を選択したかを確認する。
 男性では東京圏就職グループで「重視した」「やや重視した」の比率が顕著で、特に就職時転出組で大きな割合を占めている。女性では目立ったピークはないものの、「あまり重視していない」「重視していない」の構成比が高く、盛岡広域就職グループで半数を超えることから、東京圏がもたらす娯楽の価値は、男性に対して訴求力があるものと考えられる。



ヒ パートナーの意向

この項目では、パートナーの意向が仕事の選択にどれほどの影響を与えたのかを確認する。
 男性では「重視した」「やや重視した」と回答した比率は2割を超える程度だが、東京圏就職グループでその構成比は4割を超える。盛岡広域就職グループでは、1割程度に出現率が低下する。
 女性ではいずれの組でも重視する者が少ない。また、「あまり重視していない」「重視していない」の比率は女性で圧倒的に高い。
 これらのことから、パートナーの意向は男性に対して訴求力が高いものと考えられる。



(3) 暮らしの満足度

この項では、盛岡広域に居住している者と東京圏に居住している者に対し、現在居住しているまちの生活全般について主観的な評価を調査した。

満足度の把握は、仕事に関する項目と生活に関する項目の二つに大きく分けられ、それぞれ次の傾向がみられた。

■仕事に関する項目

(a) 東京圏就職グループでは、仕事に関する多様な項目で満足している者の比率が高く、特に男性でその傾向がよい。(b) Uターン組では、女性では仕事に関する多様な項目で満足している者の比率が高いが、男性では満足している項目が少ない。

(c) ずっと岩手盛岡組では、仕事に関して満足している項目が少ない。

ずっと岩手盛岡組の男性が盛岡広域の生活（仕事面）に関する満足度で半数以上が“満足”“やや満足”と回答した項目は、「希望の業種や職種」「働きがい、仕事の面白さ」の2/17項目あった。

ずっと岩手盛岡組の女性が盛岡広域の生活（仕事面）に関する満足度で半数以上が“満足”“やや満足”と回答した項目は、「希望の業種や職種」「働きがい、仕事の面白さ」「時間のゆとり」の3/17項目あった。

ずっと岩手盛岡組の男女を比較すると、女性で満足している項目が多い。

Uターン組の男性が盛岡広域の生活（仕事面）に関する満足度で半数以上が“満足”“やや満足”と回答した項目は、「安定性」「自分の経験や知識を活かせる」の2/17項目あった。

Uターン組の女性が盛岡広域の生活（仕事面）に関する満足度で半数以上が“満足”“やや満足”と回答した項目は、「希望の業種や職種」「働きがい、仕事の面白さ」「先進性・高度性」「時間のゆとり」「社風や雰囲気」「職場内での人間関係」「知名度や会社の規模」「女性や若者が活躍できる」「自分の知識や経験を活かせる」「社会に貢献できる、人の役に立つことができる」「自分が持っている能力を発揮して活躍できる」11/17項目あった。

Uターン組の男女を比較すると、女性で満足している項目が多い。男女を比較すると、男性で「安定性」が優位であるが、女性では「希望の業種や職種」「働きがい、仕事の面白さ」「先進性・高度性」「時間のゆとり」「社風や雰囲気」「職場内での人間関係」「知名度や会社の規模」「女性や若者が活躍できる」「社会に貢献できる、人の役に立つことができる」「自分が持っている能力を発揮して活躍できる」が優位にある。

進学時流出組の男性が東京圏の生活（仕事面）に関する満足度で半数以上が“満足”“やや満足”と回答した項目は、「希望の業種や職種」「働きがい、仕事の面白さ」「安定性」「成長性」「時間のゆとり」「福利厚生」「職場内の人間関係」「知名度や会社の規模」「自分の経験や知識を活かせる」「高度なスキルや経験を身につけることができる」「社会に貢献できる、人の役に立つことができる」「自分が持っている能力を発揮して活躍できる」の12/17項目あった。

進学時流出組の女性が東京圏の生活（仕事面）に関する満足度で半数以上が“満足”“やや満足”と回答した項目は、「希望の業種や職種」「働きがい、仕事の面白さ」「安定性」「時間のゆとり」「社風や雰囲気」「職場内での地位、評価」「職場内の人間関係」「知名度や会社の規模」「自分が持っている能力を発揮して活躍できる」の9/17項目あった。

進学時流出組の男女を比較すると、男性で満足している項目が多い。男女を比較すると、男性では「成長性」「福利厚生」「自分の経験や知識を活かせる」「高度なスキルや経験を見につけることができる」「社会に貢献できる、人の役に立つことができる」が優位で、女性では「社風や雰囲気」「職場内での地位、評価」が優位となって

いる。

就職時転出組の男性が東京圏の生活（仕事面）に関する満足度で半数以上が“満足”“やや満足”と回答した項目は、「希望の業種や職種」「働きがい、仕事の面白さ」「収入、給与」「安定性」「成長性」「先進性」「時間のゆとり」「福利厚生」「社風や雰囲気」「職場内での地位、評価」「職場内での人間関係」「知名度や会社の規模」「女性や若者が活躍できる」「自分の経験や知識を活かせる」「高度なスキルや経験を身につけることができる」「社会に貢献できる、人の役に立つことができる」「自分が持っている能力を発揮して活躍できる」の17/17項目あった。

就職時転出組の女性が東京圏の生活（仕事面）に関する満足度で半数以上が“満足”“やや満足”と回答した項目は、「希望の業種や職種」「働きがい、仕事の面白さ」「安定性」「時間のゆとり」「女性や若者が活躍できる」「自分の経験や知識を活かせる」「社会に貢献できる、人の役にたつことができる」「自分が持っている能力を発揮して活躍できる」の8/17項目あった。

就職時転出組の男女を比較すると、男性で満足している項目が多い。

■生活に関する項目

(a) 進学時流出組では、女性では多様な項目で生活に関する満足している者の比率が高いが、男性では満足している項目が少ない。(b) 就職時転出組では、男性では多様な項目の生活に関する満足している者の比率が高いが、女性では満足している項目が少ない。(c) Uターン組では、生活に関する項目で満足している項目が少ない。

(d) ずっと岩手盛岡組では、生活に関する項目で満足している項目が少ない

ずっと岩手盛岡組の男性が盛岡広域の生活（生活面）に関する満足度で半数以上が“満足”“やや満足”と回答した項目は、0/13項目あった。

ずっと岩手盛岡組の女性が盛岡広域の生活（生活面）に関する満足度で半数以上が“満足”“やや満足”と回答した項目は「友人関係」「買い物、ショッピング」「住居の広さ」「食生活」の4/13項目あった。

Uターン組の男性が盛岡広域の生活（生活面）に関する満足度で半数以上が“満足”“やや満足”と回答した項目は、0/13項目あった。

Uターン組の女性が盛岡広域の生活（生活面）に関する満足度で半数以上が“満足”“やや満足”と回答した項目は「友人関係」の1/13項目あった。

就職時転出組の男性が東京圏の生活（生活面）に関する満足度で半数以上が“満足”“やや満足”と回答した項目は、「趣味、社外活動の充実」「趣味・社外活動における人間関係」「友人関係」「パートナー」「レジャー・娯楽・あそび」「買い物、ショッピング」「住居の広さ」「通勤」「食生活」「生活費」「親・親族との人間関係」「町内会・近所づきあいなど地域の人間関係、助け合い」の12/13項目あった。

進学時流出組の男性が東京圏の生活（生活面）に関する満足度で半数以上が“満足”“やや満足”と回答した項目は、「趣味・社外活動の充実」「レジャー・娯楽・あそび」「買い物、ショッピング」「住居の広さ」「食生活」の4/13項目あった。

進学時流出組の女性が東京圏の生活（仕事面）に関する満足度で半数以上が“満足”“やや満足”と回答した項目は、「趣味・社外活動の充実」「趣味・社外活動における人間関係」「友人関係」「パートナー」「レジャー・娯楽・あそび」「買い物、ショッピング」「住居の広さ」「通勤」「食生活」「居住費」「生活費」「親・親族との人間関係」の12/13項目あった。

進学時流出組の男女を比較すると、女性で東京圏の生活に満足している項目が圧倒的に多い。

就職時転出組の女性が東京圏の生活（生活面）に関する満足度で半数以上が“満足”“やや満足”と回答した項目は、「趣味、社外活動の充実」「パートナー」「レジャー・娯楽・あそび」「買い物、ショッピング」「住居の広さ」「食生活」「親・親族との

人間関係」の7/13項目あった。

なお、文中単に「満足している」といったときには、「満足」「やや満足している」と回答したものを指し、逆も同様である。

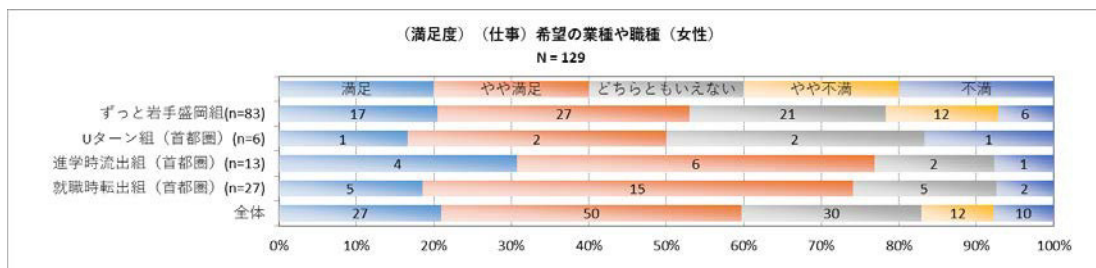
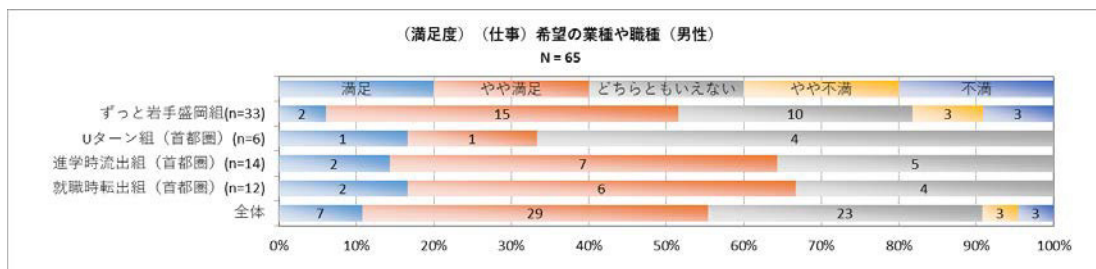
ア (仕事) 希望の業種や職種

この項目では、本人の希望の業種や職種に就けているかの満足度を尋ねた。

男性と女性では、女性で満足している傾向が強く、「満足」の構成比は男性の倍近くに達する。

男女とも、東京圏就職グループで満足している比率が高く、男性では6割を超え、女性では7割を超える。

「やや不満」「不満」と回答した者は、男女ともずっと岩手盛岡組で2割程度出現している。

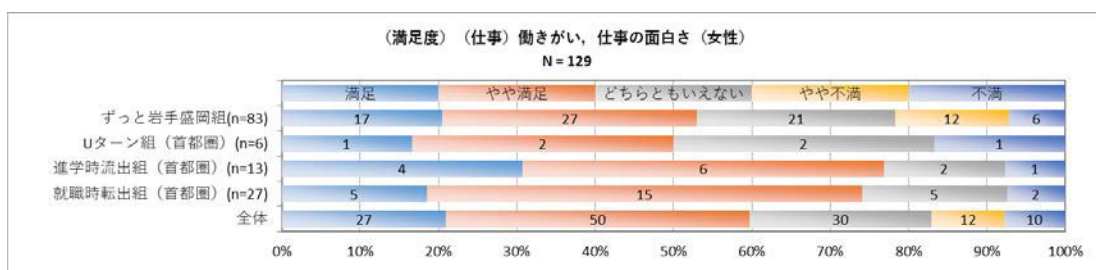
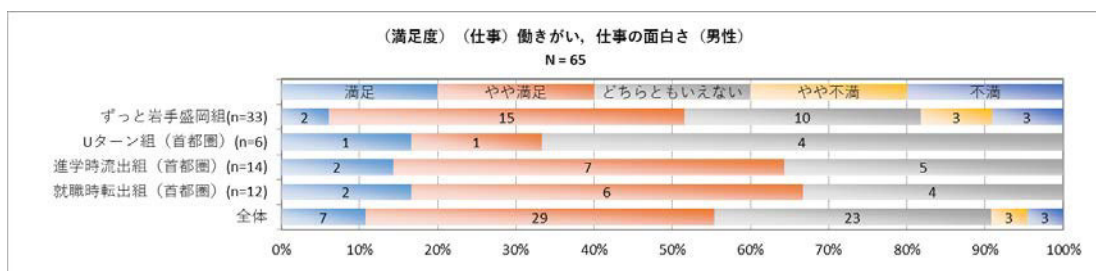


イ (仕事) 働きがい, 仕事の面白さ

この項目では、仕事の面白さの満足度を尋ねた。

回答の傾向は前の項目と同じであり、自らの希望した業種、職種で働けることが働きがいや面白さと関係性が高いことをうかがわせる。

盛岡広域就職グループで比較的満足している者の比率が低く、東京圏就職グループで満足している者の比率が高い。



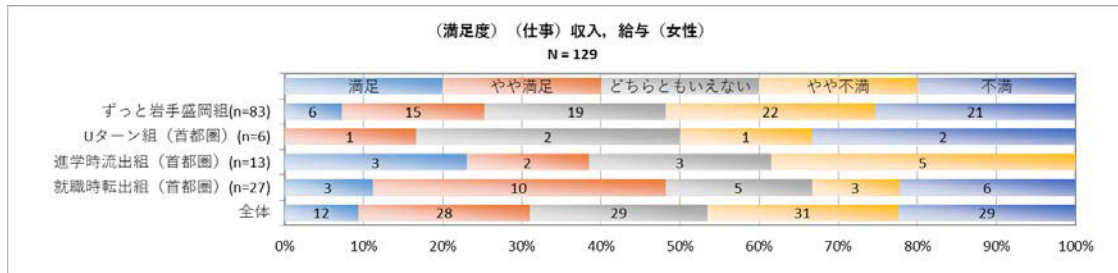
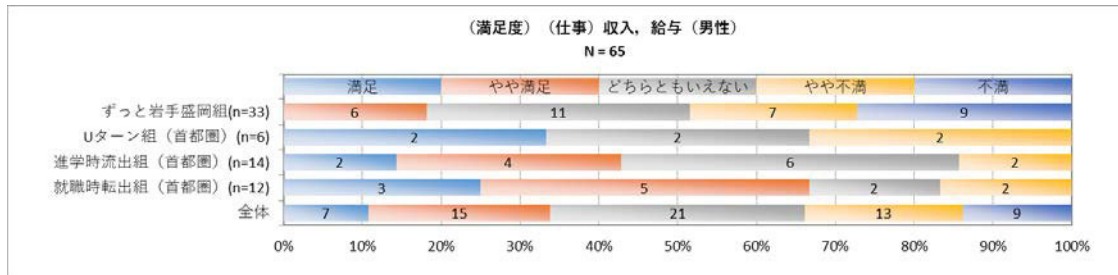
ウ （仕事）収入，給与

この項目では，主観的な収入，給与の満足度を尋ねた。

本項目では収入，給与の満足度すなわち自らの仕事の内容や能力に応じた満足度を尋ねており，収入の高さについて尋ねていないことに留意が必要である。

男女とも就職時転出組で満足している者の比率が高く，女性では5割に迫り，男性では6割を超える。また，ずっと岩手盛岡組では満足している者の比率が低く，男女とも3割に満たない。

「やや不満」「不満」と回答した者は，女性で4割を超え，「不満」と回答した者はずっと岩手盛岡組，Uターン組，進学時流出組で2割を超えている。また，進学時流出組では「不満」が出現していない。男性では，「不満」と回答した者はずっと岩手盛岡組に集中している。

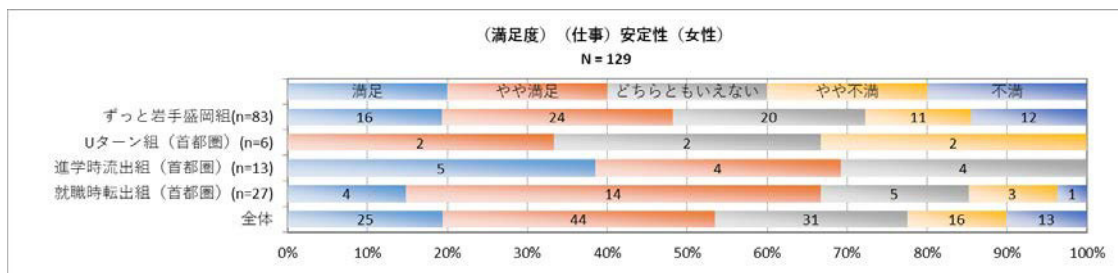
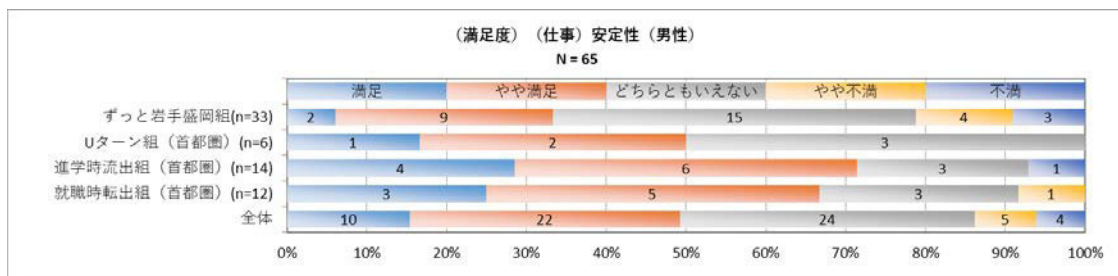


エ （仕事）安定性

この項目では，仕事の安定性の満足度を尋ねた。

男女とも東京圏就職グループで満足している者の比率が7割に達する。

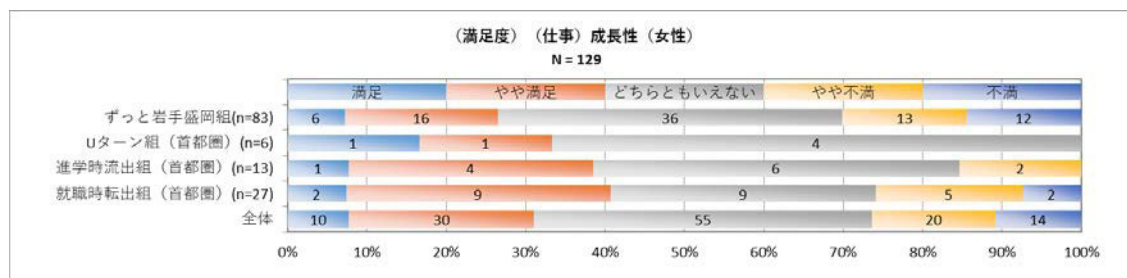
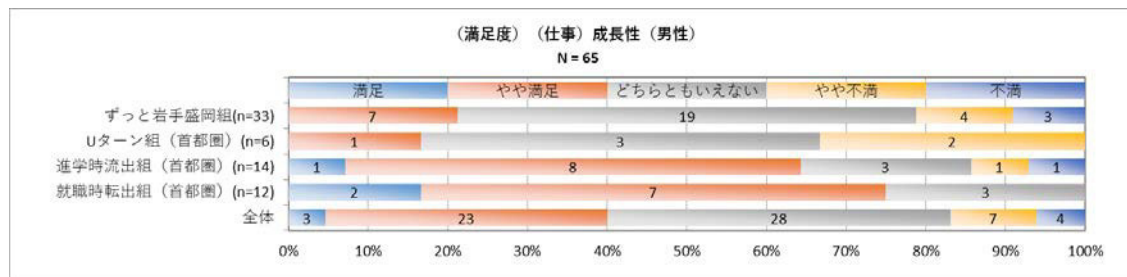
一方で，盛岡広域就職グループでは半数を割り込んでおり，特に女性で「やや不満」「不満」の比率が高い。



オ （仕事）成長性

この項目では，仕事の成長性の満足度を尋ねた。

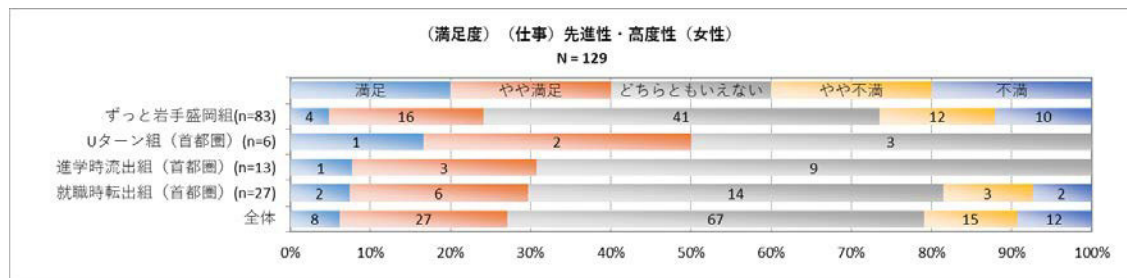
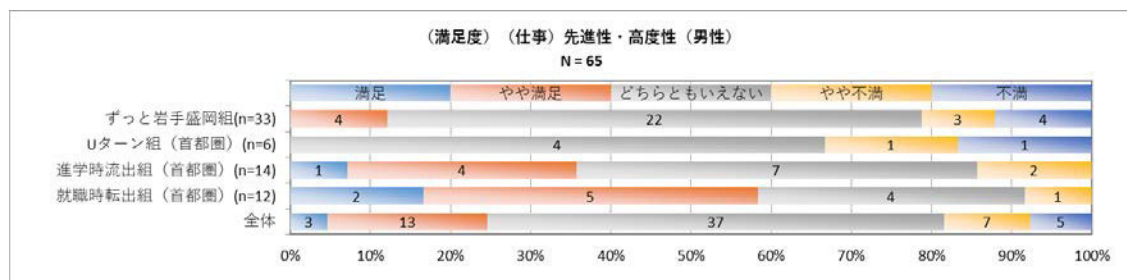
成長性に係る満足度は男性の東京圏就職グループで満足している者の比率が高く、就職時流出組で特に高い。女性では3-4割が満足している比率が高く、東京圏就職グループで特に高い。「やや不満」「不満」の比率は女性で高く、ずっと岩手盛岡組と就職時転出組で特にその傾向が強い。



カ (仕事) 先進性・高度性

この項目では、仕事の先進性・高度性の満足度を尋ねた。

先進性・高度性について満足している者の比率は、男性の就職時転出組で特に高く、進学時流出組が次ぐ。女性ではUターン組で満足している者の比率が高い。

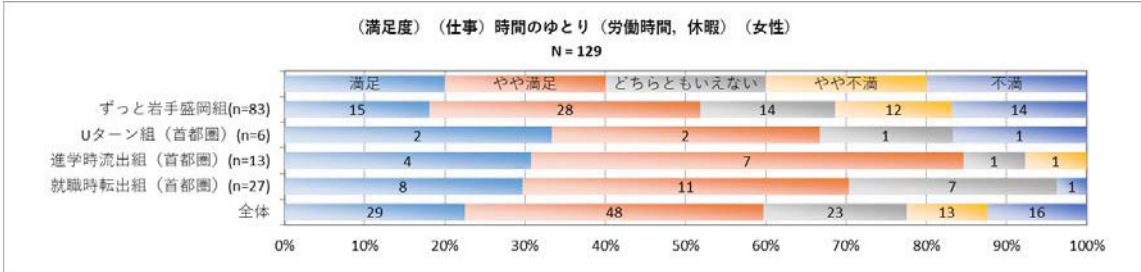
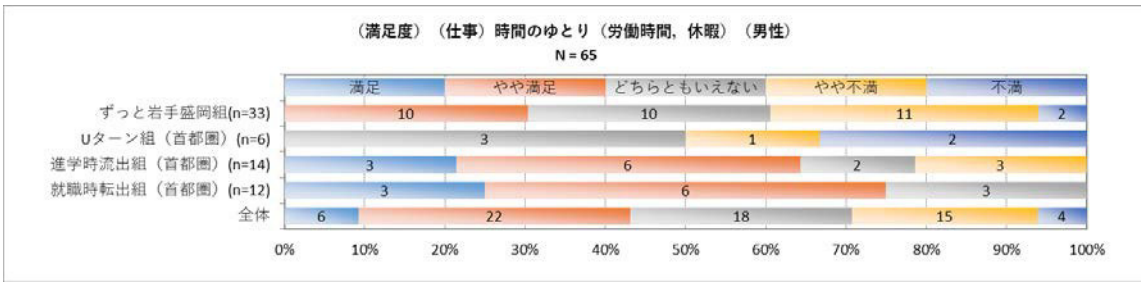


キ (仕事) 時間のゆとり (労働時間, 休暇)

この項目では、仕事における時間のゆとりの満足度を尋ねた。

男性と女性を比較すると、女性で満足している者の比率が高い。女性ではすべての組で満足している者の比率が高く、最も低いずっと岩手盛岡組でも半数を超える。ただし、「やや不満」「不満」はずっと岩手盛岡組で特に高い。

男性では、東京圏就職グループで満足している者の比率が高く、6割を超える。一方で、盛岡広域就職グループでは「やや不満」「不満」の構成比が高い。

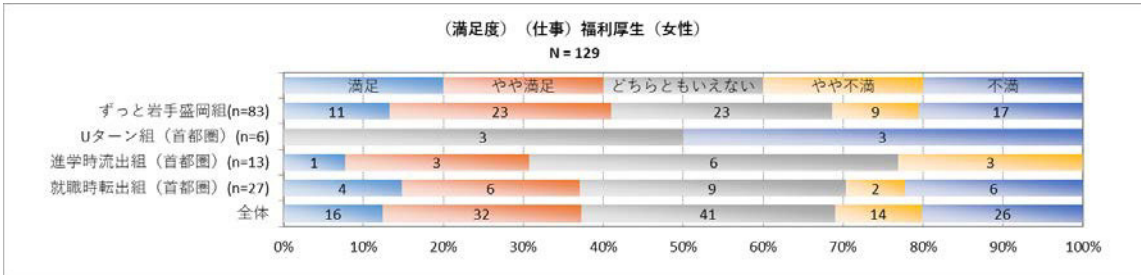
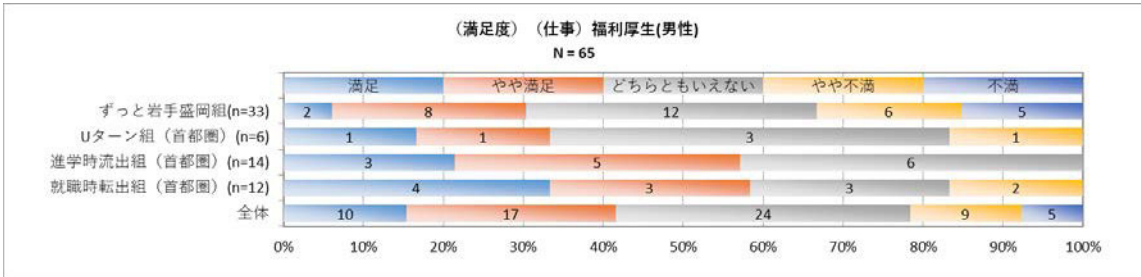


ク (仕事) 福利厚生

この項目では、仕事における福利厚生の満足度を尋ねた。

男性と女性を比較すると、男性で満足している者の構成比が高く、東京圏就職グループで半数を超えるが、盛岡広域就職グループでは3割程度にとどまる。女性では4割程度だが、不満を抱いている者の比率は男性より高く3割を占めており、Uターン組で特に高い。

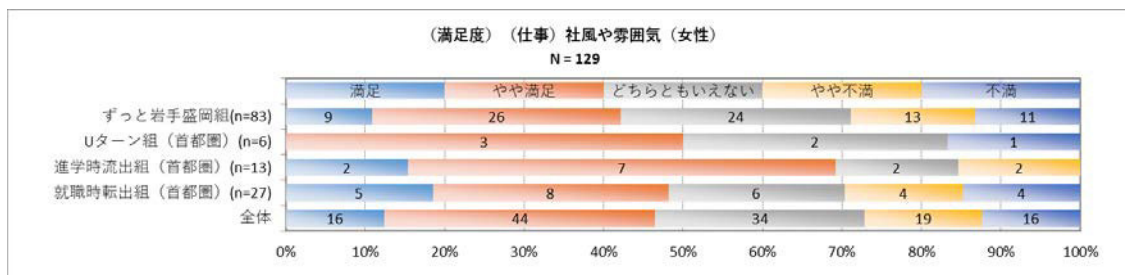
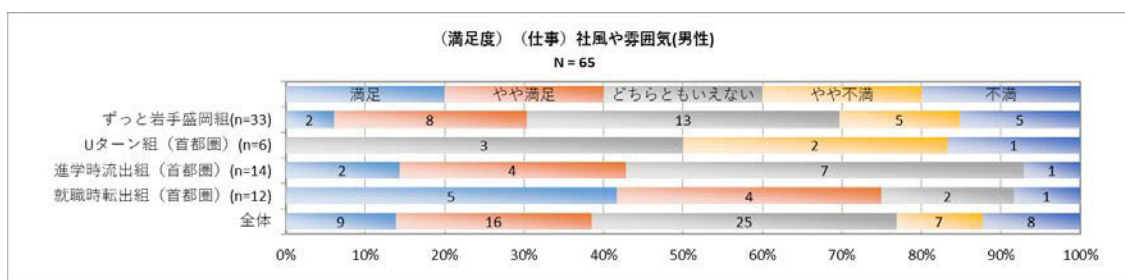
設問(満足度)(仕事)収入、給与と同じ傾向を持っているが、「どちらともいえない」の回答が比較的多く、収入、給与のほうがより鋭敏な反応をもたらすと考えられる。



ケ (仕事) 社風や雰囲気

この項目では、仕事における社風や雰囲気の満足度を尋ねた。

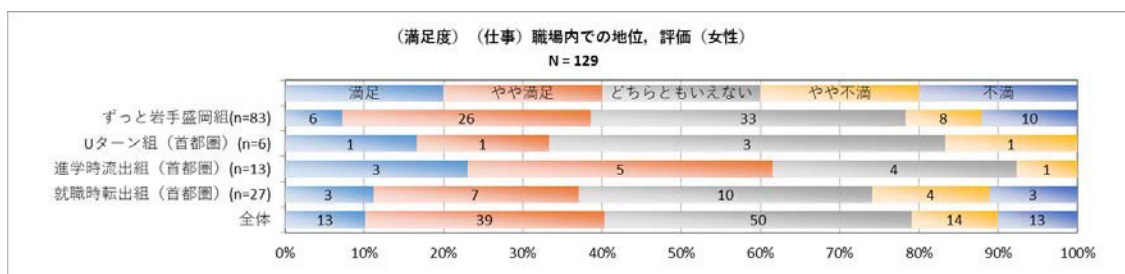
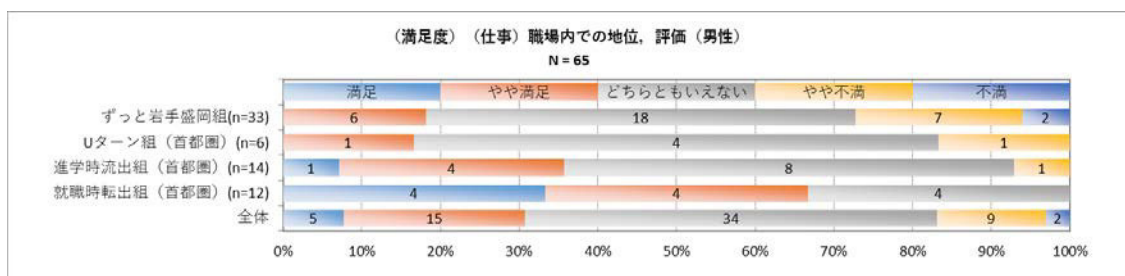
男性では、就職時転出組で満足している者の比率が高い。盛岡広域就職グループで不満を抱いている者の比率が高いが、特にUターン組で高い。女性では、どの組でも一定の満足している者が存在するが、進学時流出組では特に満足している者の比率が高い。また、Uターン組の女性では不満度が低いのが男性とは対照的である。



コ (仕事) 職場内での地位, 評価

この項目では、仕事における地位や自分が受けている評価の満足度を尋ねた。

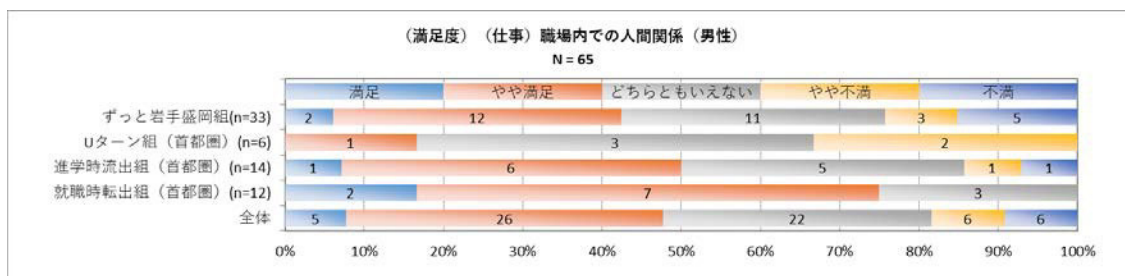
男性では、就職時転出組で満足している者の比率が高いが、盛岡広域就職グループでは満足している者の比率が低い。女性では、進学時流出組で満足している者の比率が高く、その他の組では4割程度の者が満足している。

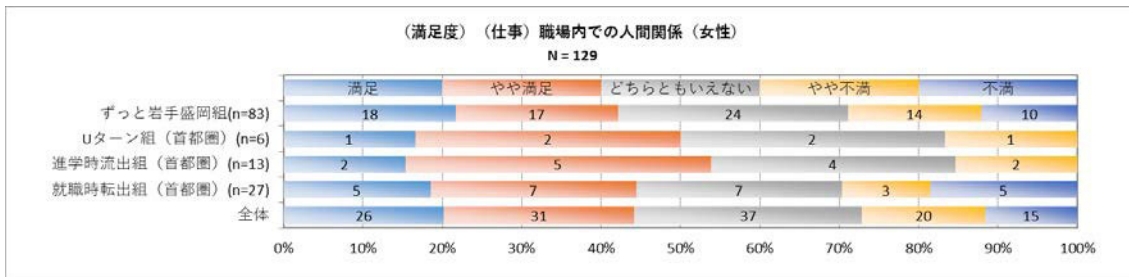


サ (仕事) 職場内での人間関係

この項目では、仕事における人間関係の満足度を尋ねた。

男性では、就職時転出組で満足している者の比率が高く、進学時流出組がこれに次ぎ、ずっと岩手盛岡組でも4割程度の満足しているものが存在する。女性では、いずれの組でも満足している者の比率が高いものが4割程度を占める。



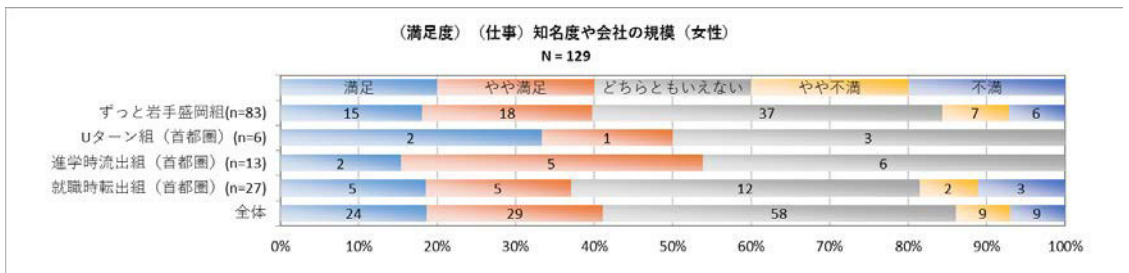
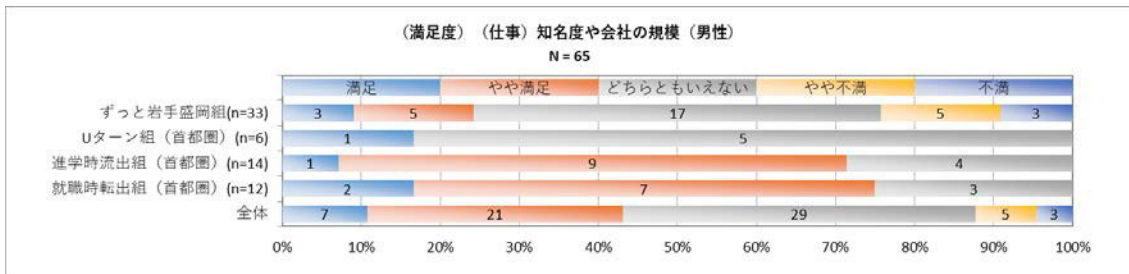


シ (仕事) 知名度や会社の規模

この項目では、勤め先の知名度や会社の規模の満足度を尋ねた。

男性では、東京圏就職グループで満足している者の比率が高く、盛岡広域就職グループで満足している者の比率が低い。また、不満を抱いている者はずっと岩手盛岡組で2割を超える。

女性では、どの組でもおおむね4-5割程度満足しているものが占める。

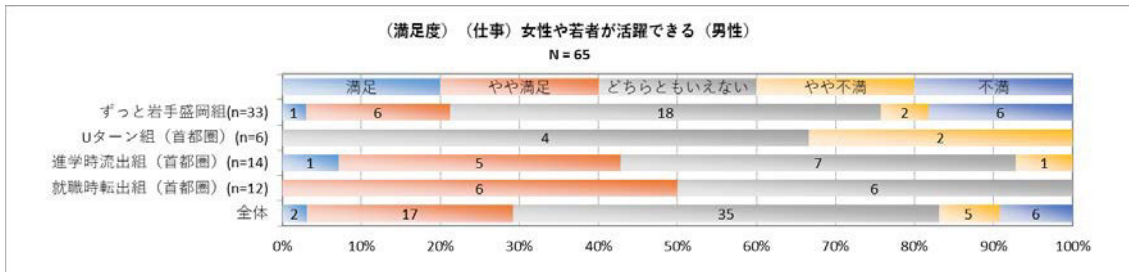


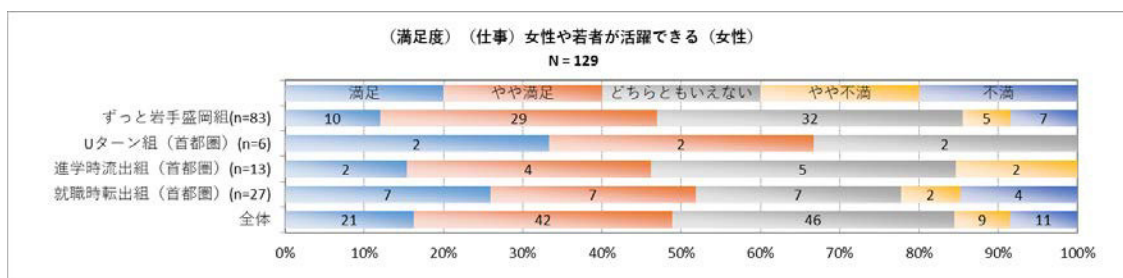
ス (仕事) 女性や若者が活躍できる

この項目では、職場で女性や若者の活躍ができるかについて満足度を尋ねた。

男性では、就職時転出組と進学時流出組で満足している者の比率が4割を超えるが、盛岡広域就職グループでは満足している者の比率が低く、かつ不満と回答した者が2割を超える。

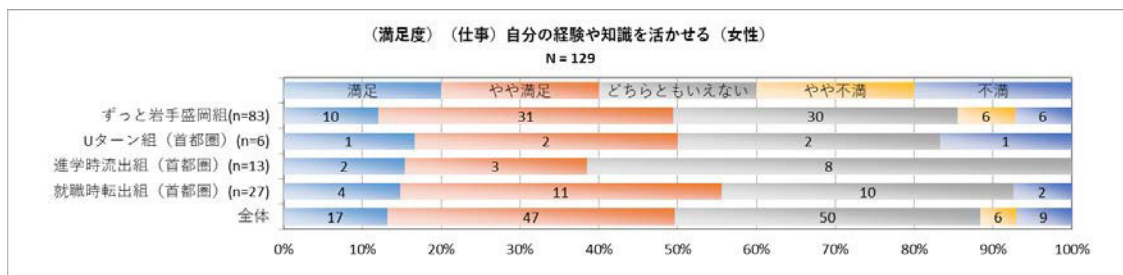
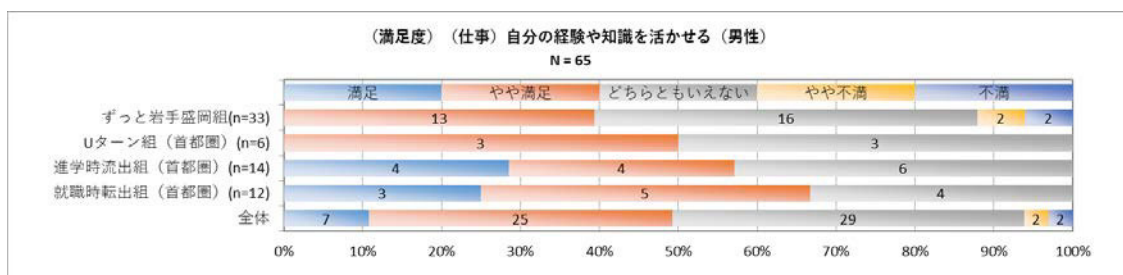
女性では、どの組でも満足しているものが5割程度おり、Uターン組で最も高い。





セ (仕事) 自分の経験や知識を活かせる

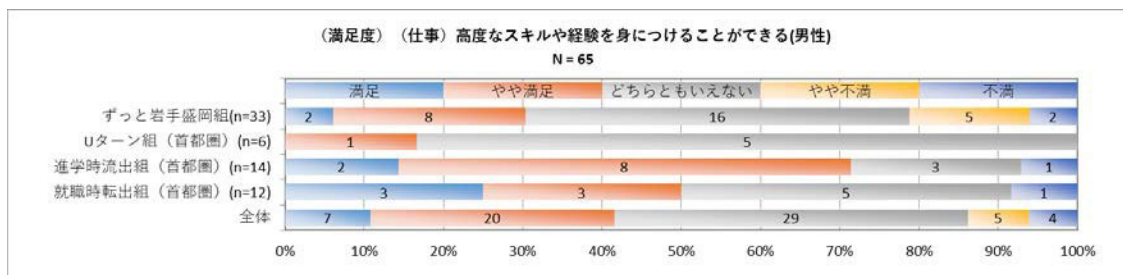
この項目では、職場で自分の経験や知識を活かすことができるか満足度を尋ねた。男性では、就職時転出組が最も満足している者の比率が高く、進学時流出組が次ぎ、Uターン組、ずっと盛岡組の順に満足している者の比率が低くなる。女性では、いずれの組でも満足しているものが5割程度存在する。

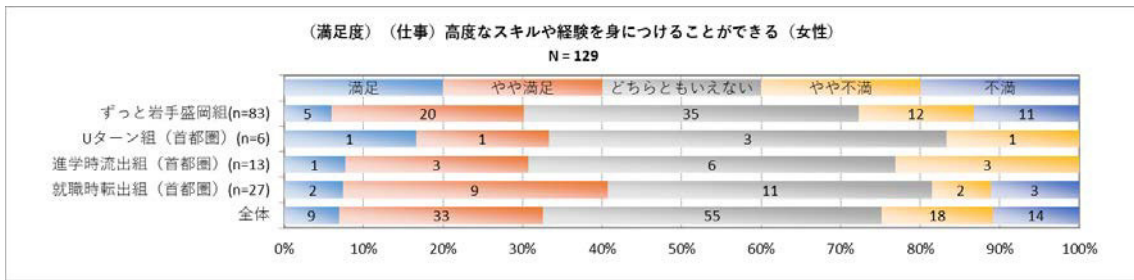


ソ (仕事) 高度なスキルや経験を身に付けることができる

この項目では、仕事で高度なスキルや経験を身に付けることができるか満足度を尋ねた。

男性では、就職時転出組で満足している者の比率が7割程度と高く、進学時流出組で5割程度存在する。ずっと岩手盛岡組、Uターン組では満足している者の比率が低い。女性では、いずれの組でも満足しているものが3割程度に達する一方で、いずれの組でも不満を抱いているものが2割程度存在する。



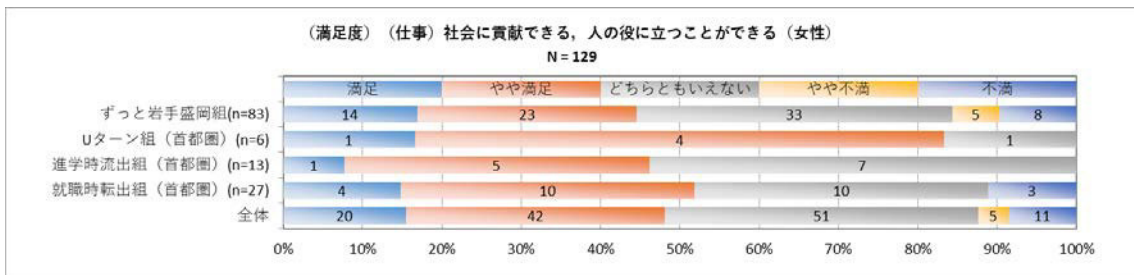
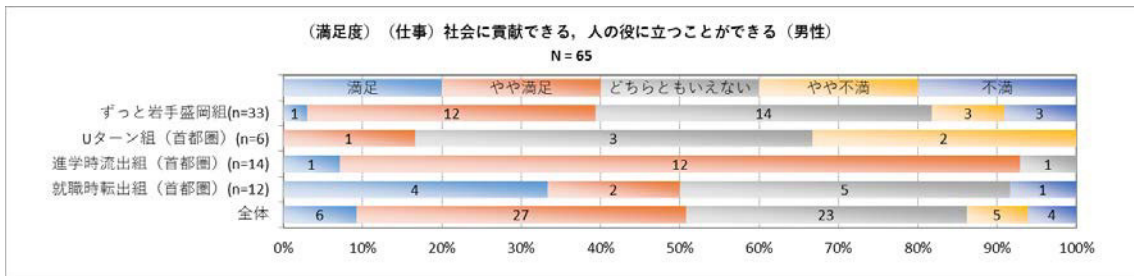


タ (仕事) 社会に貢献できる, 人の役に立つことができる

この項目では, 仕事で社会に貢献できる, 人の役に立つことができているかの満足度を尋ねた。

男性では, 進学時流出組で満足している者の比率が高く 9 割に達している。次いで就職時転出組で半分に達しており, 東京圏就職グループで満足している者の比率が高い。Uターン組では満足している者の比率が低い。

女性では, Uターン組で満足している者の比率が極めて高く, それ以外の組でも満足している者は 4 割に達している。



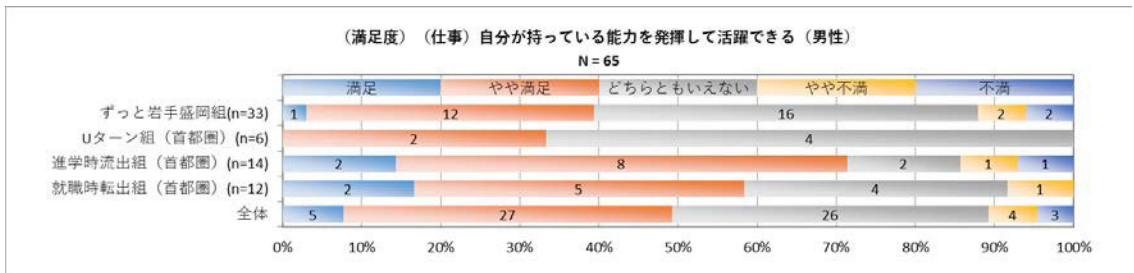
チ (仕事) 自分が持っている能力を発揮して活躍できる

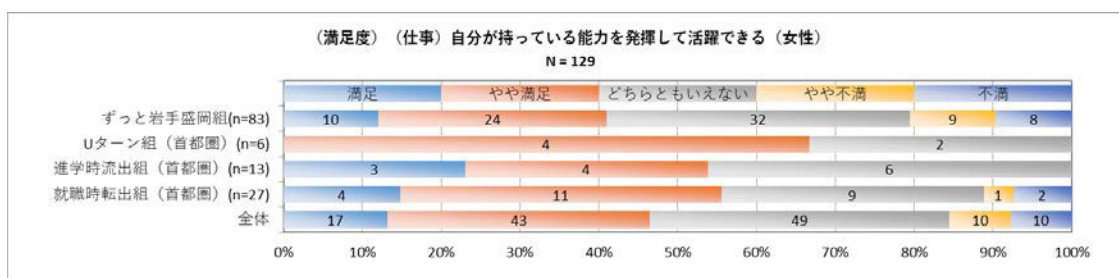
この項目では, 仕事で社会に貢献できる, 人の役に立つことができているかの満足度を尋ねた。

男性では, 東京圏就職グループで満足している者の比率が高く, 満足している者が 6 - 7 割いる。盛岡広域就職グループでは 3 - 4 割程度の満足している者が存在する。

女性では, Uターン組で満足している者が 6 割を超え, 進学時流出組で 5 割を超える。

分布は, 設問「社会に貢献できる, 人の役に立つことができる」と類似している。



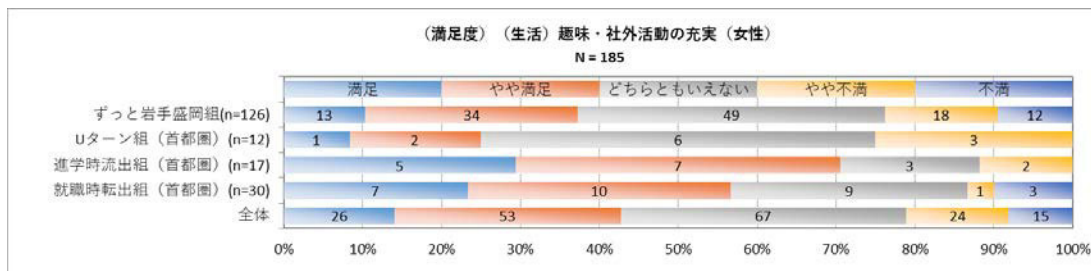
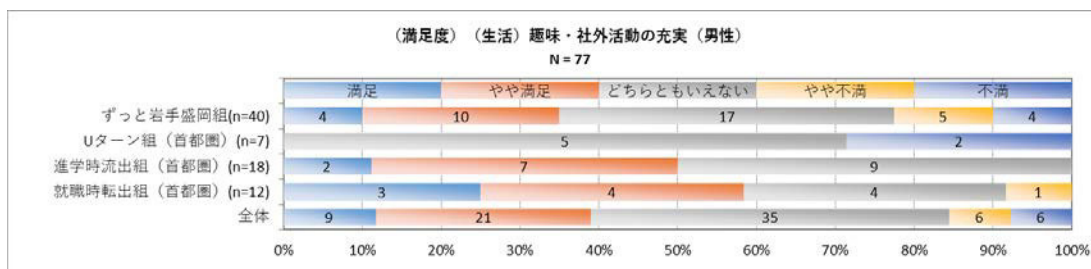


ツ (生活) 趣味・社外活動の充実

この項目では、生活で趣味や社外活動の満足度を尋ねた。

男性では、東京圏就職グループで満足している者の比率が高く、5－6割満足している者が存在する。ずっと岩手盛岡組では3割程度が満足しているが、盛岡広域就職グループでは3－4割程度が満足している。

女性では、進学時流出組で満足している者が7割を超え、就職時転出組で5割を超える。



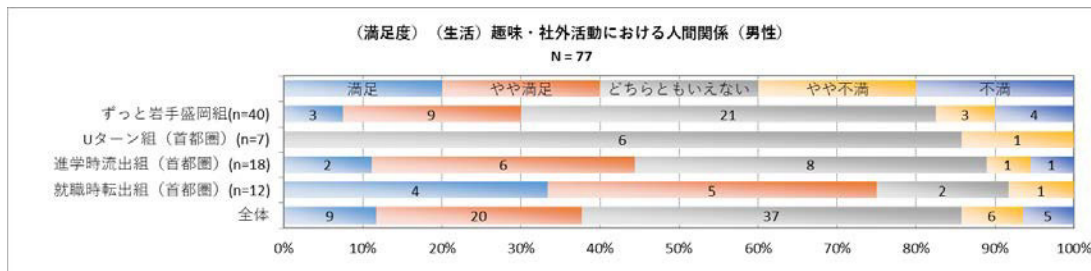
テ (生活) 趣味・社会外活動における人間関係

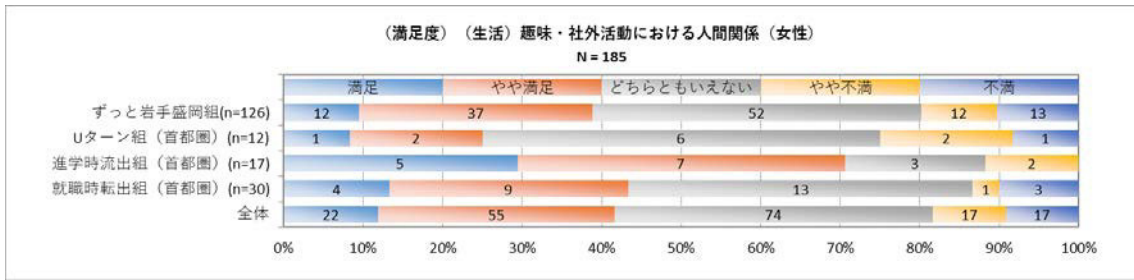
この項目では、生活で趣味や社外活動で接する他者との人間関係の満足度を尋ねた。

男性では、就職時転出組で満足している比率がとびぬけて高く、「満足」と回答した割合も3割を超えている。進学時流出組で4割、ずっと岩手盛岡組で3割程度が満足している傾向にある。

女性では、進学時流出組で満足している比率が高く、ずっと岩手盛岡組及び就職時転出組では4割程度が満足している傾向にある。

一方、男女ともUターン組で満足している者の比率が低い。

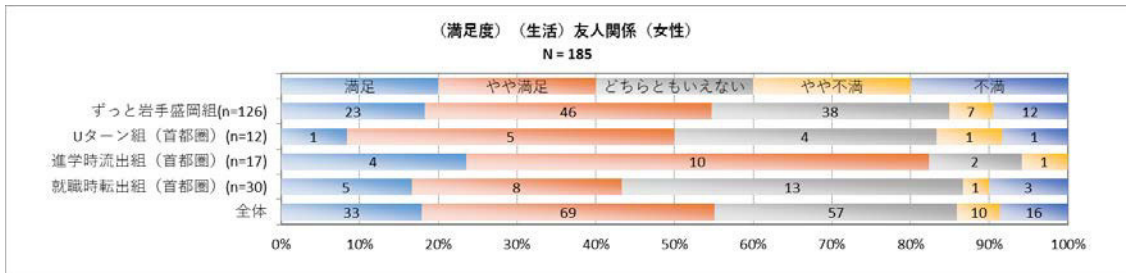
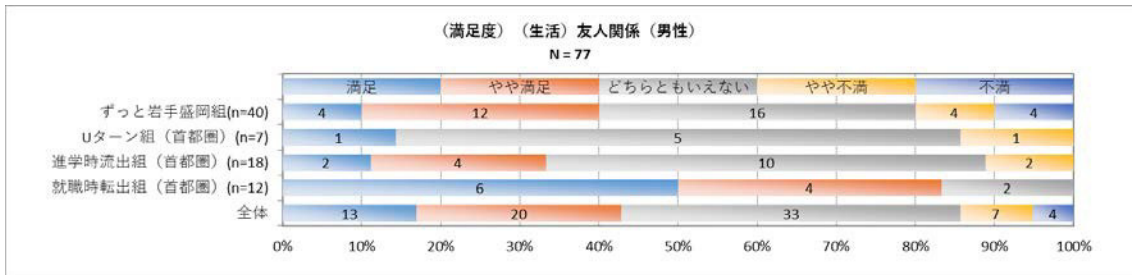




ト (生活) 友人関係

この項目では、生活における友人との人間関係の満足度を尋ねた。男性では、就職時転出組で満足している比率がとびぬけて高く、「満足」と回答した割合が5割を超えている。進学時流出組とずっと岩手盛岡組では3-4割にとどまり、Uターン組では満足している者の比率が少ない。

女性では、進学時流出組で満足している比率が高く、ずっと岩手盛岡組、Uターン組が5割程度で次ぎ、就職時転出組では4割程度に落ちる。

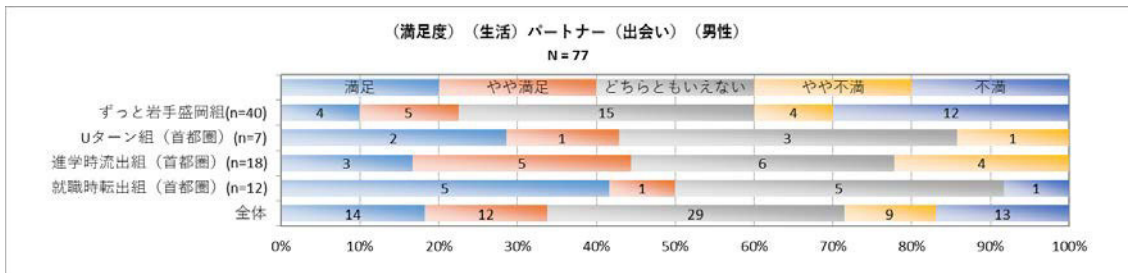


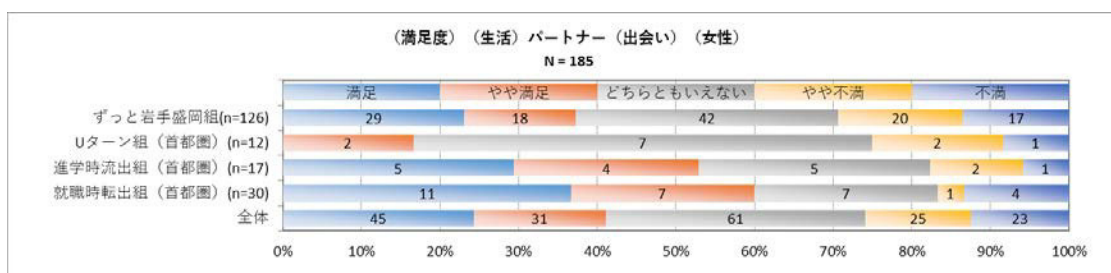
ナ (生活) パートナー (出会い)

この項目では、生活でパートナーまたはパートナーとの出会いの満足度を尋ねた。

男性で、就職時転出組で満足している者の比率が高く、「満足」と回答した割合も4割を超えた。次いで進学時流出組、Uターン組で満足している者の比率が高いが、ずっと岩手盛岡組では満足している者の比率が低く、「やや不満」「不満」と回答した者が4割と著しく多い。

女性でも就職時転出組で満足している者の比率が高く、進学時流出組が半数を超え、ずっと岩手盛岡組が次ぐ。Uターン組では満足している者の比率が低い。「やや不満」「やや満足」の比率は、盛岡広域就職グループで3割程度発生している。





二 (生活) レジャー, 娯楽, 遊び

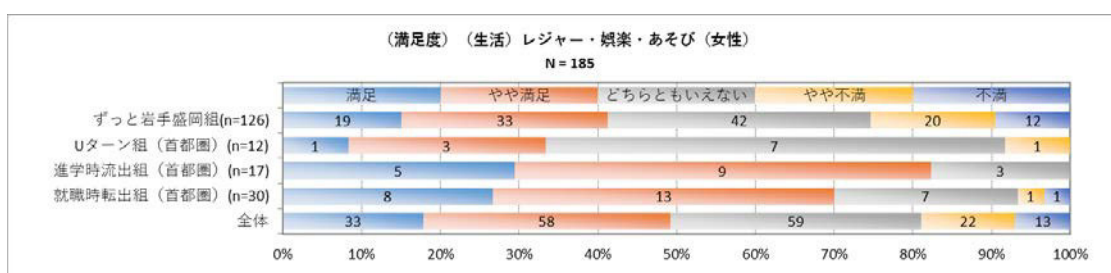
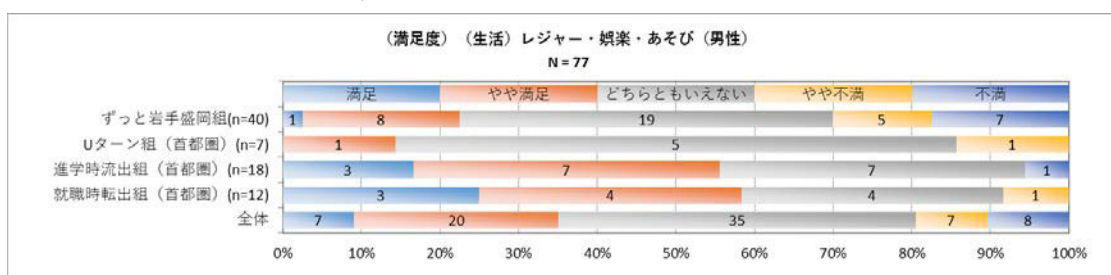
この項目では、生活でレジャーや娯楽、遊びの満足度を尋ねた。

男性と女性では、女性の満足している者の比率が高く 5 割に達する。

男性では東京圏就職グループで満足している者の比率が高く 5 割を超える。盛岡広域就職グループでは 3 割程度にとどまり、ずっと岩手盛岡組では 3 割程度が不満を抱いている。

女性では東京圏就職グループで満足している者の比率が高く 7 割を超える。岩手就職組では 3-4 割にとどまり、2 割程度が不満を抱いている。

男女ともUターン組では、満足している者の比率が低い傾向がみられる。



又 (生活) 買い物, ショッピング

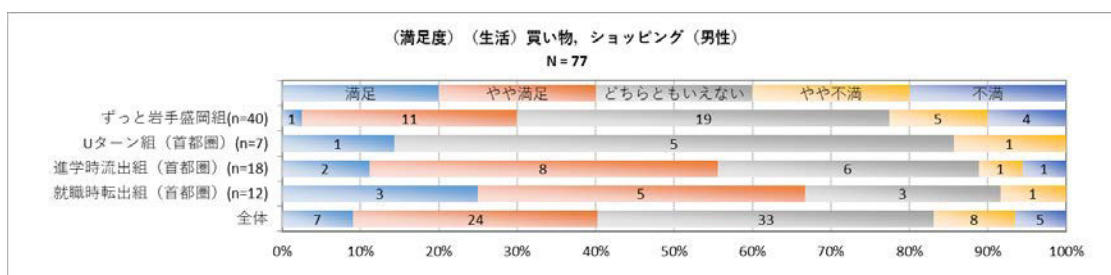
この項目では、生活で買い物、ショッピングの満足度を尋ねた。

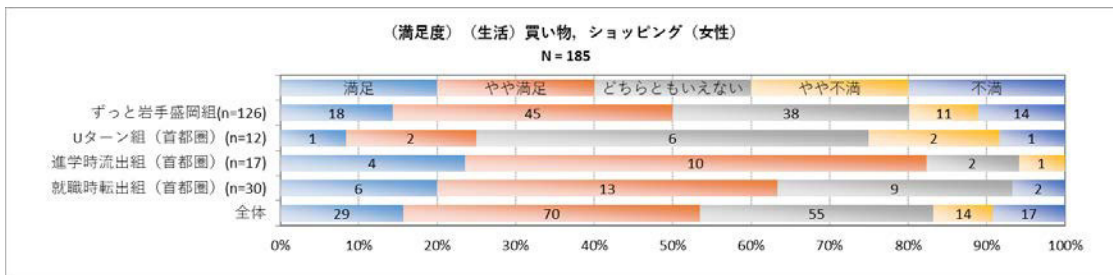
男性と女性では、女性で満足している者の比率が高く 5 割に達する。

男性では東京圏就職グループで満足している者の比率が高く、就職時転出組で 6 割を超える。盛岡広域就職グループでは 3 割程度にとどまる。

女性では東京圏就職グループで満足している者の比率が高く、進学時流出組では 7 割を超える。ずっと岩手盛岡組でも半数が満足している傾向がある。

男女ともUターン組で満足している者の比率が低い傾向がみられ、特に女性では 2 割が不満を抱いている。





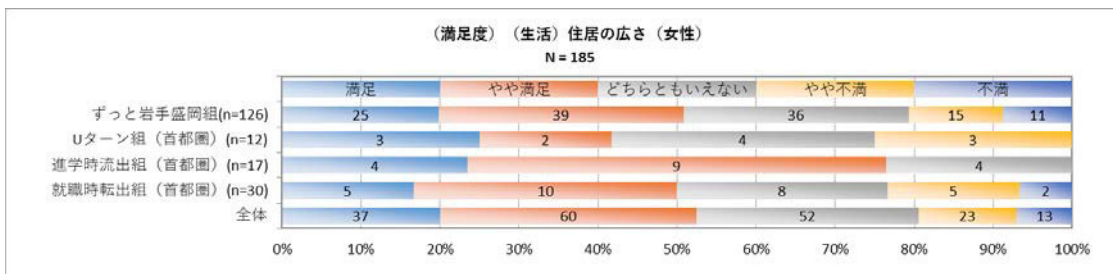
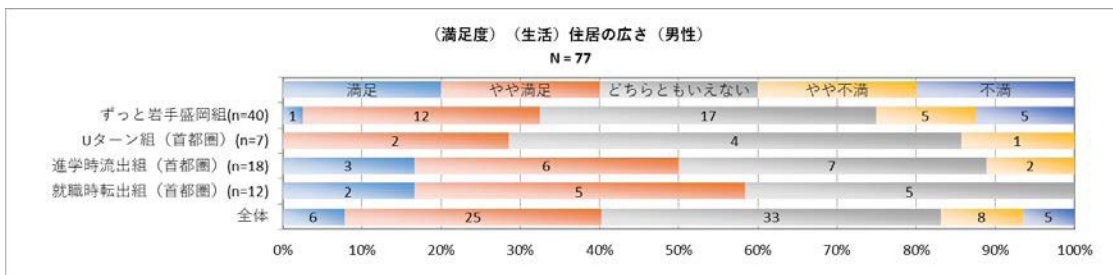
ネ (生活) 住居の広さ

この項目では、生活で住居の広さの満足度を尋ねた。必ずしも住居の面積が満足の数合いと一致しないことについては留意が必要である。

男性と女性では、女性で満足している者の比率が高く 5 割に達する。

男性では東京圏就職グループで満足している者の比率が高く 5 割を超える。盛岡広域就職グループでは 3 割程度にとどまり、うちずっと岩手盛岡組では 2 割程度が不満を抱いている。

女性では進学時流出組が突出しており満足している者の比率は 7 割を超える。しかしながら、その他の組でも半数程度が満足しており、「満足」の数合いはどの組でも 2 割程度を有し、また不満を抱いている者も 2 割程度存在する。



ノ (生活) 通勤

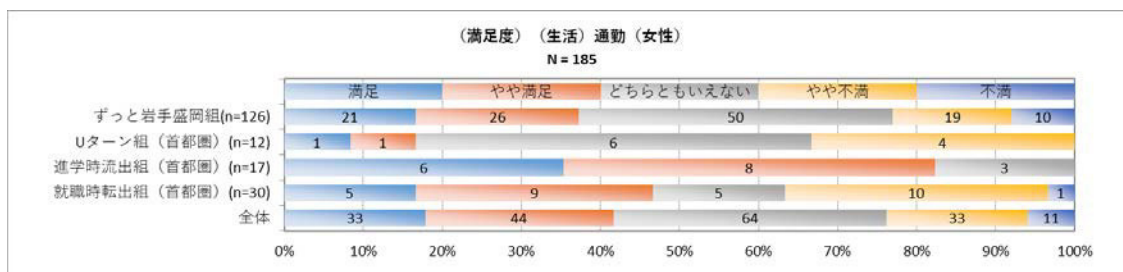
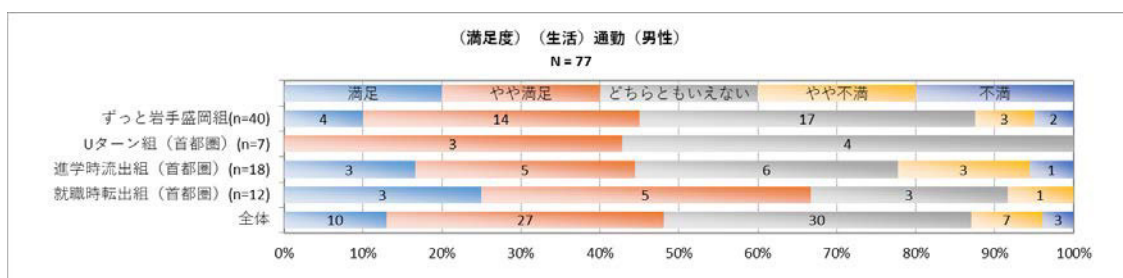
この項目では、生活で通勤の満足度を尋ねた。

男性と女性では、男性の満足している者の比率が高く 5 割に達する。

男性では東京圏就職グループで満足している者の比率が高く 6 割程度となっており、その他の組の満足している者の比率は 4 割程度となっている。不満を抱いている者は進学時流出組で突出しており 2 割程度になっている。

女性では進学時流出組で満足している者の比率が高く 8 割程度に達している。就職時転出組では満足している者の比率は 4 割程度だが、不満を抱いている者は 3 割を超えている。

盛岡広域就職グループでは、ずっと岩手盛岡組で満足している者の比率が 3 割を超えるものの、Uターン組では 2 割に達せず不満を抱いている者の比率が 3 割を超えている。



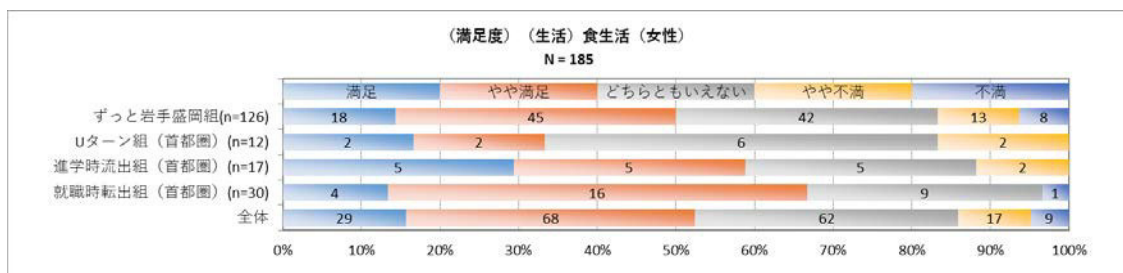
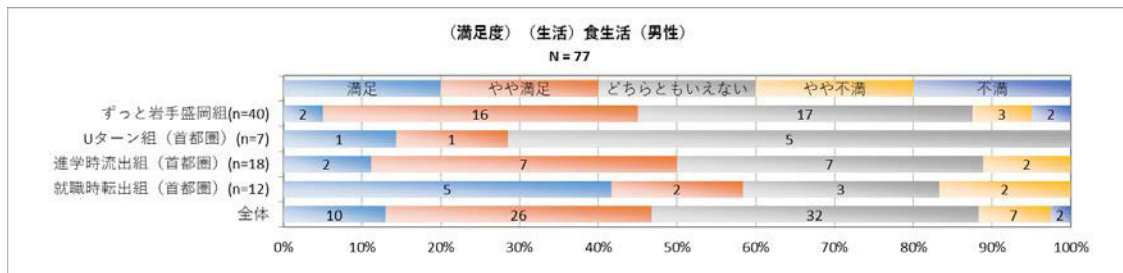
ハ (生活) 食生活

この項目では、生活で食生活の満足度を尋ねた。

男性では東京圏就職グループで満足している者の比率が高く6割程度となっており、進学時流出組、ずっと岩手盛岡組が続き、Uターン組が最も低い。「満足」の回答比率は、就職時転出組で高くなっている。

女性も男性と同じような傾向をもっているが、「満足」の回答比率は、進学時流出組で高くなっている。

ずっと岩手盛岡組でも半数程度の者が満足している傾向がみえる。



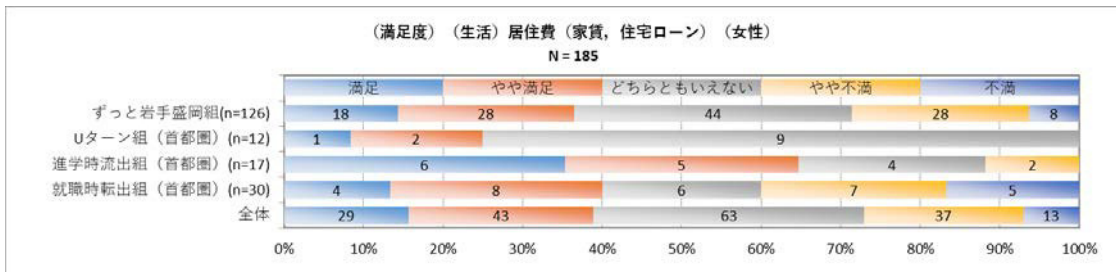
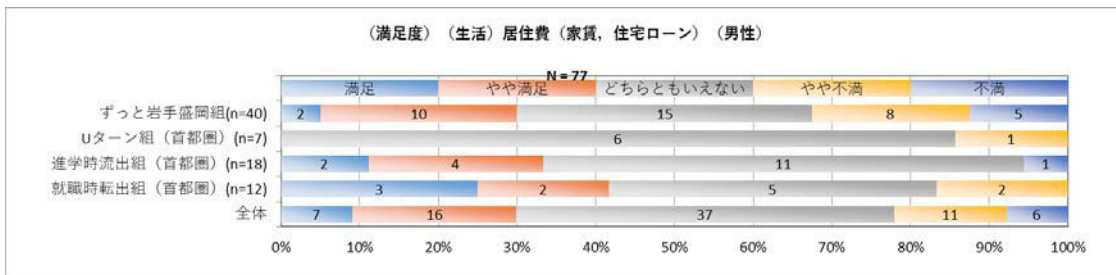
ヒ (生活) 居住費 (家賃, 住宅ローン)

この項目では、生活における居住費の満足度を尋ねた。

男性と女性では、女性で満足している者の比率が高い。

男性では、就職時転出組で満足している者の比率が高く、「満足」と回答した者が2割程度存在する。一方、ずっと岩手盛岡組では不満を抱いている者が3割程度存在する。

女性では、進学時流出組で満足している者の比率が高く、「満足」と回答した者が3割を超える。一方で、女性で不満を持つ層は、就職時転出組で最も多く、4割に達し、ずっと岩手盛岡組でも3割に達する。

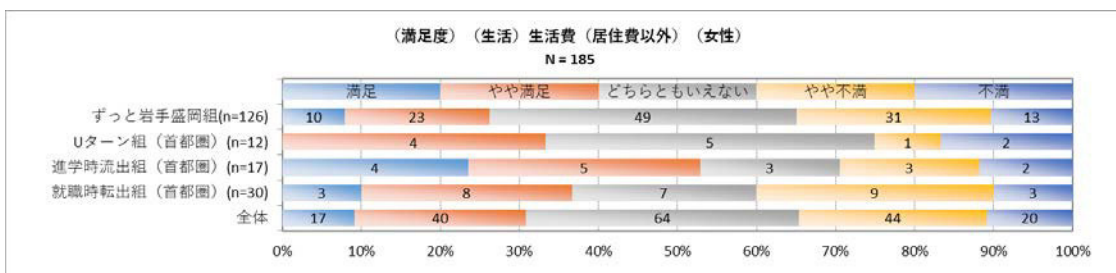
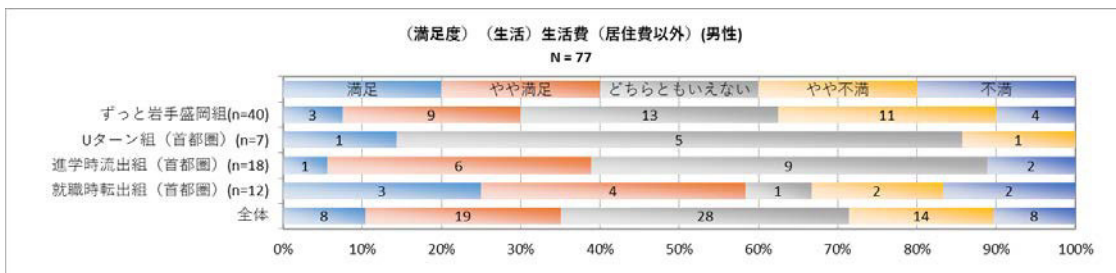


フ (生活) 生活費 (居住費以外)

この項目では、生活における居住費以外の生活費の満足度を尋ねた。

男性では、就職時転出組で満足している者の比率が6割程度に達する一方で、不満を抱いている者の比率も3割を超え、両極端の傾向がある。ずっと岩手盛岡組では不満を抱いている者の比率が高い。

女性では、進学時流出組で満足している者の比率が高く5割を超える。一方で、女性で不満を持つ層は、すべての組で3割程度存在している。



ヘ (生活) 親・親族との人間関係

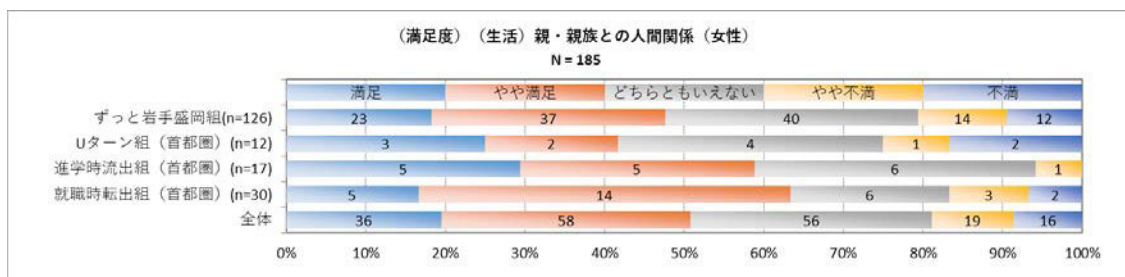
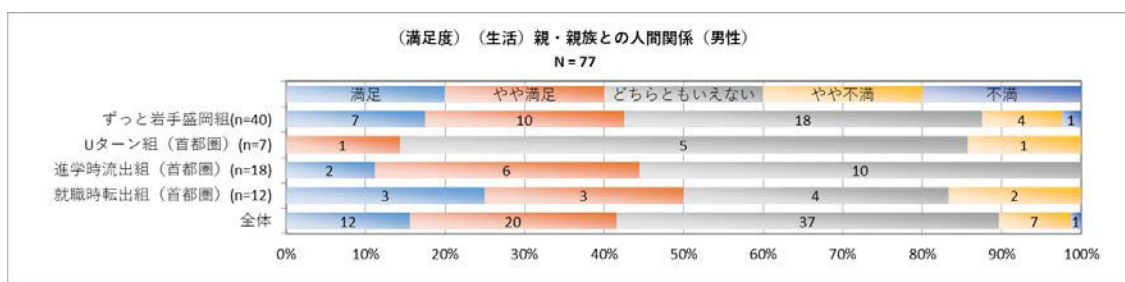
この項目では、生活における親・親族との人間関係の満足度を尋ねた。

なお、親・親族との人間関係は、濃密であることを満足とする者も、希薄であることを満足とする者もいると思われ、あくまで現状の満足度のみを測ったものであることに留意が必要である。

男性と女性では、女性で満足している者の比率が高い。

男性では、Uターン組を除いた各組で満足している者が4割程度存在する。また、「どちらともいえない」の比率が女性に比べて多い。

女性では、全体で5割程度の者が満足している傾向がある。親元から離れている東京圏就職グループでも満足している者の比率が高い。女性では不満を抱いている者が2割程度あり男性に比べて高い。



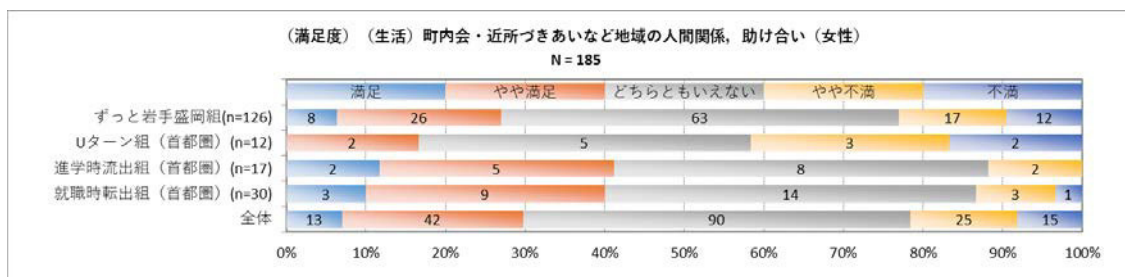
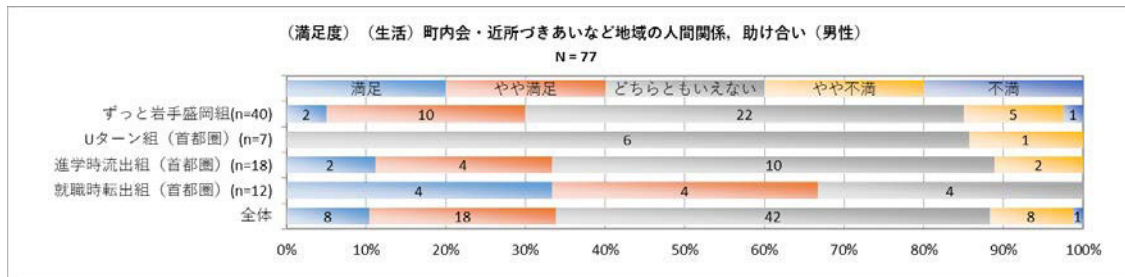
ホ (生活) 町内会・近所づきあいなど地域の人間関係, 助け合い

この項目では、生活における近隣など地域の人間関係, 助け合いなどの満足度を尋ねた。

なお、本設問は、濃密な人間関係を満足とする者も、希薄な人間関係を満足とする者もいると思われ、あくまで現状の満足度のみを測ったものであることに留意が必要である。

男性では、満足している者が就職時転出組で6割を超えるが、進学時流出組、ずっと岩手盛岡組では3割程度にとどまり、Uターン組では「どちらともいえない」が最も多い。

女性では、東京圏就職グループで満足している者が4割に達するが、盛岡広域就職グループでは、2割程度に減少する。ただし、Uターン組では不満度が4割に達している。



(4) まちの魅力

この項では、盛岡広域に居住している者と東京圏に居住している者に対し、現在居住しているまちの魅力について尋ねた。ずっと岩手盛岡組、Uターン組、進学時流出組、就職時転出組に分けてまちの魅力を探る。まちが内在する魅力を尋ねた質問であるが、自らの満足度すなわち自分に訴求する街の魅力ととらえて回答しているケースがあることに留意が必要である。

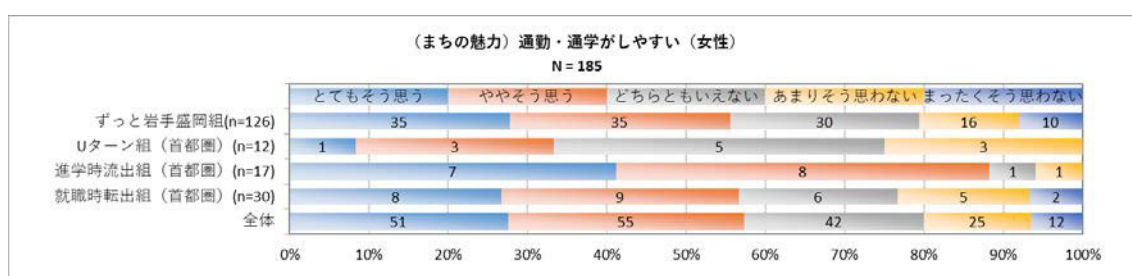
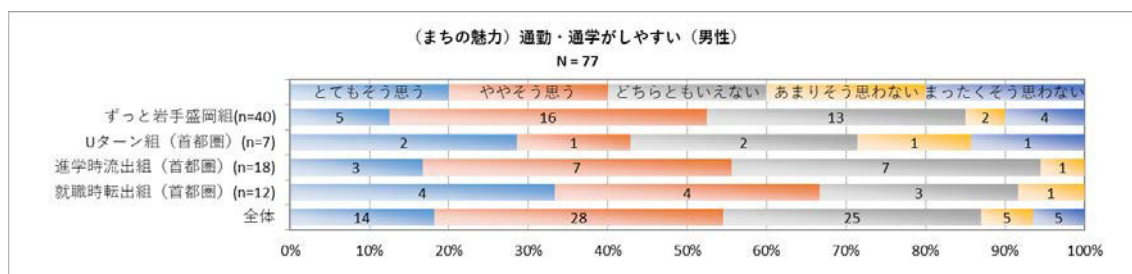
ア (まちの魅力) 通勤・通学がしやすい

この項目では、住んでいるまちで通勤・通学がしやすいかを尋ねた。

男性では、東京圏就職グループで高評価が半数を超え、盛岡広域就職グループではやや評価が下がる。

女性では、進学時流出組で高評価が著しく多く、就職時転出組でも5割を超える。ずっと岩手盛岡組では男性より低評価が多い。就職時転出組における低評価は男性と比べると多い。

男女とも、ずっと岩手盛岡組では半数が通勤・通学しやすいと回答している。一方で、Uターン組では男女とも高評価が少なく、低評価が多い。

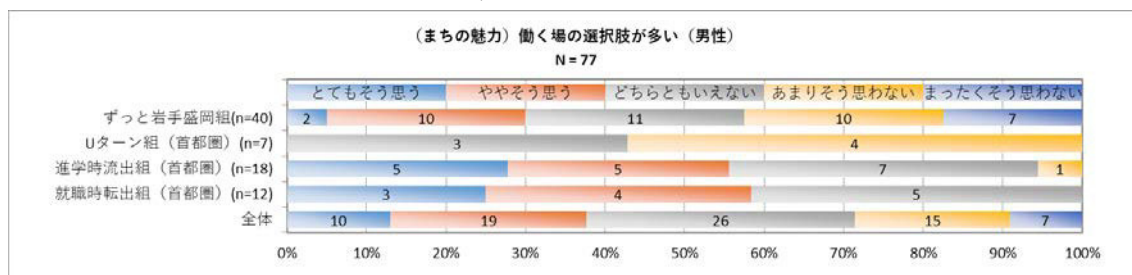


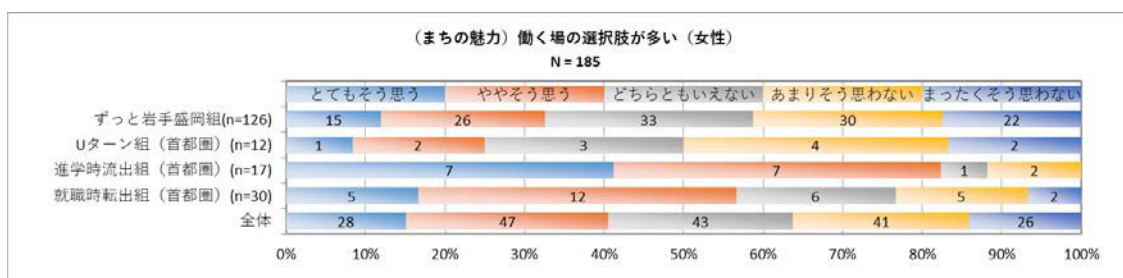
イ (まちの魅力) 働く場の選択肢が多い

この項目では、住んでいるまちで働く場の選択肢が多いかを尋ねた。

男女とも、東京圏就職グループで高評価が半数を超える。特に進学時流出組の女性では著しく高い。女性の就職時転出組では、2割ほど低評価層が出現している。

ずっと岩手盛岡組では、男女とも3割程度が高評価する一方で、4割程度が低評価である。この傾向はUターン組で著しく、男女とも低評価が5割を超える。





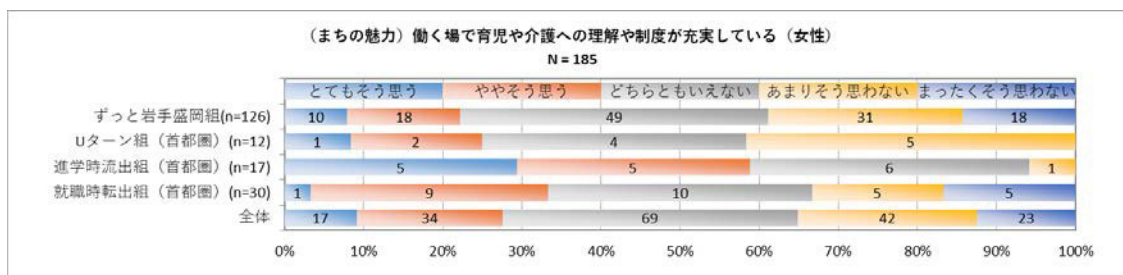
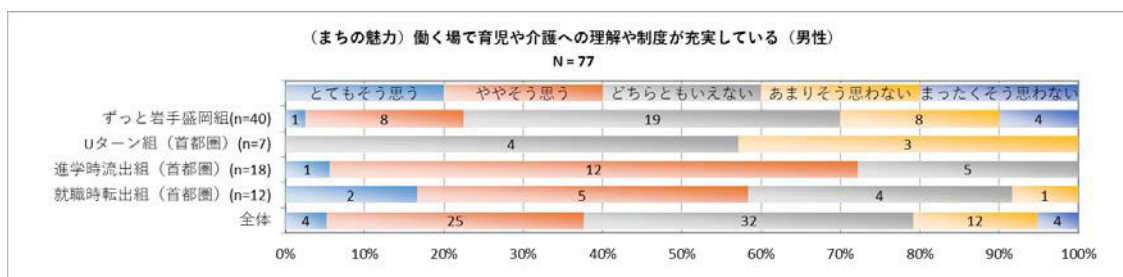
ウ (まちな魅力) 働く場で育児や介護への理解や制度が充実している

この項目では、育児や介護への理解や制度の充実度を尋ねた。

男性では、東京圏就職グループで高評価の比率が高い。

女性では、進学時流出組で高評価が多いが、就職時転出組では高評価が3割程度しかなく、低評価が3割を超える。

男女とも、盛岡広域就職グループでは高評価が3割程度と少ない。



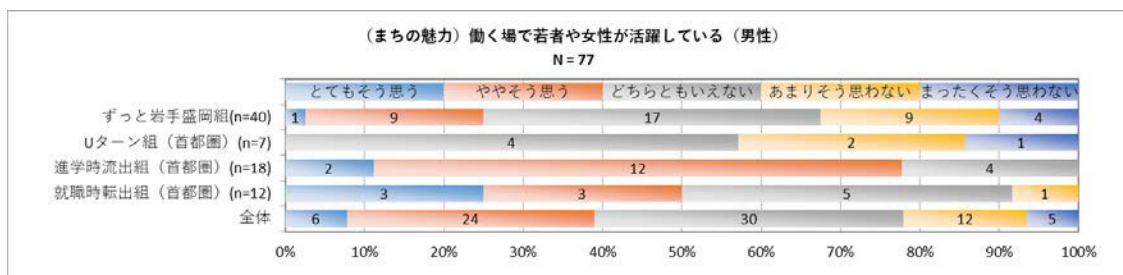
エ (まちな魅力) 働く場で若者や女性が活躍している

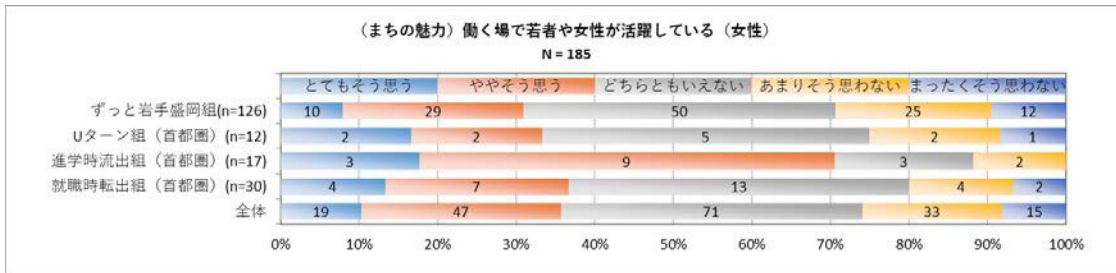
この項目では、働く場で若者や女性が活躍しているまちかどうかを尋ねた。

男女とも進学時流出組で、高評価の比率が著しく高くなっている。

男性では就職時転出組で半数程度が高評価であるが、ずっと岩手盛岡組では高評価が少なく、低評価が3-4割と高い比率となっている。

女性では、進学時流出組を除けば、高評価は3割程度にとどまり、低評価も2-3割となっている。



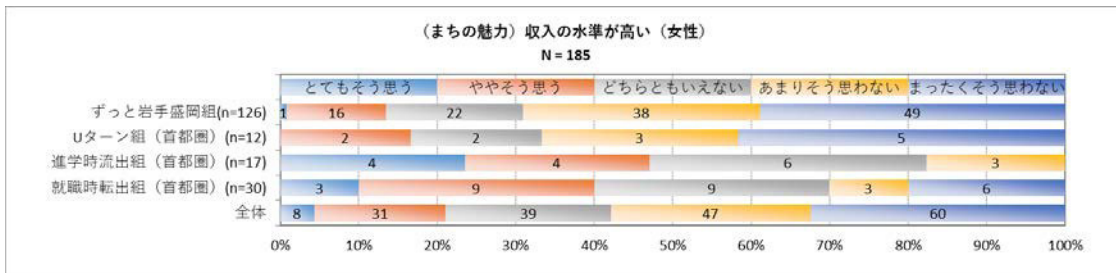
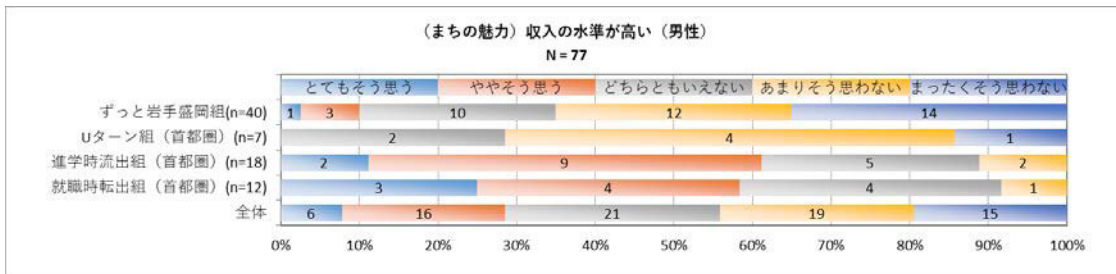


オ (まちの魅力) 収入の水準が高い

この項目では、収入の水準が高いまちかどうかを尋ねた。

男女とも東京圏就職グループで高評価が多くなっている。ただし、女性の就職時転出組では低評価が増えている。

男女とも盛岡広域就職グループでは低評価が著しく多くなっている。特に女性では「まったくそう思わない」の比率が4割を超えている。

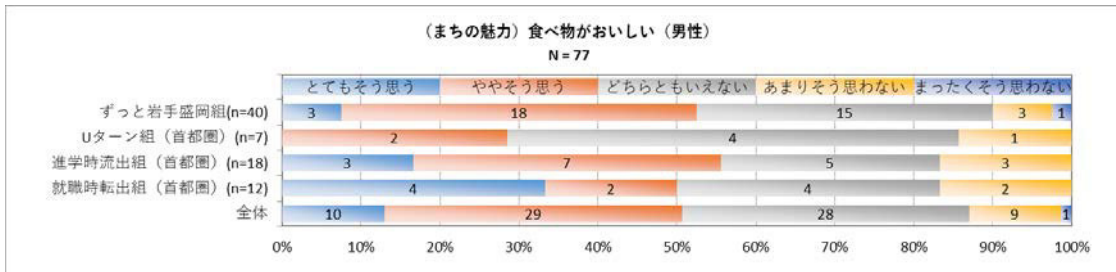


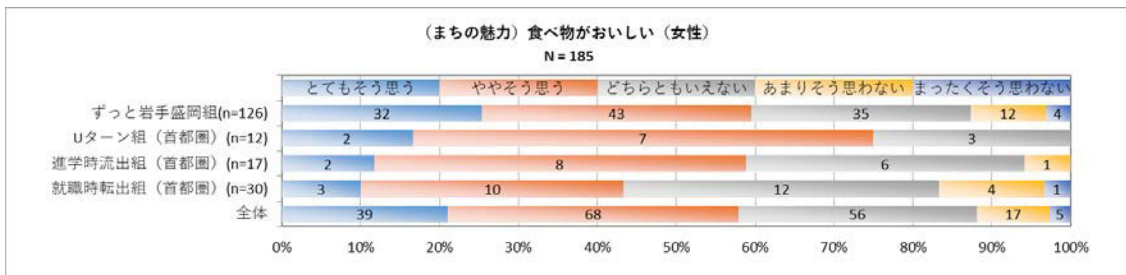
カ (まちの魅力) 食べ物がおいしい

この項目では、食べ物がおいしいまちかどうかを尋ねた。

男性では、東京圏就職グループとずっと岩手盛岡組では半数程度が魅力を感じており、Uターン組では魅力ととらえていない傾向がある。

女性では、一転して盛岡広域就職グループにおける盛岡の評価が高く、Uターン組が魅力としてみていることは注目に値する。「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の比率が低いこともこの傾向を補強するものと思われる。



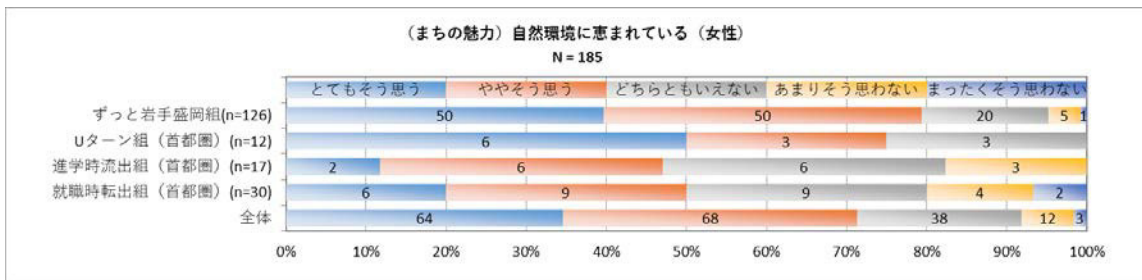
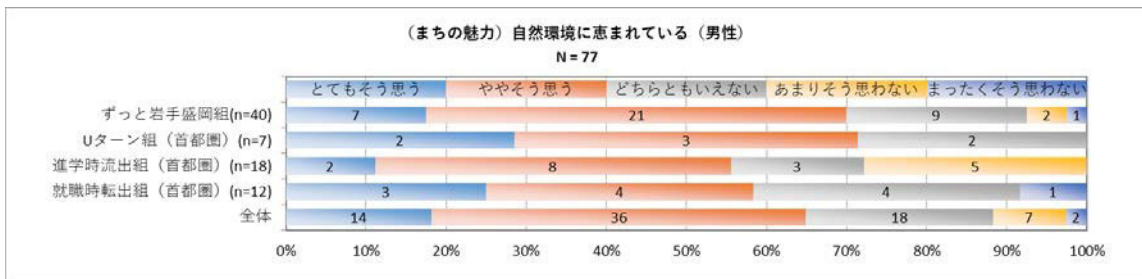


キ (まちな魅力) 自然環境に恵まれている

この項目では、自然環境に恵まれているまちかどうかを尋ねた。

男女とも、盛岡広域就職グループで、岩手盛岡の自然環境に対する評価が高い。一方で、進学時流出組の男性では、東京圏の自然環境に対する低評価の比率が高い。

特に盛岡広域就職グループの女性で「とてもそう思う」の構成比が高い。



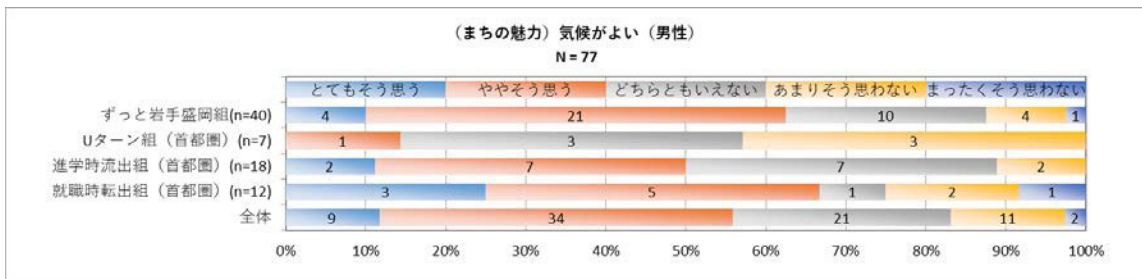
ク (まちな魅力) 気候がよい

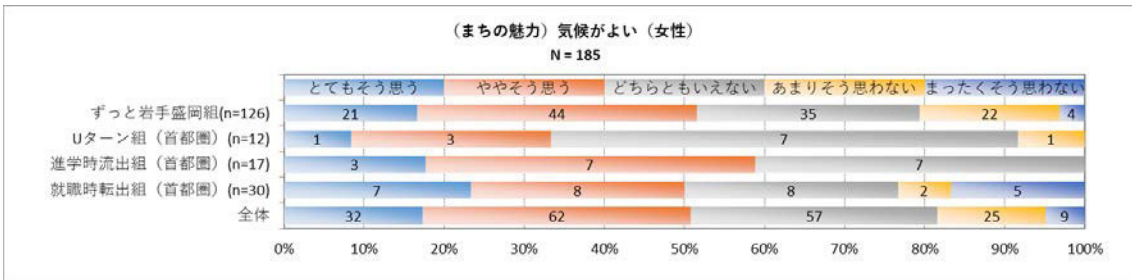
この項目では、気候がよいまちかどうかを尋ねた。

男女とも、ずっと岩手盛岡組で半数近くが岩手盛岡の気候を高評価している。また東京圏就職グループでも半数近くが東京圏の気候を高評価している。

Uターン組に着目すると、高評価の比率が少ない。

就職時転出組では、東京圏の気候に対する高評価が半数を超える一方で、低評価のものも2割程度いる。



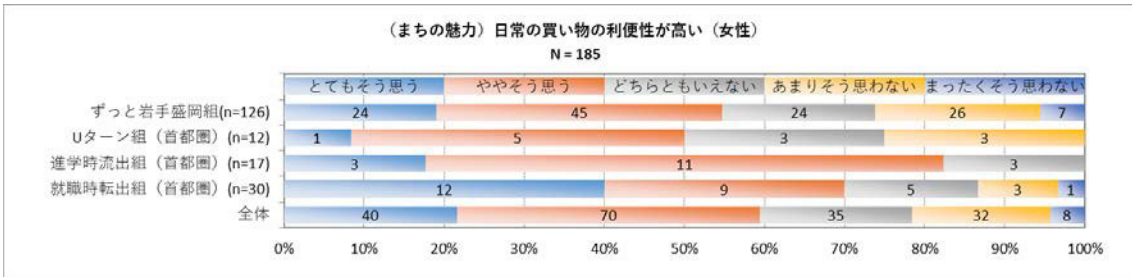
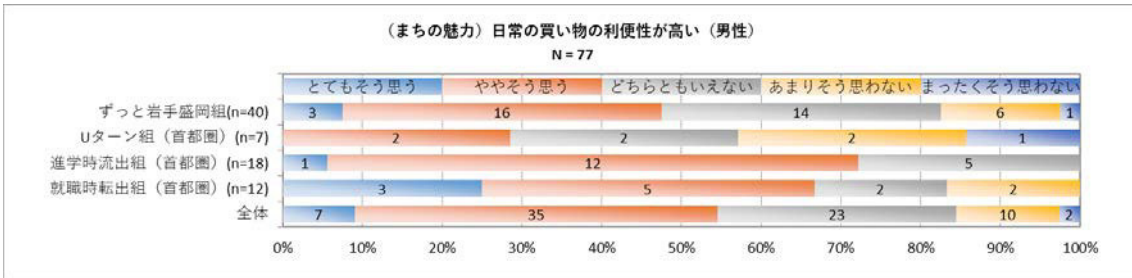


ケ (まちの魅力) 日常の買い物の利便性が高い

この項目では、日常の買い物の利便性の魅力を尋ねた。

男女とも東京圏に対する評価が高い。

ただし、男性のずっと岩手盛岡組や、女性の盛岡広域就職グループで盛岡を高評価する者も半数程度おり、女性でその比率が高い。

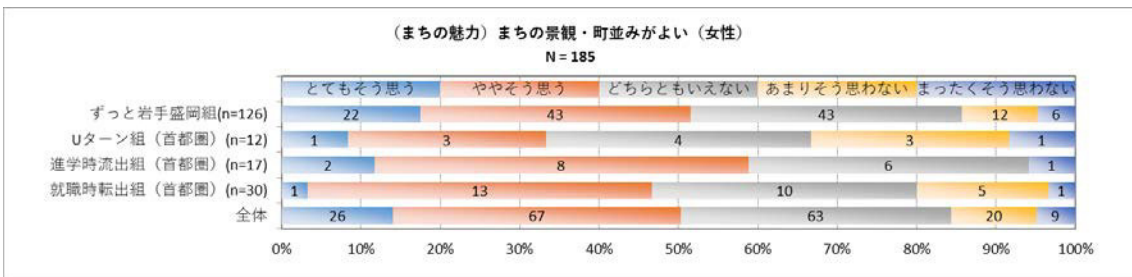
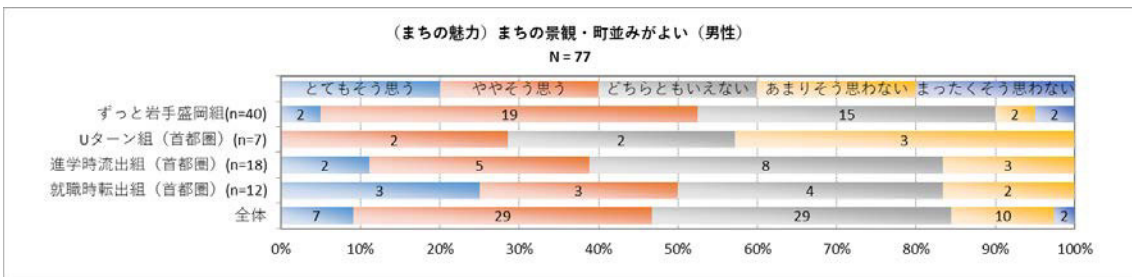


コ (まちの魅力) まちの景観・街並みがよい

この項目では、まちの景観・街並みの魅力を尋ねた。

男女とも、東京圏就職グループにおける東京圏の高評価が半数程度に達するが、ずっと岩手盛岡組でも高評価のものが半数近く存在する。

男女ともUターン組で評価が低い。



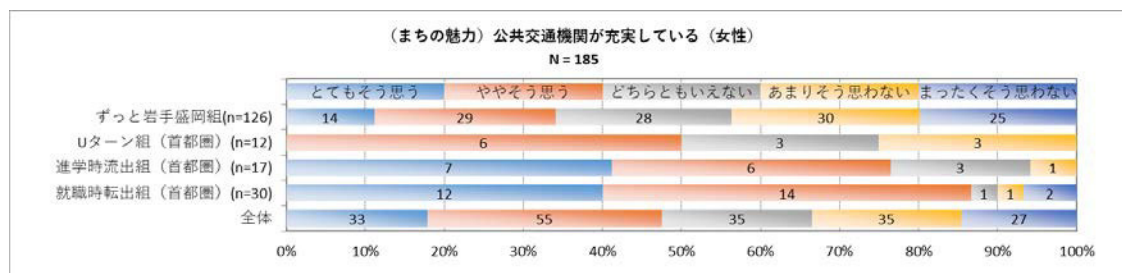
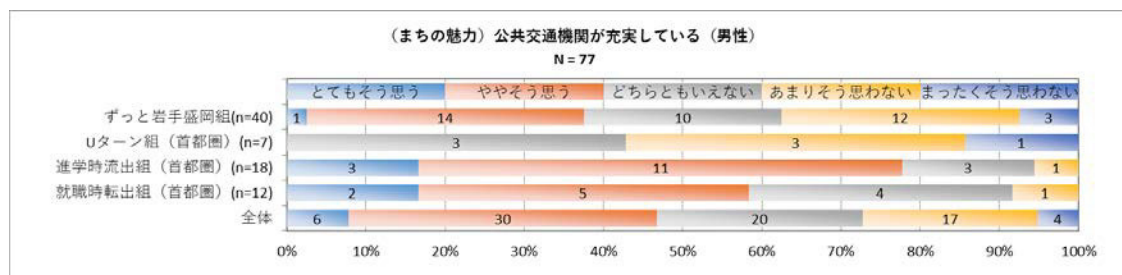
サ (まちの魅力) 公共交通機関が充実している

この項目では、まちの公共交通機関の魅力を尋ねた。

男女とも東京圏就職グループで、高評価が多い。進学時流出組では男女とも7割を超える高評価がある。「とてもそう思う」の比率が女性で高い。

ずっと岩手盛岡組では、3割程度が高評価しているが、低評価も4割程度いる。

Uターン組では、男性では低評価が半数を超える一方で、女性では高評価が半数に達している。

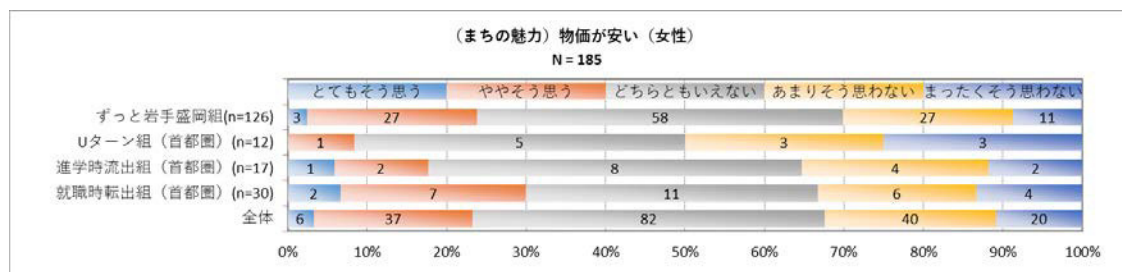
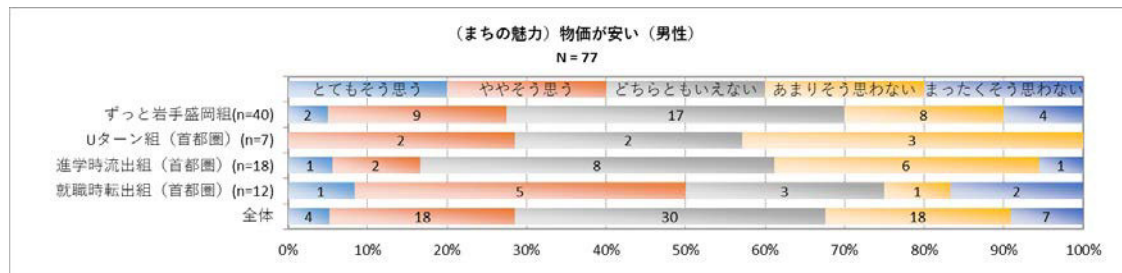


シ (まちの魅力) 物価が安い

この項目では、まちの物価の安さを魅力として尋ねた。

男女とも、就職時転出組で高評価の比率が高い。一方で、進学時流出組では高評価の比率が低い。

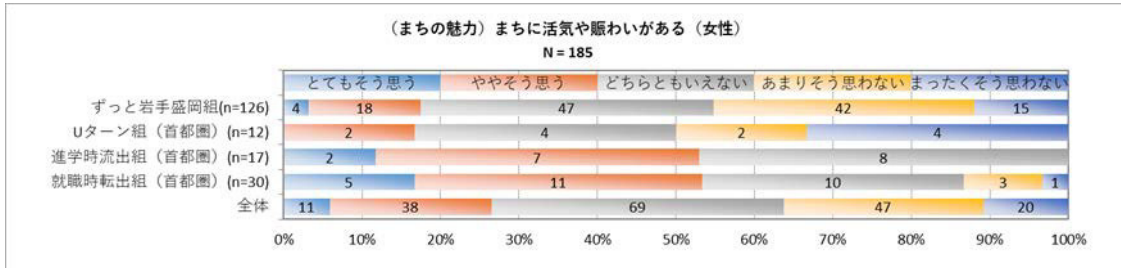
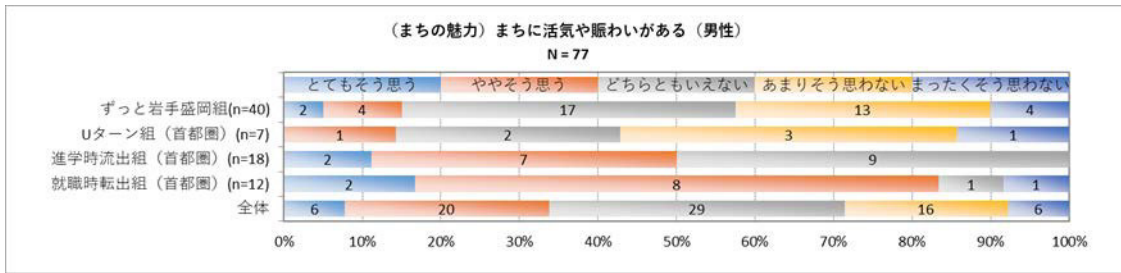
盛岡広域就職グループでは、男性で3割程度が物価の安さを感じているが、女性ではやや低い。特にUターン組で低評価の比率が男性で4割、女性で5割に達している。



ス (まちの魅力) まちに活気や賑わいがある。

この項目では、まちの活気や賑わいの魅力を尋ねた。

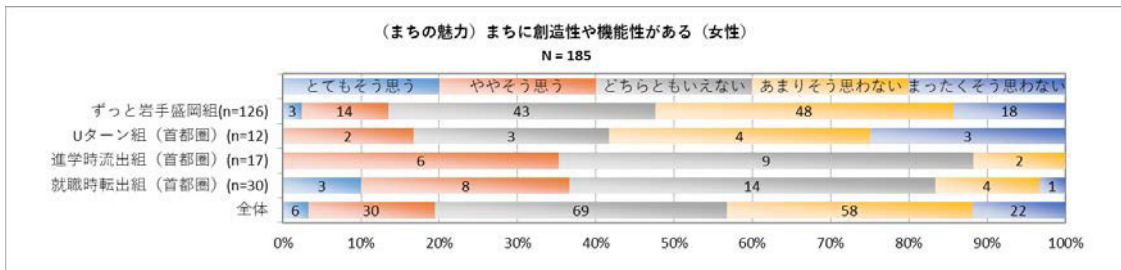
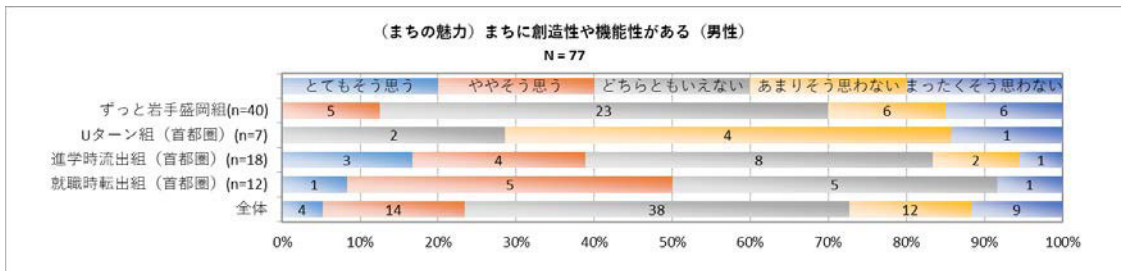
男女とも、東京圏就職グループで高評価が半数を超えており、男性の就職時転出組で極めて高い。盛岡広域就職グループでは低評価の比率が高く、特にUターン組でその比率が高く「まったくそう思わない」が女性で多い。



セ (まちの魅力) まちに活気や賑わいがある。

この項目では、まちの活気や賑わいの魅力を尋ねた。

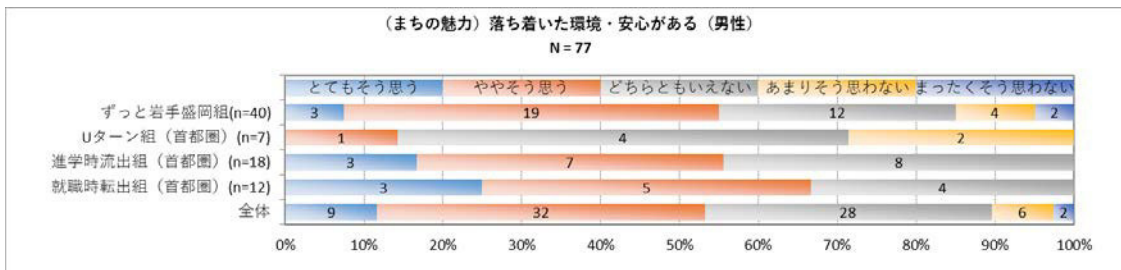
男女とも、東京圏就職グループで高評価が半数を超えており、男性の就職時転出組で極めて高い。盛岡広域就職グループでは低評価の比率が多く、Uターン組で低評価の比率が高く「まったくそう思わない」が占める比率が女性で多い。

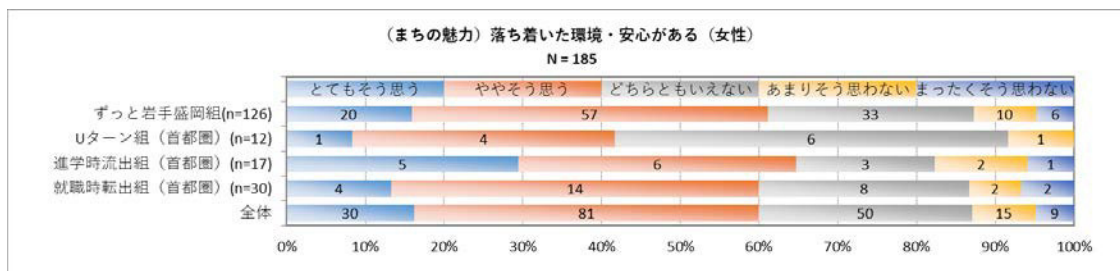


ソ (まちの魅力) 落ち着いた環境・安心がある

この項目では、まちの魅力として落ち着いた環境や安心があるかを尋ねた。

男女とも、東京圏就職グループで高評価が半数を超えており、ずっと岩手盛岡組でも半数を超えている。しかしながらUターン組では評価が低い。



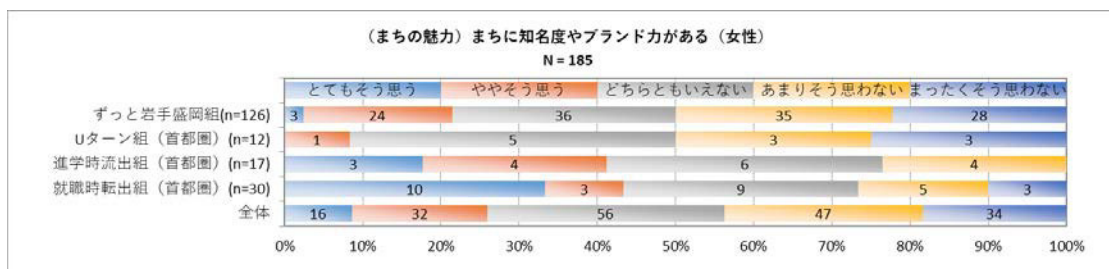
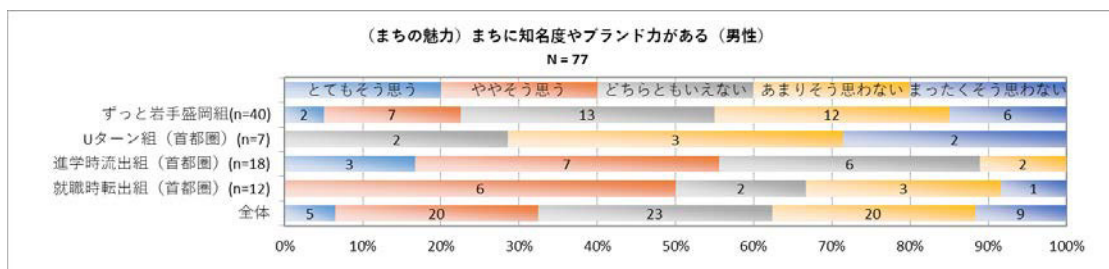


タ (まちの魅力) まちに知名度やブランド力がある

この項目では、まちに知名度やブランド力があるかを尋ねた。

盛岡広域就職グループでは低評価が半数程度を占める一方で、東京圏就職グループでは高評価が半数程度を占める。

男女間で最も大きい差異を生じているのが就職時転出組で、女性では「とてもそう思う」の評価が多い。

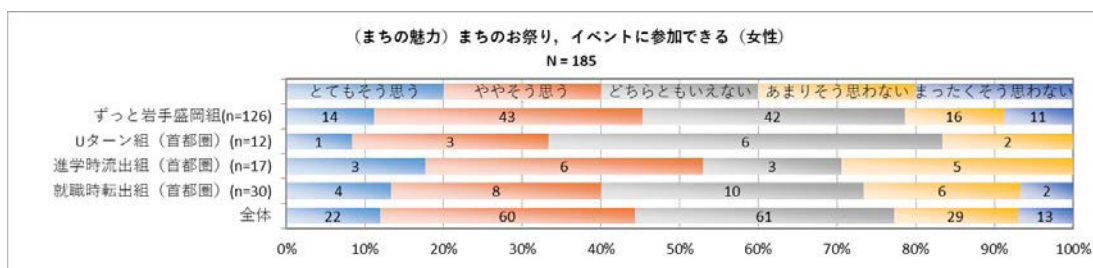
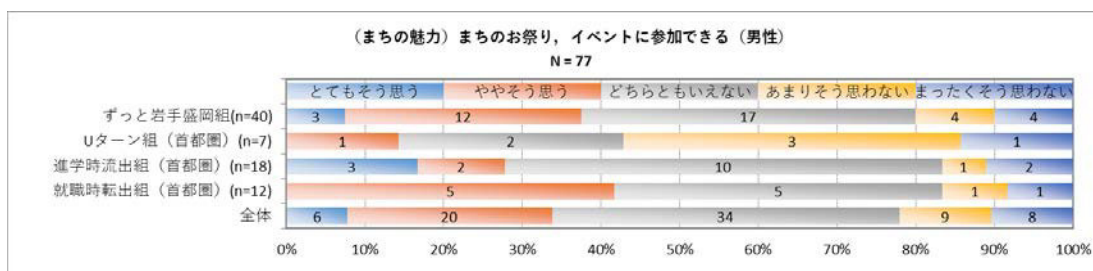


チ (まちの魅力) まちのお祭り、イベントに参加できる

この項目では、まちのお祭り、イベントへの参加の魅力があるかを尋ねた。

男女では、女性でまちの祭やイベントへの感度が高い傾向がある。

各組に大きな差異は見られないが、男女ともUターン組で評価が低い傾向が見られる。

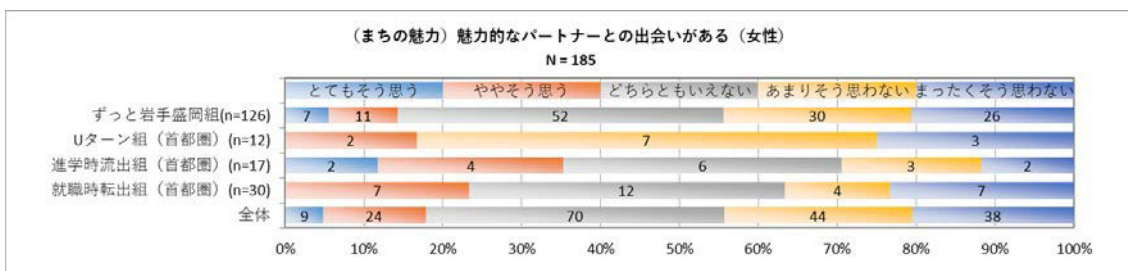
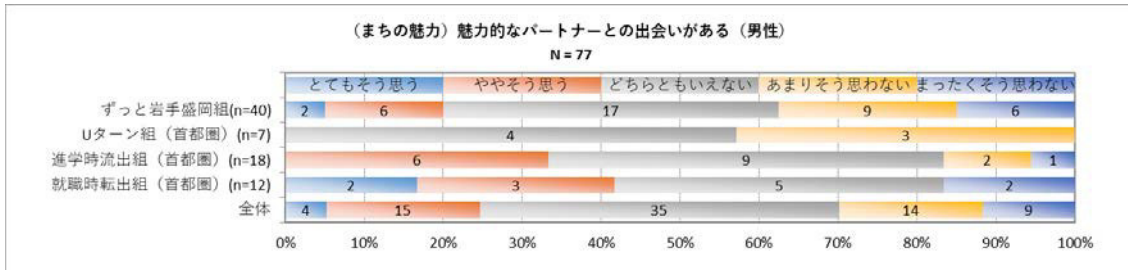


ツ (まちの魅力) 魅力的なパートナーとの出会いがある

この項目では、まちに魅力的なパートナーとの出会いがあるかを尋ねた。

男女とも東京圏就職グループで高評価の比率が高いが、男性では、高評価が低評価の人数を上回っている一方で、女性では、逆に低評価が高評価を上回っている。

盛岡広域就職グループでは、低評価の比率が高い。女性でその傾向がつよく、Uターン組では低評価が8割を超えている。

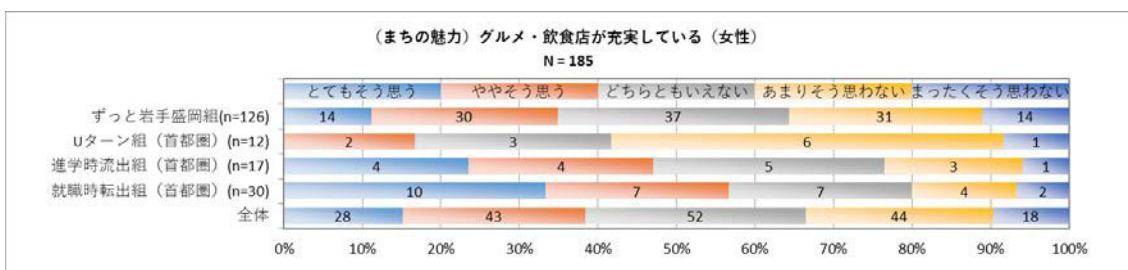
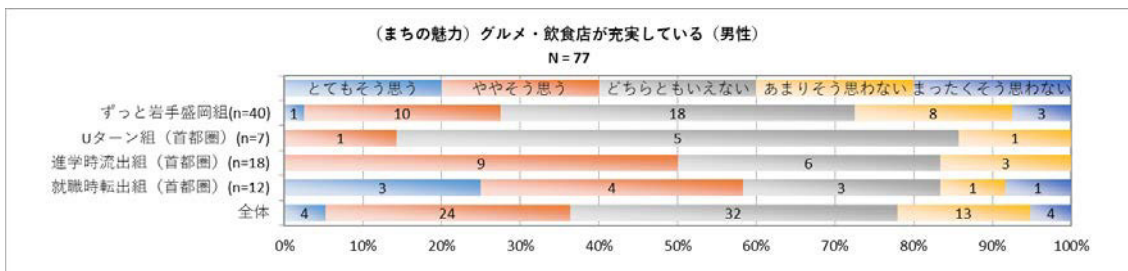


テ (まちの魅力) グルメ・飲食店が充実している

この項目では、まちにグルメ・飲食店が充実しているかを尋ねた。

男女とも東京圏就職グループで高評価の比率が高く、盛岡広域就職グループでは高評価の比率は低い。

男女で大きな違いがあるのは、盛岡広域就職グループの女性で、低評価の比率が高く、特にUターン組で著しい。



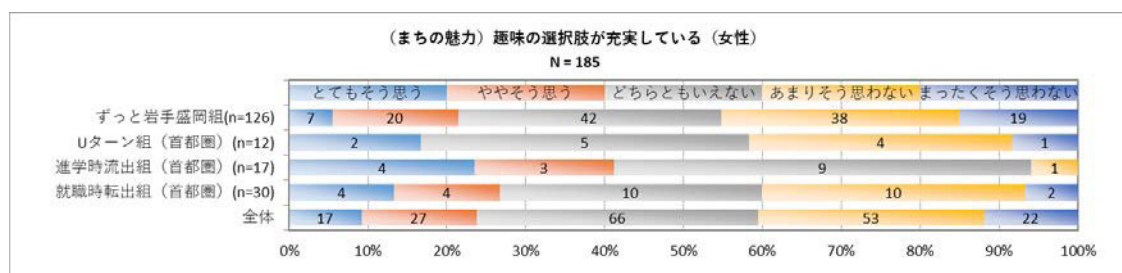
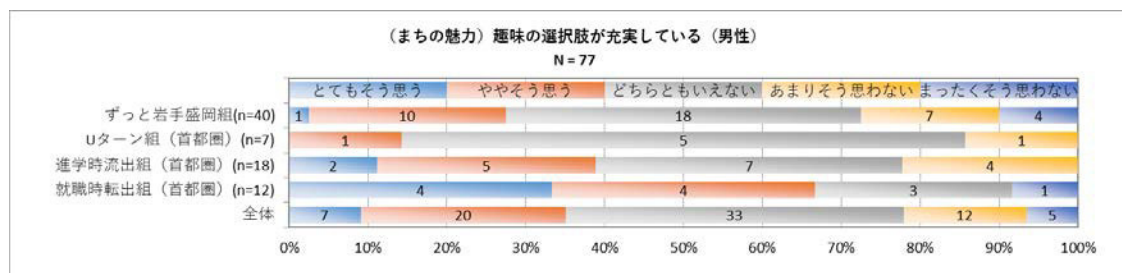
ト (まちの魅力) 趣味の選択肢が充実している。

この項目では、まちに趣味の選択肢が充実しているかを尋ねた。

進学時流出組では男女とも4割程度が高評価だが、就職時転出組では男性で高評価が6割を超えるものの女性では2割程度しかない。

盛岡広域就職グループでは高評価は2割程度である。

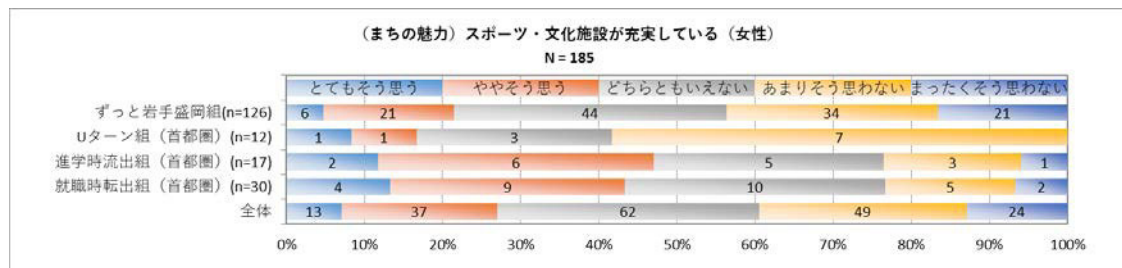
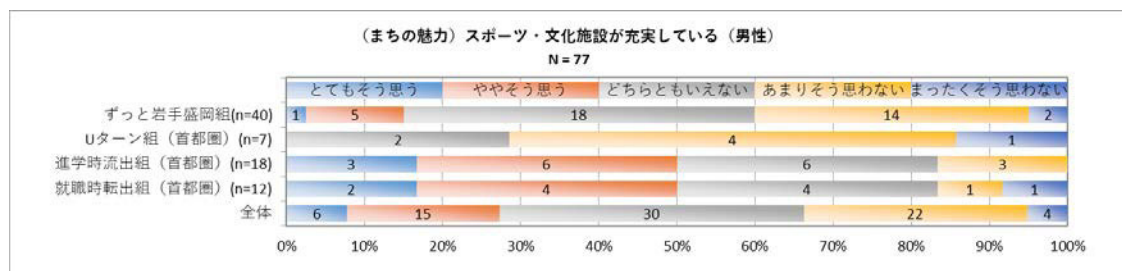
女性の低評価に着目すると、全体では4割を超え進学時流出組を除いては低評価が圧倒する。



ナ (まちな魅力) スポーツ・文化施設が充実している

この項目では、まちにスポーツ・文化施設が充実しているかを尋ねた。

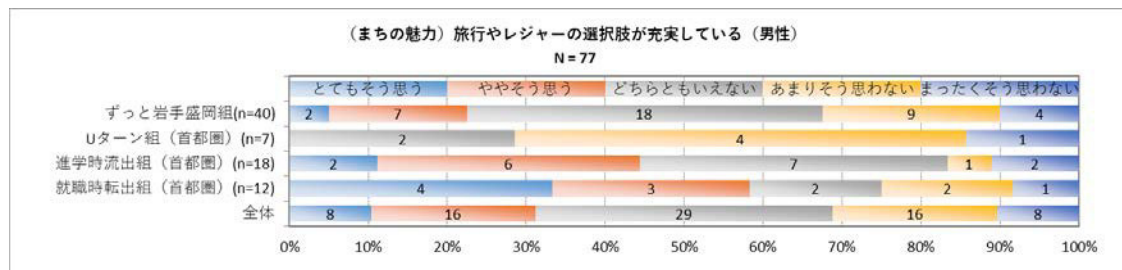
東京圏就職グループで高評価が半数程度に達するのに対し、盛岡広域就職グループでは低評価の比率が高く、Uターン組では特にその傾向が顕著である。

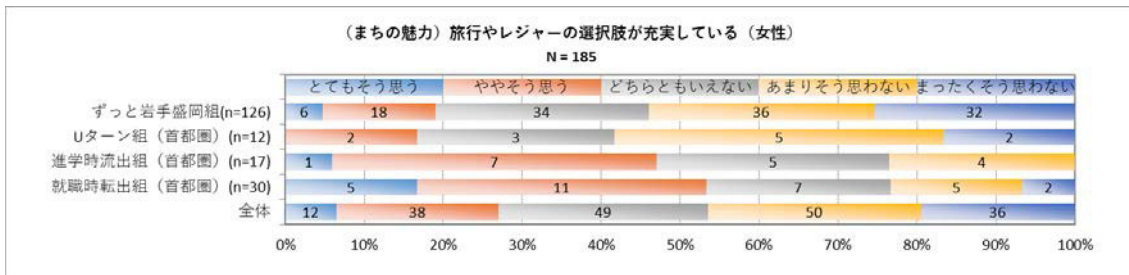


ニ (まちな魅力) 旅行やレジャーの選択肢が充実している

この項目では、まちに旅行やレジャーの選択肢が充実しているかを尋ねた。

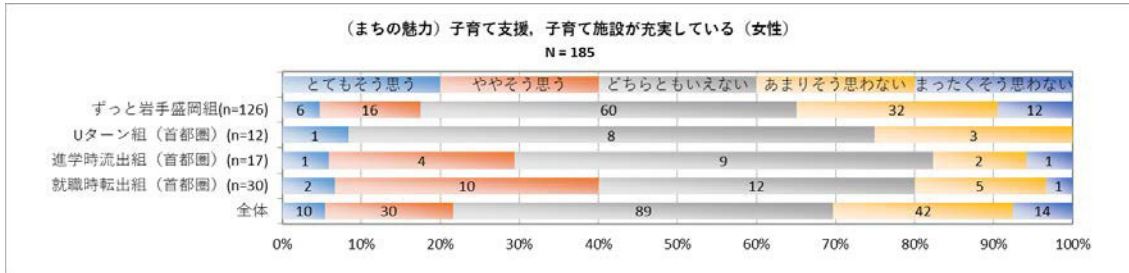
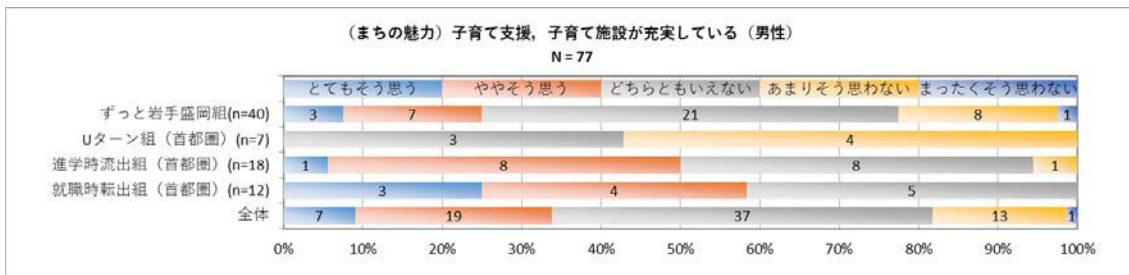
東京圏就職グループで高評価が半数程度に達するのに対し、盛岡広域就職グループでは低評価の比率が高く、Uターン組では特にその傾向が顕著である。





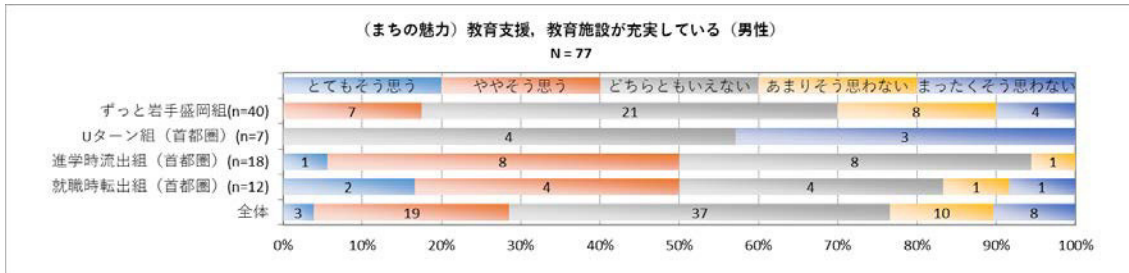
ヌ (まちな魅力) 子育て支援, 子育て環境が充実している

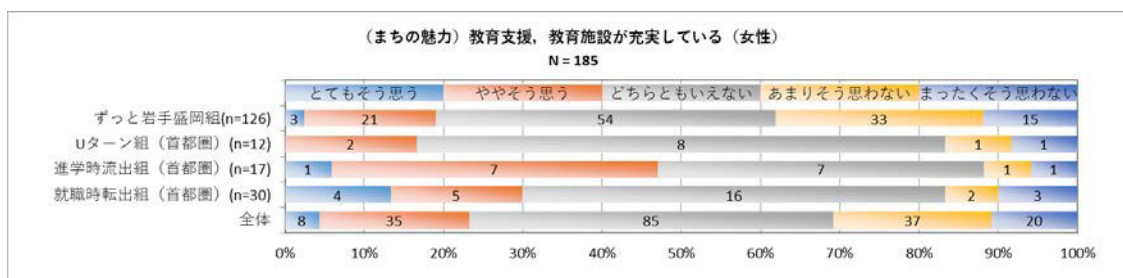
この項目では、まちな子育て支援, 子育て環境が充実しているかを尋ねた。
東京圏就職グループでは、男性の高評価が半数程度であるのに対し、女性では3割程度と低くなっており、低評価の比率も高い。
盛岡広域就職グループでは、評価の分布は組によって異なる。ずっと岩手盛岡組の男性と女性を比較すると、女性で低評価の比率が高い。Uターン組の男性と女性を比較すると、男性で低評価の比率が高い。



ネ (まちな魅力) 教育支援, 教育施設が充実している

この項目では、まちな教育支援, 教育施設が充実しているかを尋ねた。
東京圏就職グループでは、男性の高評価が半数程度であるのに対し、女性では3割程度と低くなっている。
盛岡広域就職グループでは、高評価が2割程度であるが、低評価の分布は組によって異なる。ずっと岩手盛岡組の男性と女性を比較すると、女性で低評価の比率が高い。Uターン組の男性と女性を比較すると、男性で低評価の比率が著しく高く、女性では低い。

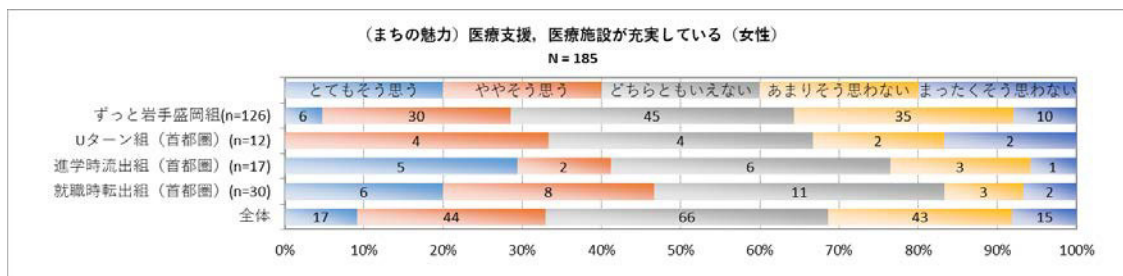
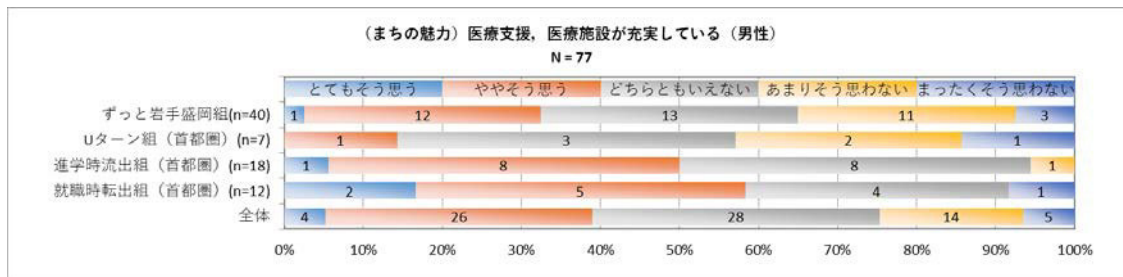




ノ (まちな魅力) 医療支援, 医療施設が充実している

この項目では, まちに医療支援, 医療施設が充実しているかを尋ねた。

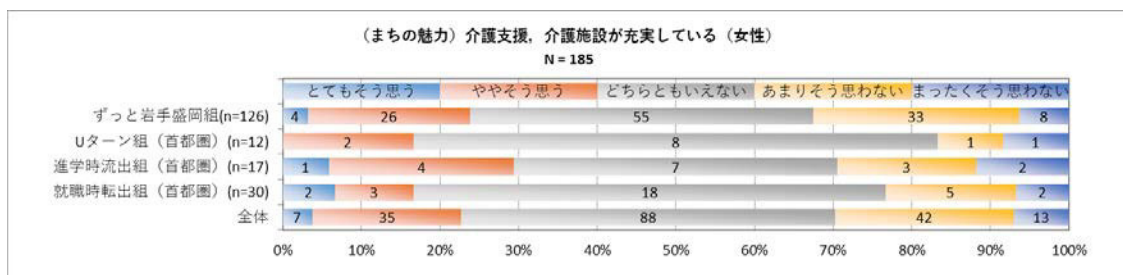
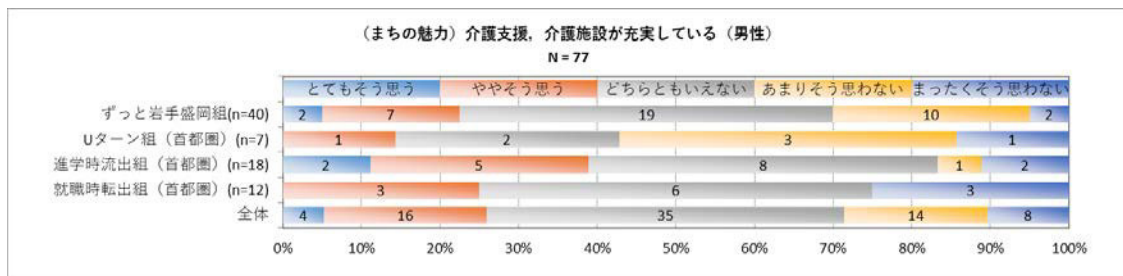
東京圏就職グループで比較的高評価の比率が高く, 女性の「とてもそう思う」の比率が高い。盛岡広域就職グループの女性では高評価が3割程度に達している。



ハ (まちな魅力) 介護支援, 介護施設が充実している

この項目では, まちに介護支援や介護施設が充実しているかを尋ねた。

女性では, どの組でも大きな差異がみられない。男性では進学時流出組で高評価の比率が高く, Uターン組で低評価の比率が高い。



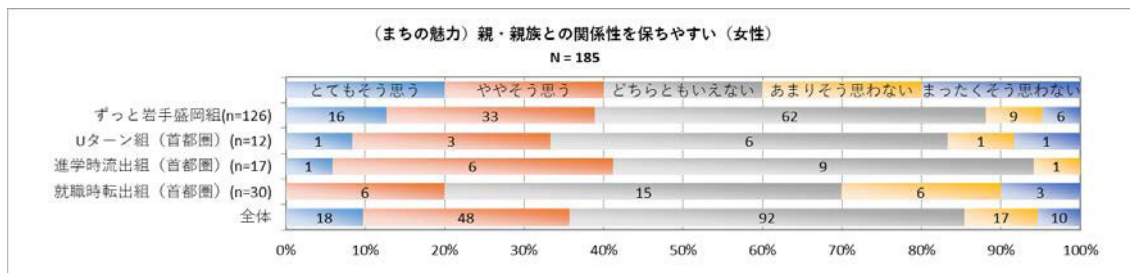
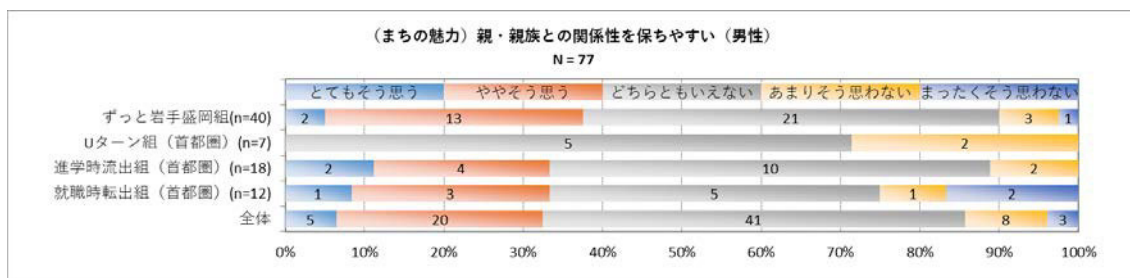
ヒ (まちな魅力) 親・親族との関係を保ちやすい

この項目では, まちに親・親族との関係が保ちやすいかを尋ねた。

低評価すなわち親・親族との関係を保ちづらく感じている組としては, 就職時転出組

の比率が高く、3割程度に達している。

女性の就職時転出組で高評価の比率が低く、また低評価も3割程度に達する。ずっと岩手盛岡組では高評価が3割を超え、また、低評価が1割程度と低い。

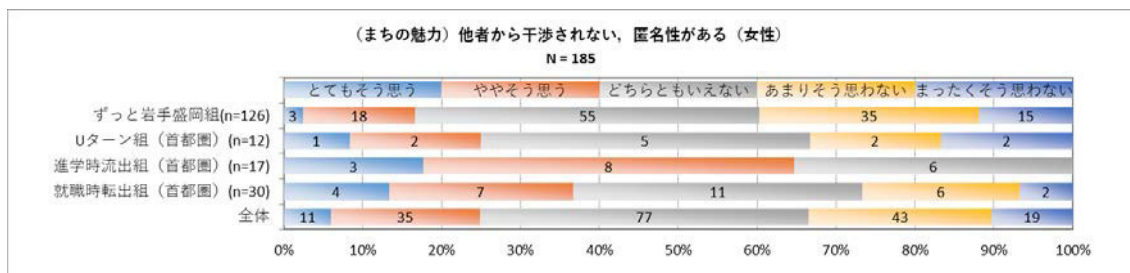
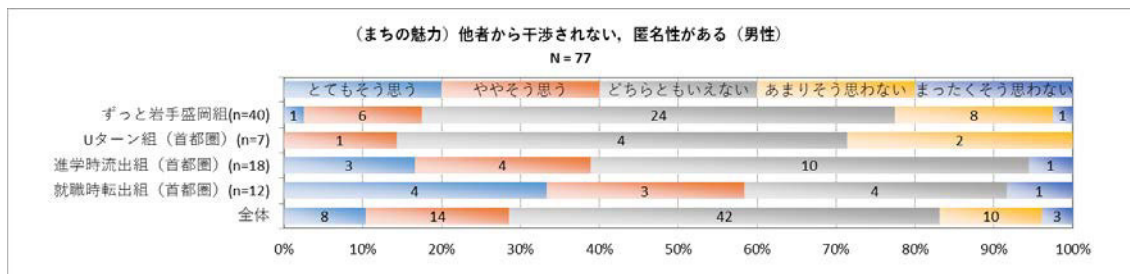


フ (まちな魅力) 他者から干渉されない、匿名性がある

この項目では、まちに他者から干渉されない、匿名性ない魅力があるかを尋ねた。

男性の就職時転出組で高評価の比率が高く、進学時流出組が続く。また女性では、進学時流出組の高評価の比率が著しく高く、就職時転出組が続く。ただし男性と比較して女性の就職時転出組では低評価が2割程度出現している。

盛岡広域就職グループでは、まちな魅力と感じるものは1-2割程度であり、低評価のものが3割程度存在する。



ヘ (まちな魅力) 町内会・近所づきあいなど地域の人間関係・助け合いが良好

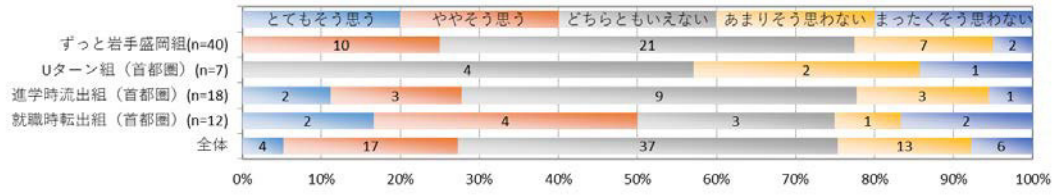
この項目では、まちに町内会・近所づきあいなど地域の人間関係・助け合いの良好さが魅力となっているかを尋ねた。

高評価をしている組としては、男性の就職時転出組の高評価の比率が著しく高い。また、すべての組の女性で、3割程度の高評価がある。

Uターン組では、男女とも低評価の比率が4割程度ある。

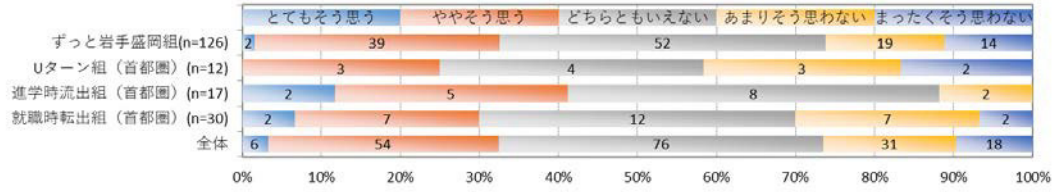
(まちの魅力) 町内会・近所づきあいなど地域の人間関係・助け合いが良好 (男性)

N = 77



(まちの魅力) 町内会・近所づきあいなど地域の人間関係・助け合いが良好 (女性)

N = 185



(5) 盛岡広域への居住, Uターン

この項では、盛岡広域に居住する（住み続ける・Uターンする）希望がどの程度あるのかを尋ねた。

対象者は前項と同じ属性で抽出している。

ずっと岩手盛岡組の男性では75%、女性では70%が盛岡広域に「住み続けたい」と考えており、「わからない」と回答した者は男性では15%、女性では20%に上る。

Uターン組の男性では71.4%、女性では25%が盛岡広域に「住み続けたい」と考えており、「わからない」と回答した者は男性で28.6%、女性では50.0%にも上る。

東京圏に住む進学時流出組では、盛岡広域に「戻りたい」「できれば戻りたい」と考えているものが男性で44.4%、女性で29.4%おり、「わからない」と回答した者が男性で22%、女性で29.4%いる。

東京圏に住む就職時転出組では、盛岡広域に「戻りたい」「できれば戻りたい」と考えている者が男性で58.3%、女性で36.6%おり、「わからない」と回答した者が男性で8.3%、女性で26.7%いる。

東京圏に住む者の中では、就職時転出組で盛岡広域へのUターン志向がやや強いと思われる。前項で見たように実家や家族への志向は女性で高いが女性では婚姻等により主体的に居住地を選択できないことがあるため、Uターン志向が強く表れないものと考えられる。このことは、わからないと回答した比率が女性でおしなべて高いことから類推される。

図表3-2-12 盛岡広域への居住, Uターン希望

盛岡広域への居住希望		Q12								
男性	上段:度数	盛岡広域に戻りたい(住みたい)	できれば盛岡広域に戻りたい(住みたい)	あまり盛岡広域に戻りたくない(住みたくない)	盛岡広域に戻りたくない(住みたくない)	現在も盛岡広域に住んでいて、今後も住み続けたい	ほかに住みたい場所がある	わからない	合計	
	下段:%									
code2	ずっと岩手盛岡組	-	-	-	-	30	4	6	40	
		-	-	-	-	75.0	10.0	15.0	100.0	
	Uターン組(首都圏)	-	-	-	-	5	-	2	7	
		-	-	-	-	71.4	-	28.6	100.0	
	進学時流出組(首都圏)	2	6	5	1	-	-	4	18	
		11.1	33.3	27.8	5.6	-	-	22.2	100.0	
code2	就職時転出組(首都圏)	1	6	1	3	-	-	1	12	
		8.3	50.0	8.3	25.0	-	-	8.3	100.0	
	全体	3	12	6	4	35	4	13	77	
		3.9	15.6	7.8	5.2	45.5	5.2	16.9	100.0	
	盛岡広域への居住希望		Q12							
	女性	上段:度数	盛岡広域に戻りたい(住みたい)	できれば盛岡広域に戻りたい(住みたい)	あまり盛岡広域に戻りたくない(住みたくない)	盛岡広域に戻りたくない(住みたくない)	現在も盛岡広域に住んでいて、今後も住み続けたい	ほかに住みたい場所がある	わからない	合計
	下段:%									
code2	ずっと岩手盛岡組	-	-	-	-	89	11	26	126	
		-	-	-	-	70.6	8.7	20.6	100.0	
	Uターン組(首都圏)	-	-	-	-	3	3	6	12	
		-	-	-	-	25.0	25.0	50.0	100.0	
	進学時流出組(首都圏)	1	4	2	5	-	-	5	17	
		5.9	23.5	11.8	29.4	-	-	29.4	100.0	
code2	就職時転出組(首都圏)	4	7	4	7	-	-	8	30	
		13.3	23.3	13.3	23.3	-	-	26.7	100.0	
	全体	5	11	6	12	92	14	45	185	
		2.7	5.9	3.2	6.5	49.7	7.6	24.3	100.0	

東京圏に在住しているグループの中で、盛岡広域に「戻りたい」「できれば盛岡広域に戻りたい」と回答した者に対して、Uターンする可能性があるタイミングをライフイベントごとに調査したのが次の図表3-2-13である。なお、複数回答であることに留意されたい。

進学時流出組の男性では、「退職後」が最も多く、「転職先が見つかったとき」が次ぐ。女性では、「退職後」と「起業・事業承継するとき」が同数となっている。

就職時転出組の男性では、「起業・事業承継するとき」が最も多く、「転職先が見つかったとき」、「子どもが独立したとき」が次ぐ。女性では、「親の世話・介護が必要になったとき」が著しく多く、「子どもが独立したとき」、「子どもが小学校に入学する前」、「退職後」が続く。

男性と進学時流出組の女性は仕事にかかわるライフイベントがUターンのタイミングになる一方で、就職時転出組の女性では家族等にかかわるライフイベントがUターンのタイミングになる傾向にあると考えられる。

図表 3-2-13 盛岡広域へUターンするタイミング

男性		Q13													
上段:度数		就職する とき	転職先が 見つかった とき	起業・事業 承継する とき	結婚前 のどこか	結婚した とき	子どもが 生まれる 前	子どもが 生まれた とき	子どもが 小学校に 入学する 前	子どもが 独立した とき	親の世話・ 介護が必 要になっ たとき	退職後	その他	未定	合計
	進学時流出組(百 都圏)	2 25.0	3 37.5	2 25.0	-	-	-	-	1 12.5	2 25.0	2 25.0	4 50.0	-	-	8
	就職時転出組(百 都圏)	-	3 42.9	4 57.1	1 14.3	-	-	-	1 14.3	3 42.9	-	2 28.6	-	-	7
	全体	2 13.3	6 40.0	6 40.0	1 6.7	-	-	-	2 13.3	5 33.3	2 13.3	6 40.0	-	-	15
															100.0
女性		Q13													
上段:度数		就職する とき	転職先が 見つかった とき	起業・事業 承継する とき	結婚前 のどこか	結婚した とき	子どもが 生まれる 前	子どもが 生まれた とき	子どもが 小学校に 入学する 前	子どもが 独立した とき	親の世話・ 介護が必 要になっ たとき	退職後	その他	未定	合計
	進学時流出組(百 都圏)	1 20.0	1 20.0	3 60.0	-	-	1 20.0	-	-	3 60.0	1 20.0	2 40.0	-	-	5
	就職時転出組(百 都圏)	-	2 18.2	-	1 9.1	1 9.1	1 9.1	2 18.2	4 36.4	5 45.5	7 63.6	4 36.4	-	1 9.1	11
	全体	1 6.3	3 18.8	3 18.8	1 6.3	1 6.3	2 12.5	2 12.5	4 25.0	8 50.0	8 50.0	6 37.5	-	1 6.3	16
															100.0

また、同層に対してUターンの課題を尋ねたのが次の表である。

進学時流出組の男性では、「仕事に関する情報がない」が最も大きい比率を占め、女性では「仕事の確保」が大きな比率を占めた。

就職時転出組の男性では、「仕事の確保」、「起業や創業が難しい」が課題として最も大きく、女性では「仕事の確保」が大きな課題として挙げられた。

図表 3-2-14 盛岡広域へUターンする際の課題

男性		Q14															
上段:度数		仕事の確保	仕事に関 する情報 がない	起業や創 業が難し い	農業・林 業など 第1次産 業への就 業が難し い	住宅の保 確保	住宅に関 する情報 がない	家族・パ ートナー の同意を 得ること	Uターン に関する 各種情報 の入手・ 相談先 の確保	転居資金 の工面	近所づ きあ いなど 地域へ の掛け 込み	子ども の教育	友人を 作る	その他	特にな い	合計	
	進学時流出組(百 都圏)	2 25.0	4 50.0	1 12.5	-	1 12.5	1 12.5	2 25.0	2 25.0	1 12.5	2 25.0	1 12.5	1 12.5	-	-	1 12.5	8
	就職時転出組(百 都圏)	5 71.4	4 57.1	5 71.4	2 28.6	3 42.9	2 28.6	1 14.3	2 28.6	2 28.6	2 28.6	1 14.3	-	-	-	-	7
	全体	7 46.7	8 53.3	6 40.0	2 13.3	4 26.7	3 20.0	3 20.0	4 26.7	3 20.0	4 26.7	2 13.3	1 6.7	-	-	1 6.7	15
																	100.0
女性		Q14															
上段:度数		仕事の確保	仕事に関 する情報 がない	起業や創 業が難し い	農業・林 業など 第1次産 業への就 業が難し い	住宅の保 確保	住宅に関 する情報 がない	家族・パ ートナー の同意を 得ること	Uターン に関する 各種情報 の入手・ 相談先 の確保	転居資金 の工面	近所づ きあ いなど 地域へ の掛け 込み	子ども の教育	友人を 作る	その他	特にな い	合計	
	進学時流出組(百 都圏)	4 80.0	3 60.0	1 20.0	-	2 40.0	2 40.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	-	1 20.0	-	-	-	5	
	就職時転出組(百 都圏)	8 72.7	2 18.2	1 9.1	2 18.2	4 36.4	2 18.2	3 27.3	3 27.3	4 36.4	2 18.2	3 27.3	1 9.1	-	1 9.1	11	
	全体	12 75.0	5 31.3	2 12.5	2 12.5	6 37.5	4 25.0	4 25.0	5 31.3	5 31.3	2 12.5	4 25.0	1 6.3	-	1 6.3	16	
																100.0	

(6) 盛岡広域に住むにあたって求めること、重視すること

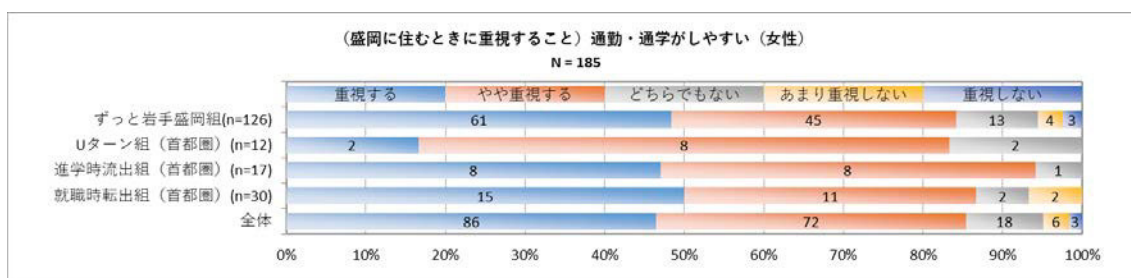
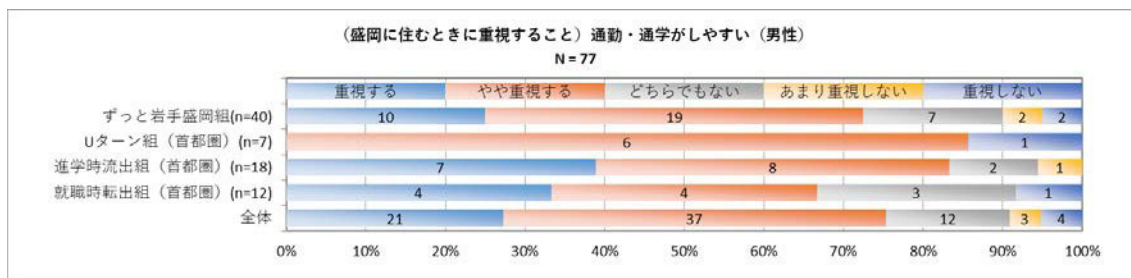
この項では、盛岡広域に住む（東京圏就職グループでは盛岡広域に住むと仮定したとき）にあたってどのような項目を重視するのかが確認する。

対象者は前項と同じ属性で抽出した。なお、アンケートでは盛岡広域を「盛岡」と表示したため、以下同様に「盛岡」と表示することがある。

ア (盛岡に住むときに重視すること) 通勤・通学がしやすい

この項目では、通勤・通学がしやすいことを重視するかを尋ねた。

男性よりも女性で通勤・通学のしやすさを重視する比率が高い。Uターン組では「重視する」の比率が低い。



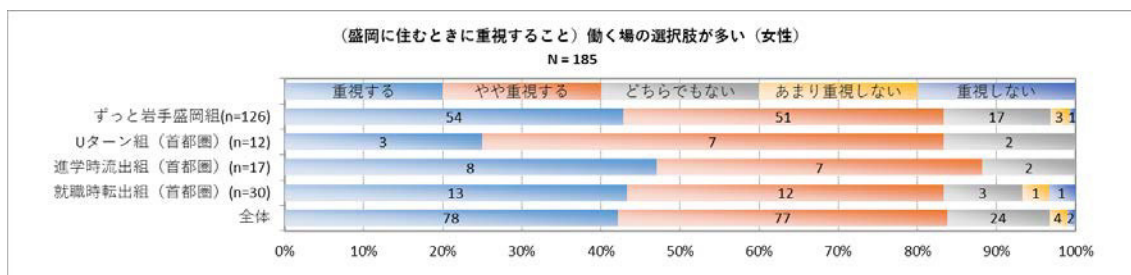
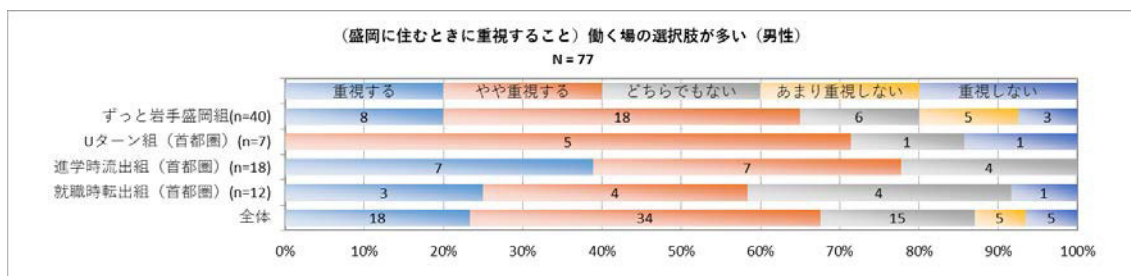
イ (盛岡に住むときに重視すること) 働く場の選択肢が多い

この項目では、働く場の選択肢の多さを重視するかを尋ねた。

男性では進学時流出組で重視する比率が高い。

女性ではUターン組を除くすべての組で4割程度が「重視する」と回答しており、女性では全般的に働く場の多様性を重視する傾向にある。

Uターン組では「重視する」の比率が低い。

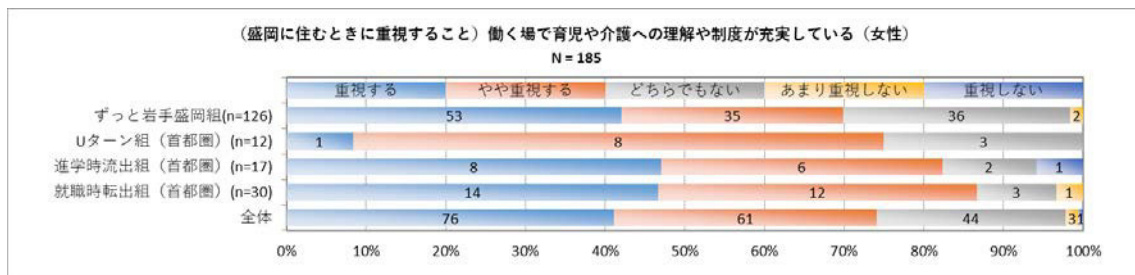
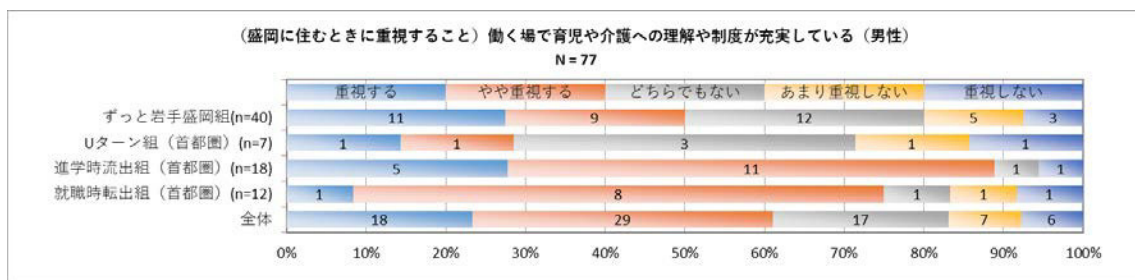


ウ (盛岡に住むときに重視すること) 働く場で育児や介護への理解や制度が充実している

この項目では、働く場で育児や介護への理解や制度が充実していることを重視するかを尋ねた。

男性では、東京圏就職グループで重視する比率が高い。

男性と比較すると女性で重視する比率が高い。特に女性では「重視する」と回答した者が4割を超えており、女性に訴求力が高い項目であると考えられる。

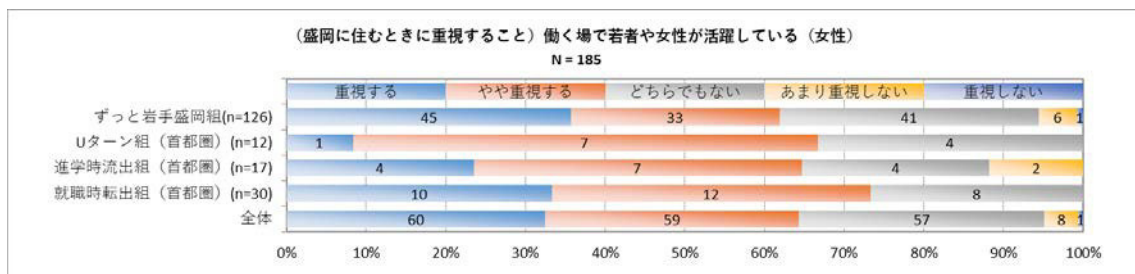
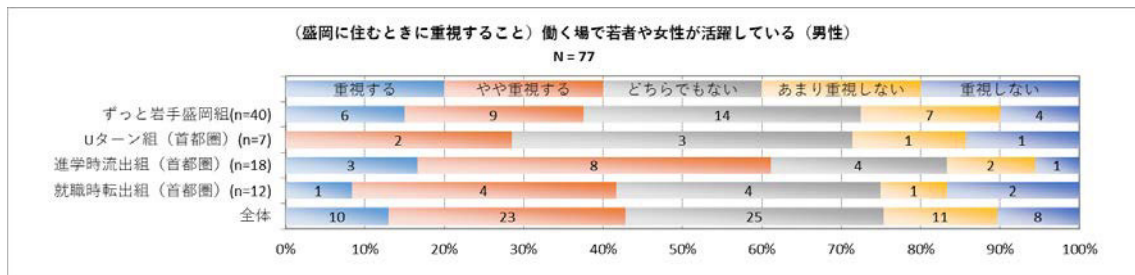


エ (盛岡に住むときに重視すること) 働く場で若者や女性が活躍している

この項目では、働く場で若者や女性が活躍していることを重視するかを尋ねた。

男性と女性では、男性の「あまり重視しない」「重視しない」がどの組でも2割程度を占めているのに対し、女性では重視する比率が高い。

男性でも、進学時流出組の男性では若者や女性の活躍を重視する傾向がある。



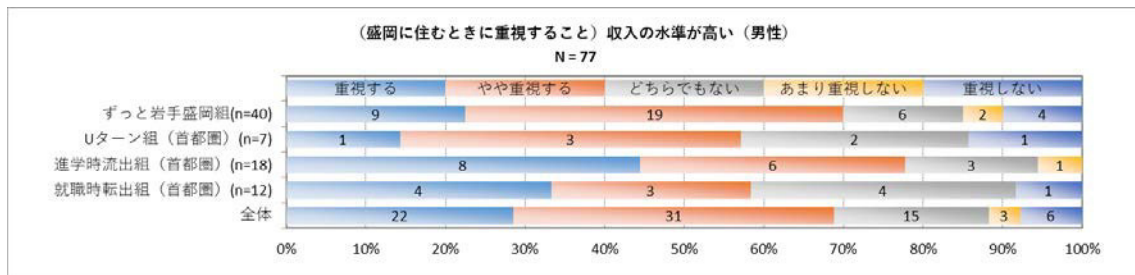
オ (盛岡に住むときに重視すること) 収入の水準が高い

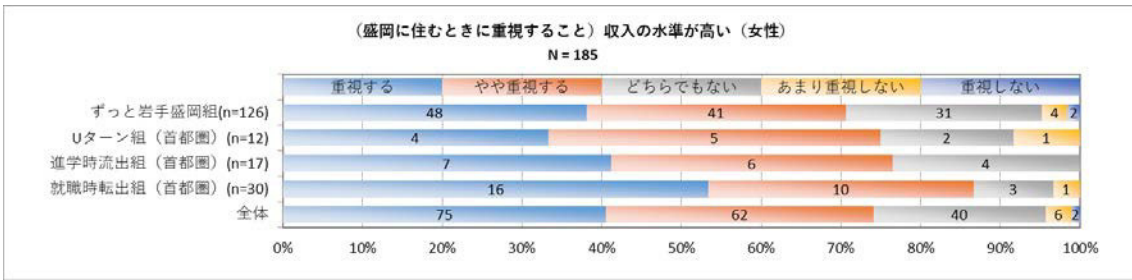
この項目では、収入の水準の高さを重視するかを尋ねた。

男性では、進学時流出組で「重視する」の比率が高く、就職時転出組が続く。

女性では、就職時転出組で「重視する」の比率が高く、進学時流出組が続く。

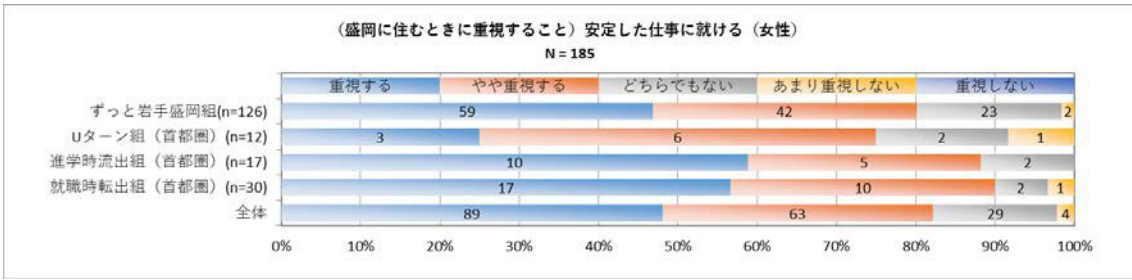
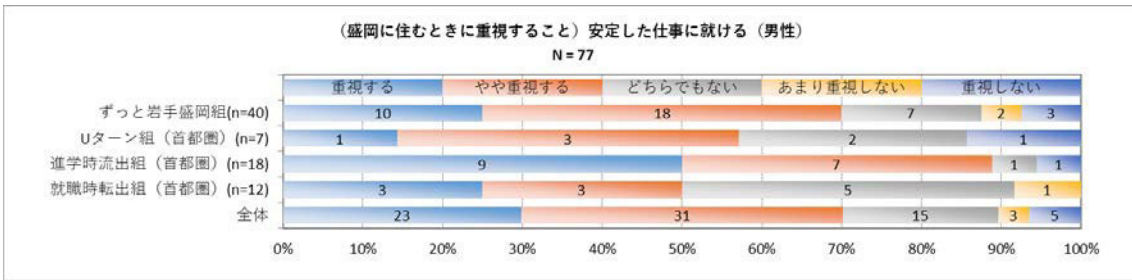
男性と女性では、女性に対して訴求力がある項目であると考えられる。





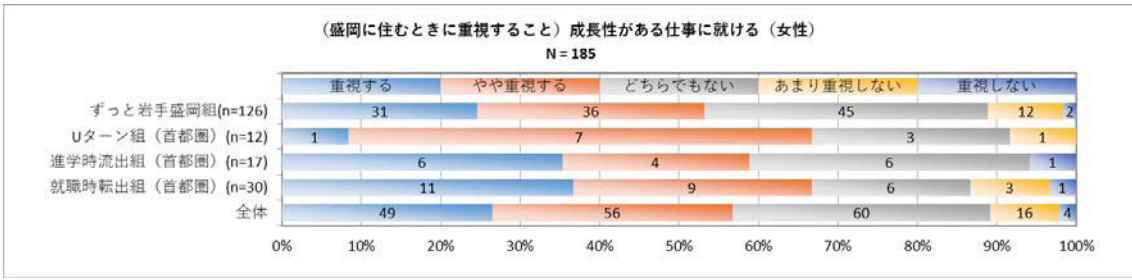
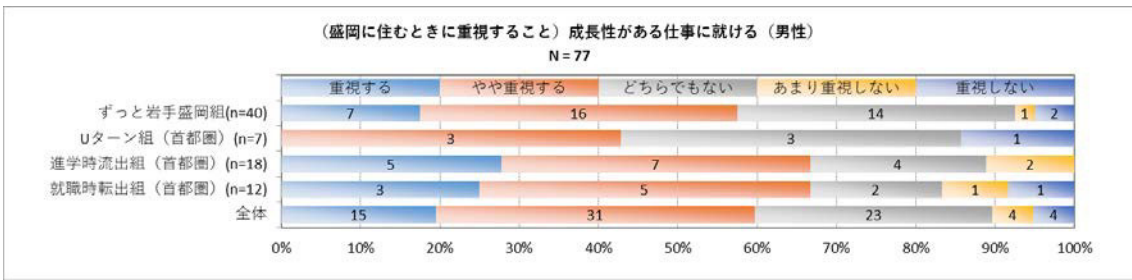
カ (盛岡に住むときに重視すること) 安定した仕事に就ける

この項目では、仕事の安定性を重視するかを尋ねた。
男性では、収入の高さとほぼ同傾向であるのに対して、女性では、収入の高さに比べてもさらに重視する比率が高い。



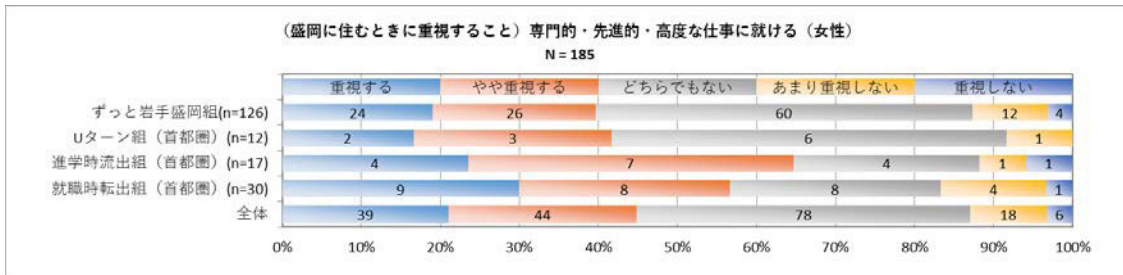
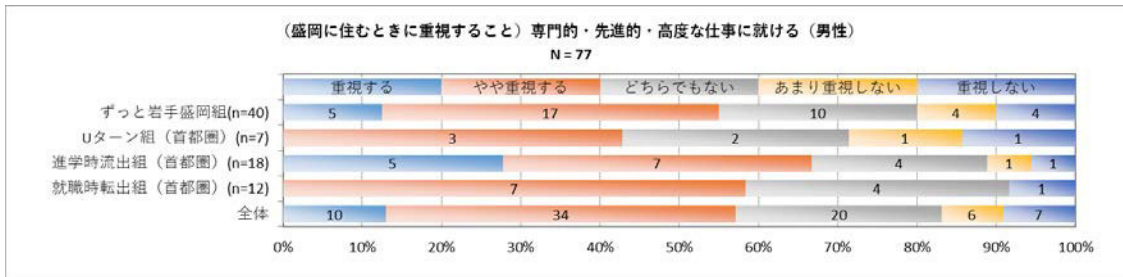
キ (盛岡に住むときに重視すること) 成長性がある仕事につける

この項目では、仕事の成長性を重視するかを尋ねた。
東京圏就職グループで重視する傾向が強い。
収入の水準の高さや、仕事の安定性を尋ねる項目と比較すると、重視する傾向が低い。



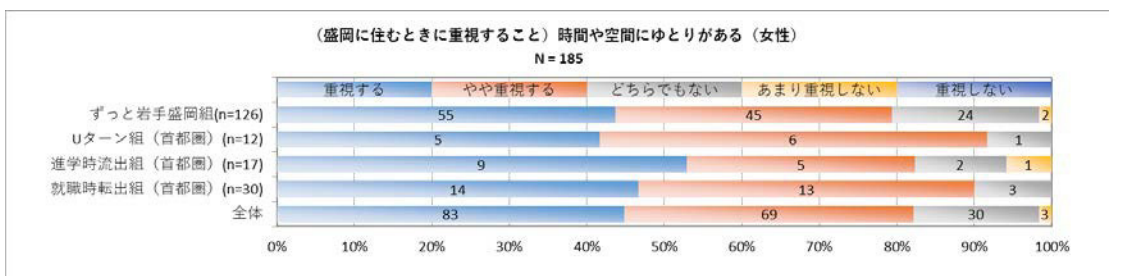
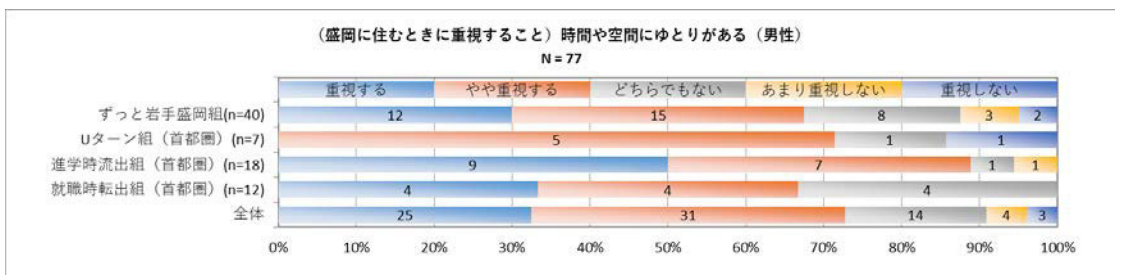
ク (盛岡に住むときに重視すること) 専門的・先進的・高度な仕事に就ける

この項目では、仕事における専門性・先進性・高度性を重視するかを尋ねた。
 男性では、進学時流出組で重視する比率が高い。
 女性では、どの組でも「重視する」が同程度の出現率となっている



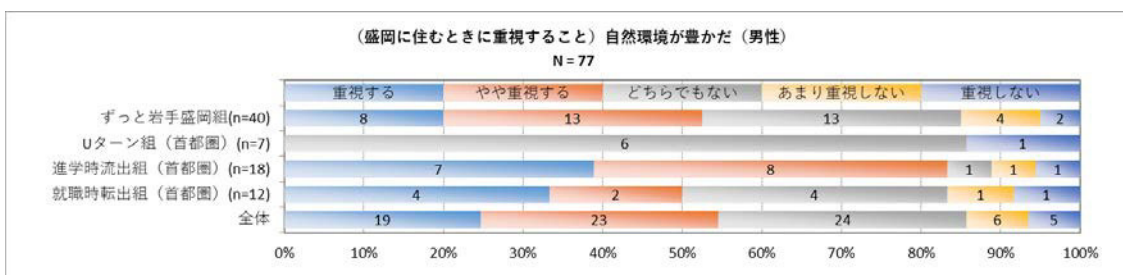
ケ (盛岡に住むときに重視すること) 時間や空間にゆとりがある

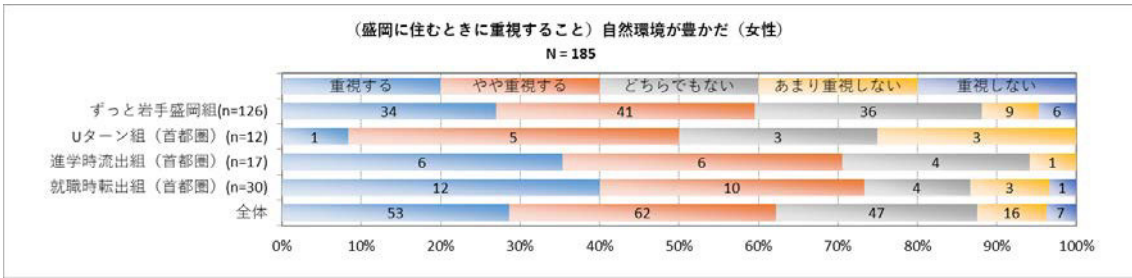
この項目では、時間や空間にゆとりがあることを重視するかを尋ねた。
 男性では、進学時流出組で重視する比率が高い。
 女性では、すべての組で同程度の出現率となっており、女性に対する訴求力が大きい項目であると考えられる。



コ (盛岡に住むときに重視すること) 自然環境が豊かだ

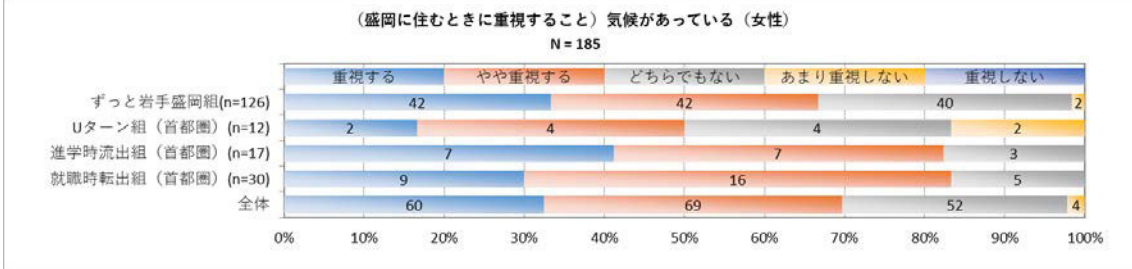
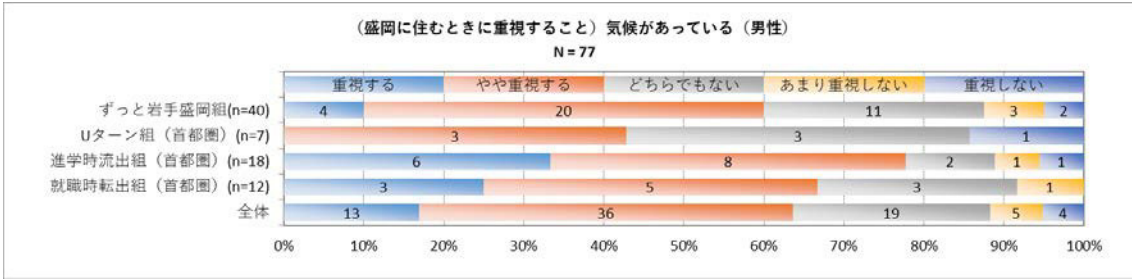
この項目では、自然環境の豊かさを重視するかを尋ねた。
 男女とも東京圏就職グループで重視する比率が高い。





サ (盛岡に住むときに重視すること) 気候があっている

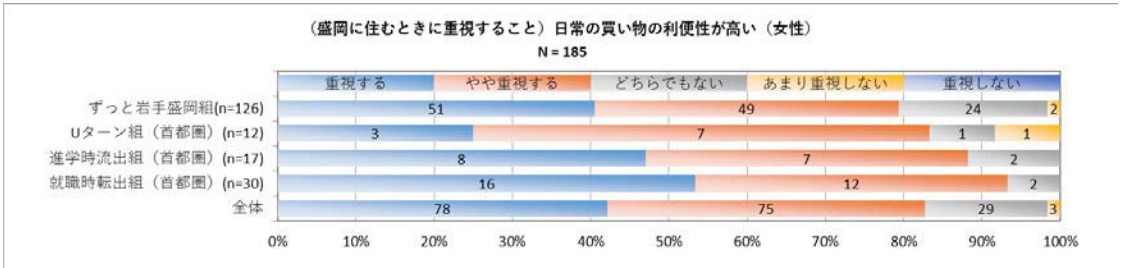
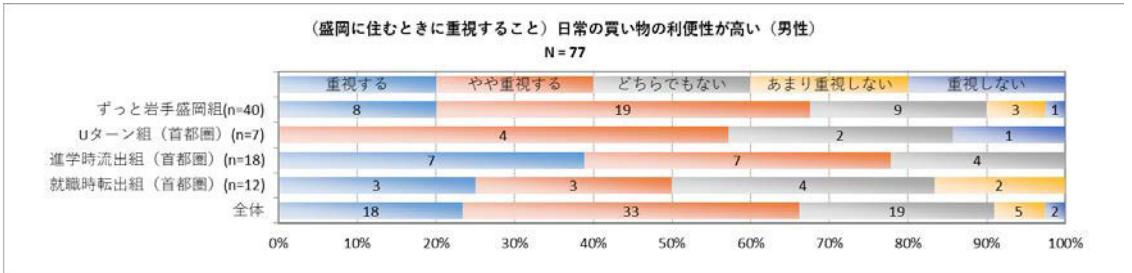
この項目では、気候が自分にあっていることを重視するかを尋ねた。
男女とも東京圏就職グループで重視する比率が高い。



シ (盛岡に住むときに重視すること) 日常の買い物の利便性が高い

この項目では、日常の買い物の利便性を重視するかを尋ねた。
男女とも東京圏就職グループで重視する比率が高い。

特に女性では、仕事と同程度に重視している傾向が強い、女性に対して訴求力がある項目であると考えられる。

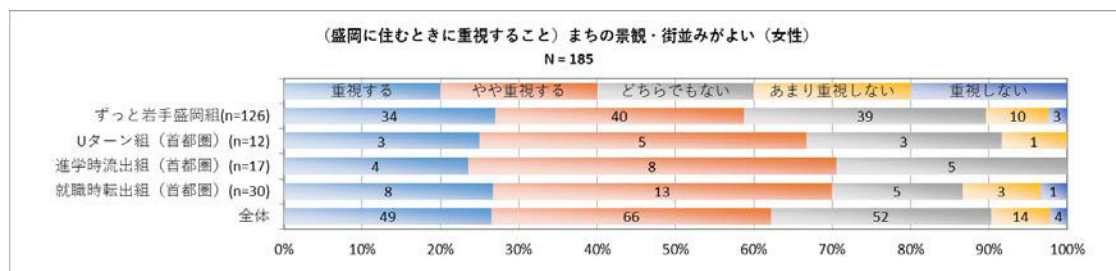
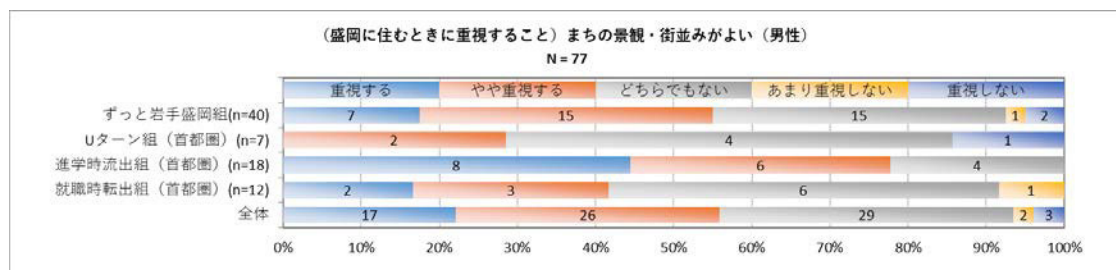


ス (盛岡に住むときに重視すること) まちの景観・街並みが良い

この項目では、まちの景観や街並みを重視するかを尋ねた。
男性では進学時流出組で重視する比率が高い。

女性ではどの層でも一定の出現率がある。

このことから、男性の進学時流出組と女性のすべての層に訴求力がある項目であると考えられる。

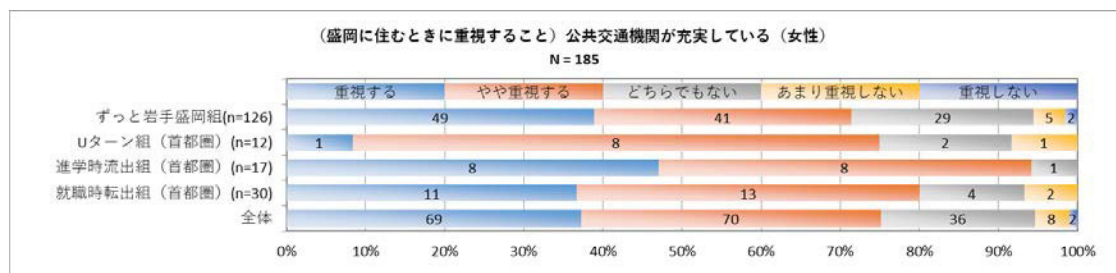
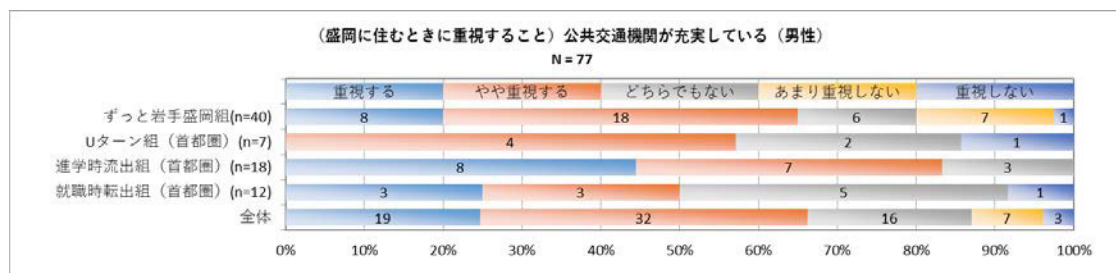


セ (盛岡に住むときに重視すること) 公共交通機関が充実している

この項目では、公共交通機関の充実を重視するかを尋ねた。

男女とも進学時流出組で重視する比率が高い。

女性ではUターン組を除いて一定の出現率があり、女性に対する訴求力が強い項目であると考えられる。

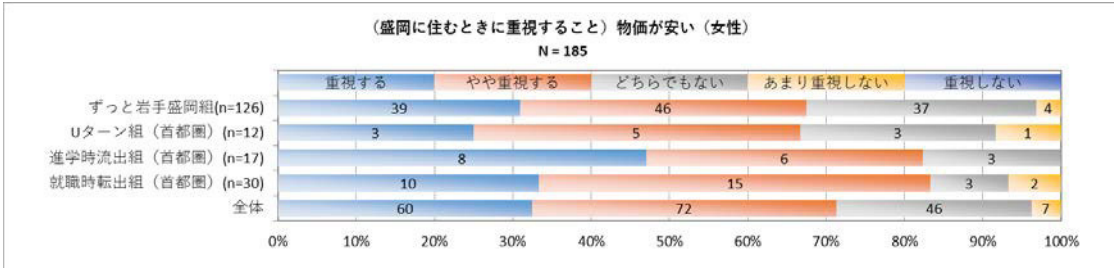
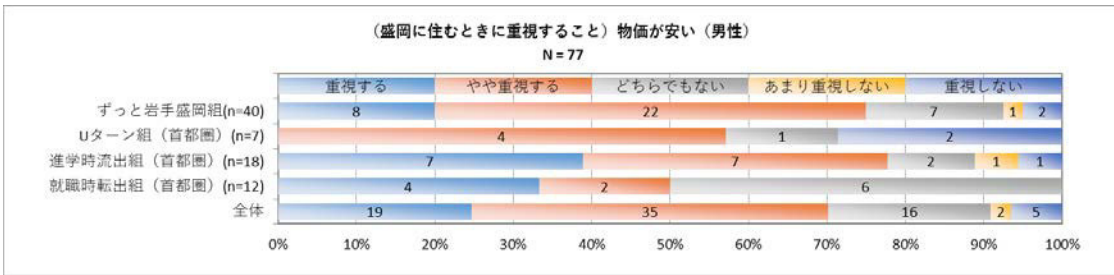


ソ (盛岡に住むときに重視すること) 物価が安い

この項目では、物価の安さを重視するかを尋ねた。

仕事関連の設問と比較すると、重要度が低い傾向がある。

女性で「重視する」の比率が高く、女性に対する訴求力が高い項目であると考えられる。

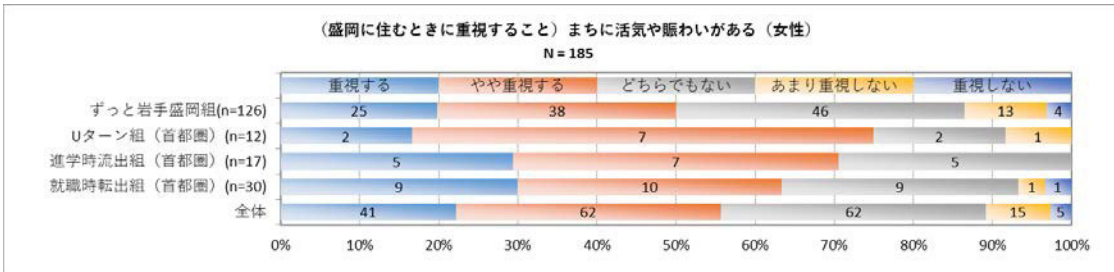
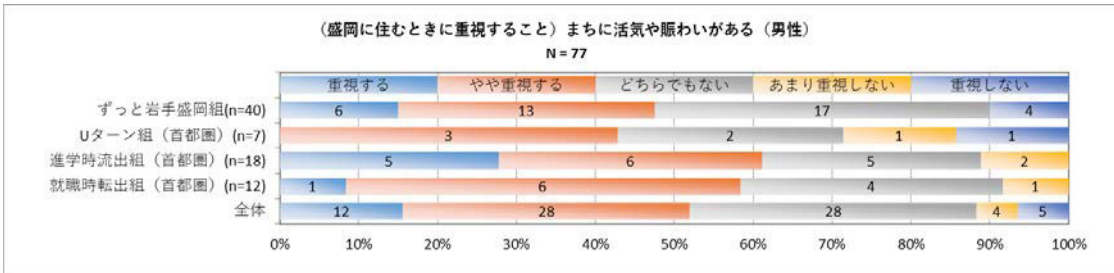


タ (盛岡に住むときに重視すること) まちに活気や賑わいがある。

この項目では、まちの活気や賑わいを重視するかを尋ねた。

男女とも、仕事や生活分野に比べて重視する比率は低い。

女性で「重視する」の比率が高く、女性に対する訴求力が高い項目であると考えられる。

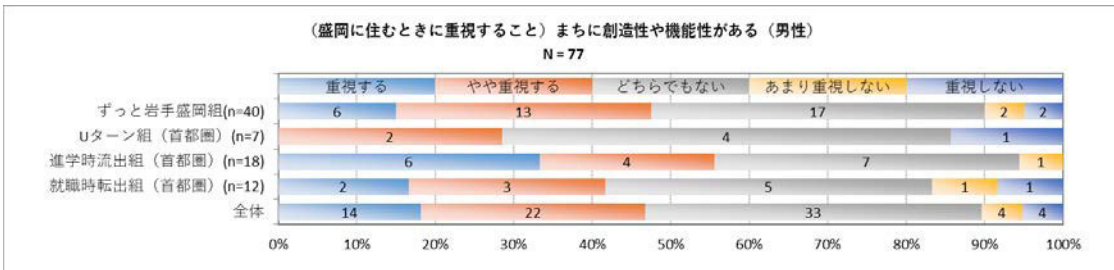


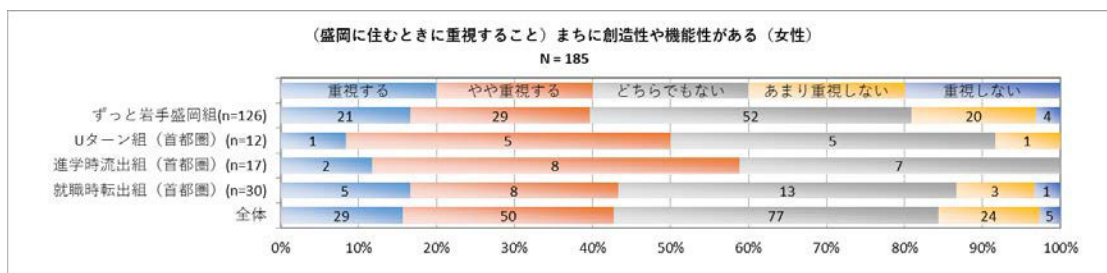
チ (盛岡に住むときに重視すること) まちに創造性や機能性がある

この項目では、まちの創造性や機能性を重視するかを尋ねた。

男女とも重視する比率は、仕事や生活分野に比べて低い。

「どちらでもない」の比率が最も高く、関心が少ない項目であると考えられる。



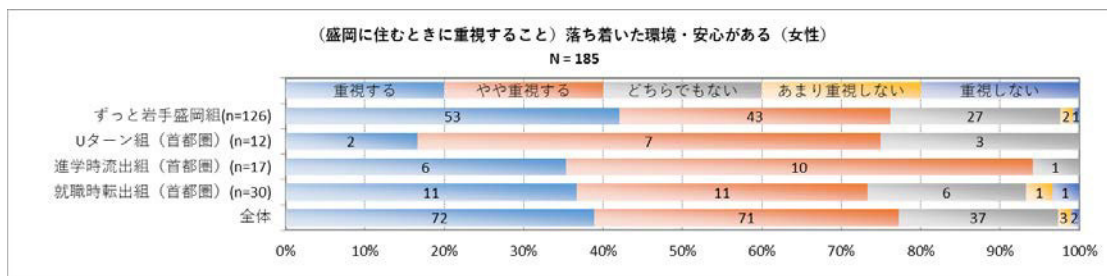
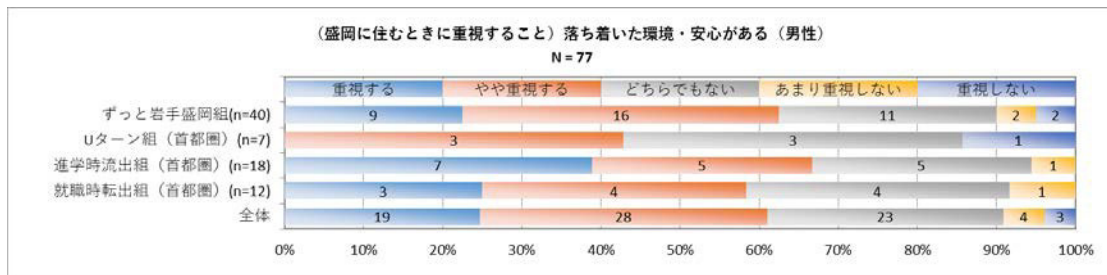


ツ (盛岡に住むときに重視すること) まちに落ち着いた環境, 安心がある

この項目では, 落ち着いた環境や安心を重視するかを尋ねた。

女性で重視する比率が高く, ずっと岩手盛岡組で「重視する」の比率が高い。

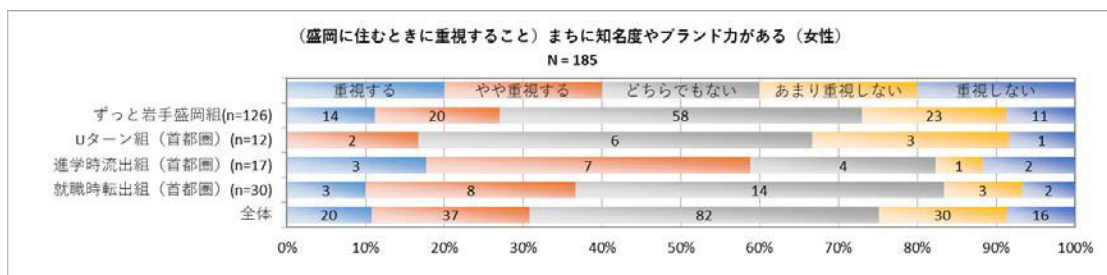
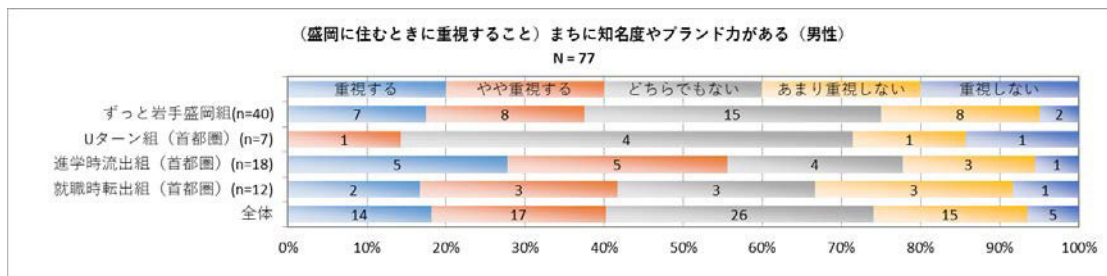
女性に対する訴求力がある項目であると考えられる。



テ (盛岡に住むときに重視すること) まちに知名度やブランド力がある

この項目では, まちの知名度やブランド力を重視するかを尋ねた。

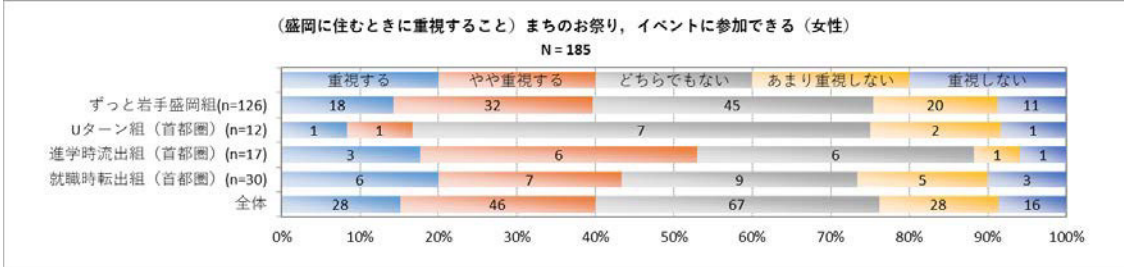
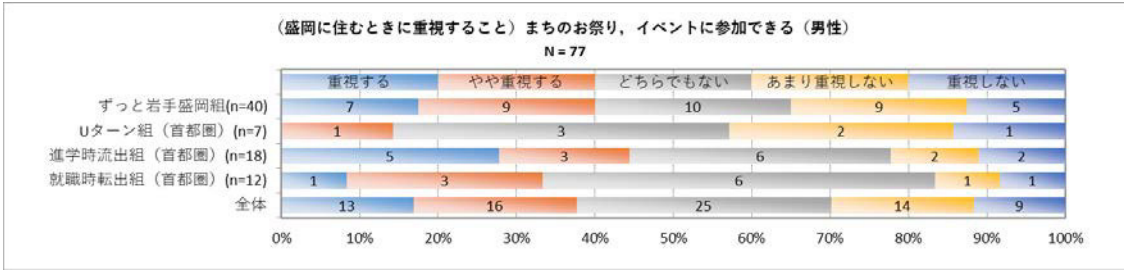
男女とも進学時流出組で重視する比率が高いが, それ以外の区分では重視しない比率が高い。



ト (盛岡に住むときに重視すること) まちのお祭り, イベントに参加できる

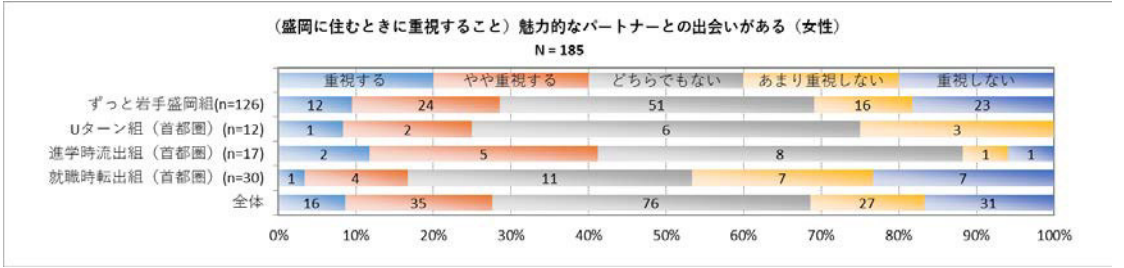
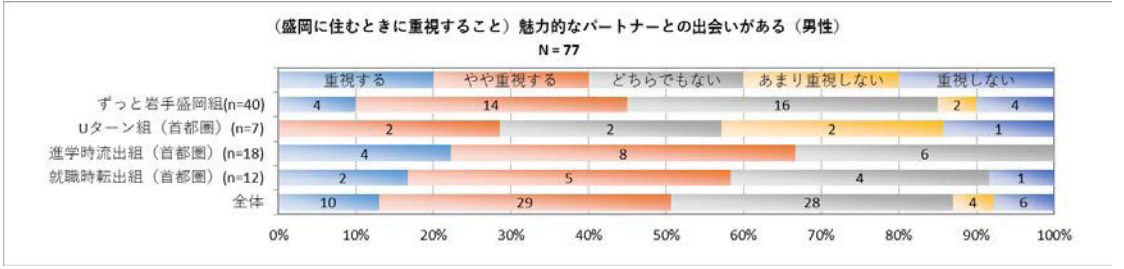
この項目では, まちのお祭り, イベントに参加できることを重視するかを尋ねた。

仕事に関する項目と比較すると関心が低い傾向にある。



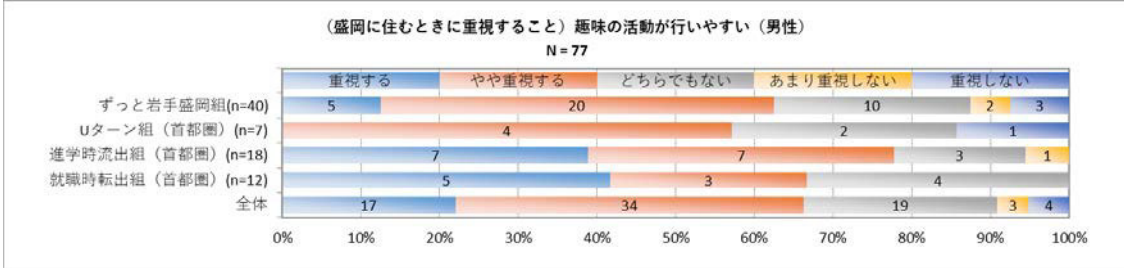
ナ (盛岡に住むときに重視すること) 魅力的なパートナーとの出会いがある

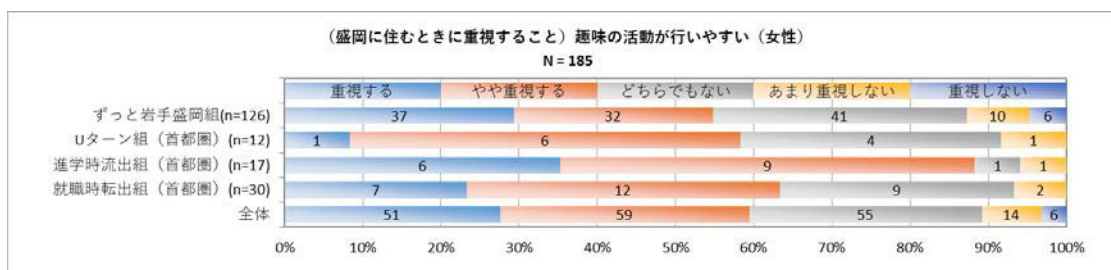
この項目では、魅力的なパートナーとの出会いを重視するかを尋ねた。
男性と女性では、男性で重視する傾向が高く、「どちらともいえない」、または、「重視しない」傾向は女性で高い。
なお、回答者の中には既婚者が含まれていることに留意が必要である。



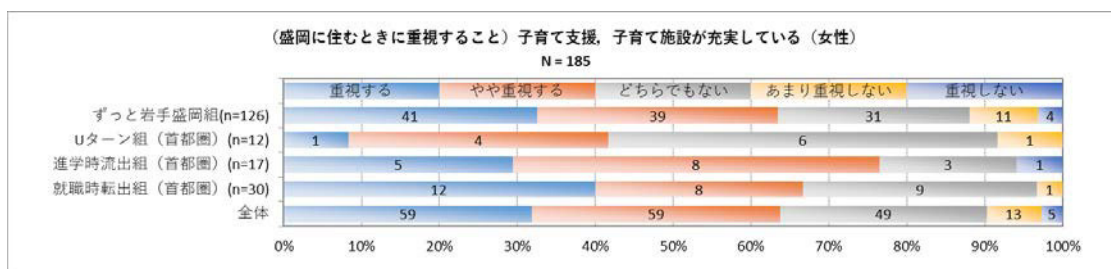
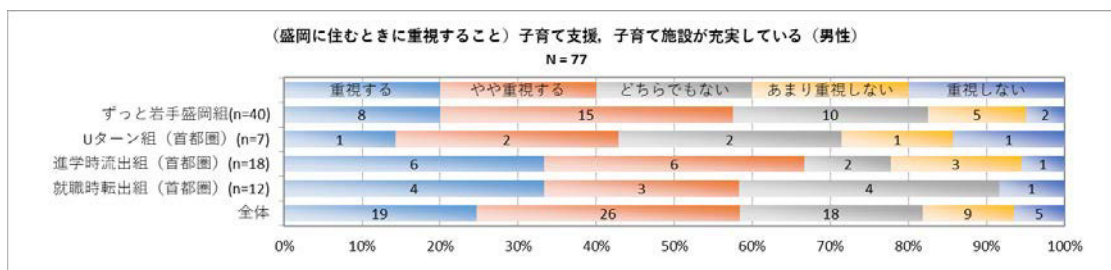
ニ (盛岡に住むときに重視すること) 趣味の活動が行いやすい

この項目では、趣味の活動が行いやすいことを重視するかを尋ねた。
東京圏就職グループの男性と進学時流出組の女性で重視する比率が高い。
ずっと岩手盛岡組では、女性で「重視する」の比率が高い。

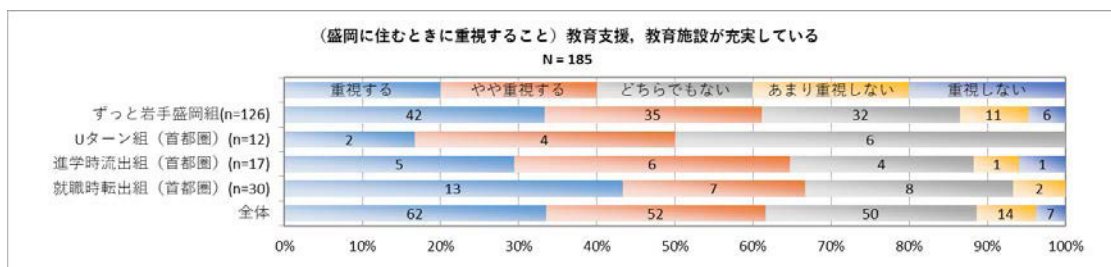
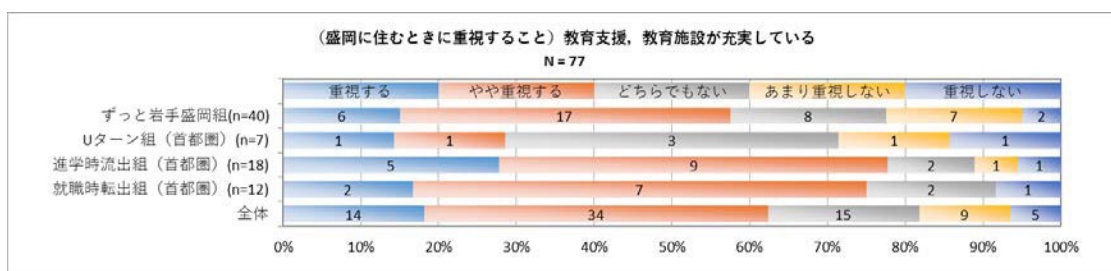




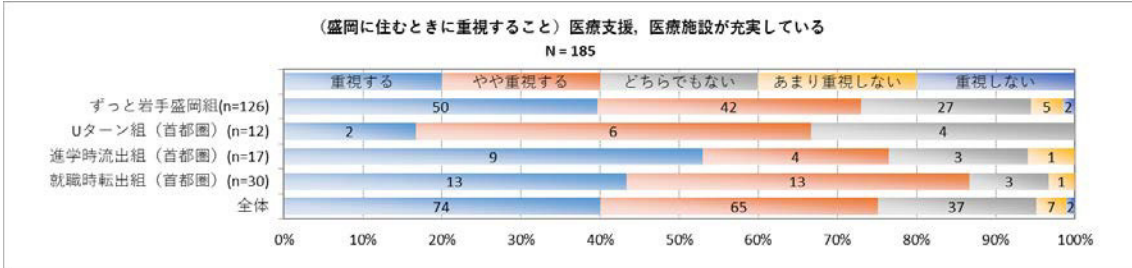
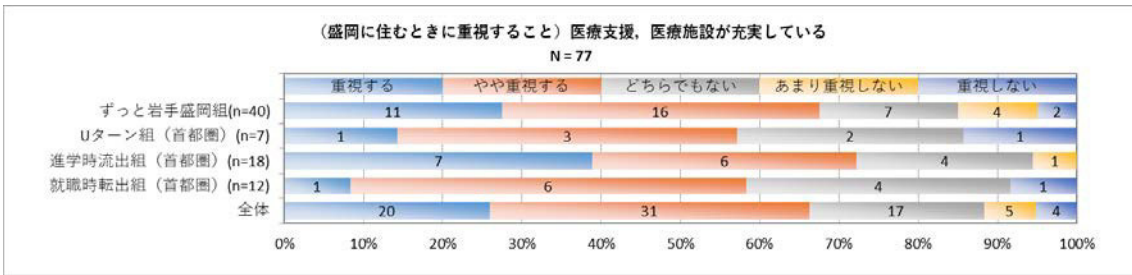
ヌ (盛岡に住むときに重視すること) 子育て支援, 子育て施設が充実している
この項目では, 子育て支援, 子育て施設の充実を重視するかを尋ねた。
Uターン組を除くすべての組で重視する比率が高く, 特に女性で重視する比率が高い
ため, 女性に対する訴求力があるものと考えられる。



ネ (盛岡に住むときに重視すること) 教育支援, 教育施設が充実している
この項目では, 教育支援, 教育施設の充実を重視するかを尋ねた。
進学時流出組の男女と, 就職時転出組の女性で重視する比率が高い。

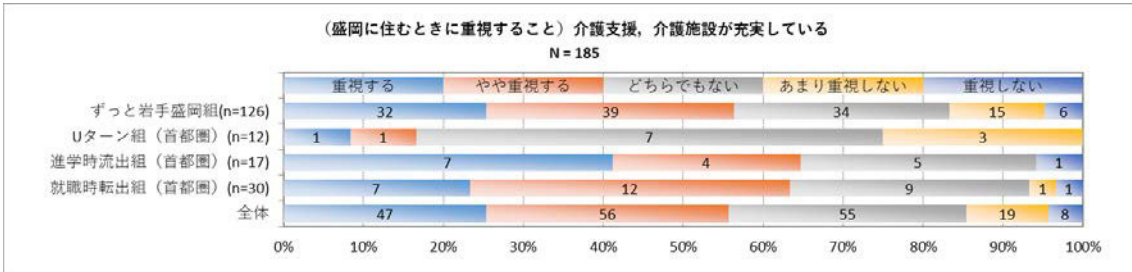
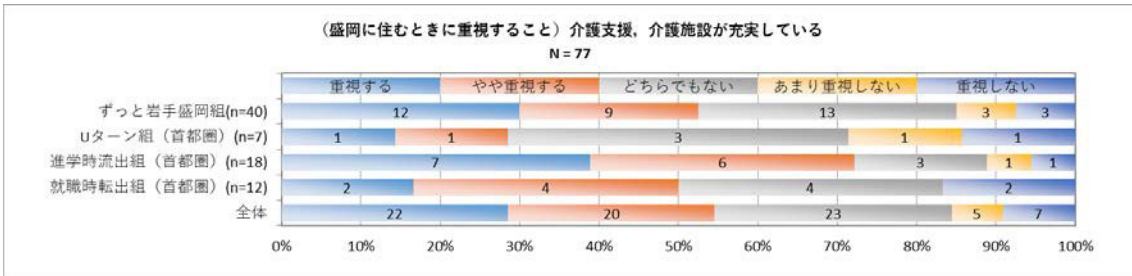


ノ (盛岡に住むときに重視すること) 医療支援, 医療施設が充実している
この項目では, 医療支援, 医療施設の充実を重視するかを尋ねた。
進学時流出組の男性と, 東京圏就職グループの女性で重視する比率が高い。



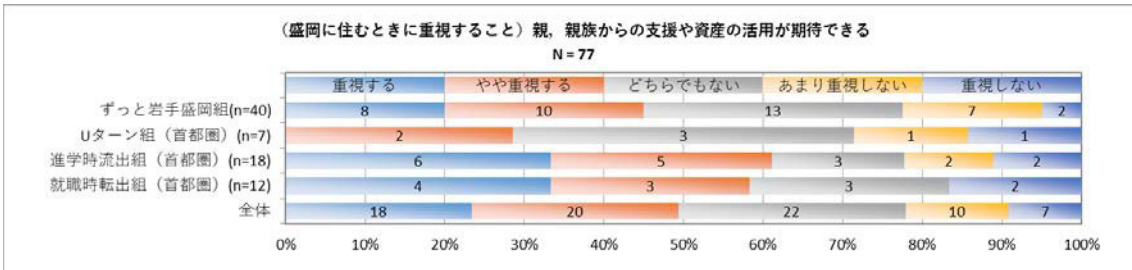
ハ (盛岡に住むときに重視すること) 介護支援, 介護施設が充実している

この項目では, 介護支援, 介護施設の充実を重視するかを尋ねた。
男女とも進学時流出組で重視する比率が高い。

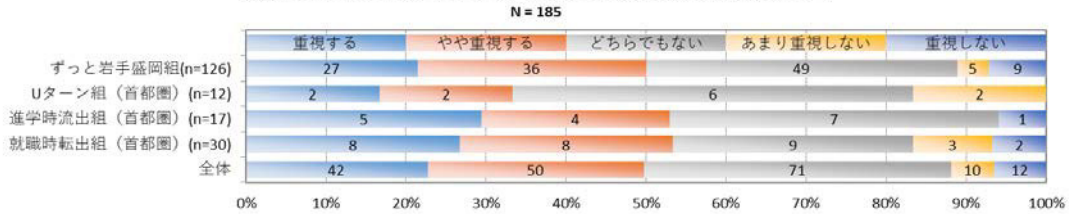


ヒ (盛岡に住むときに重視すること) 親, 親族からの支援や資産の活用が期待できる

この項目では, 親, 親族からの支援や資産の活用を重視するかを尋ねた。
男女とも東京圏就職グループで重視する比率が高く, 男性でやや高い。

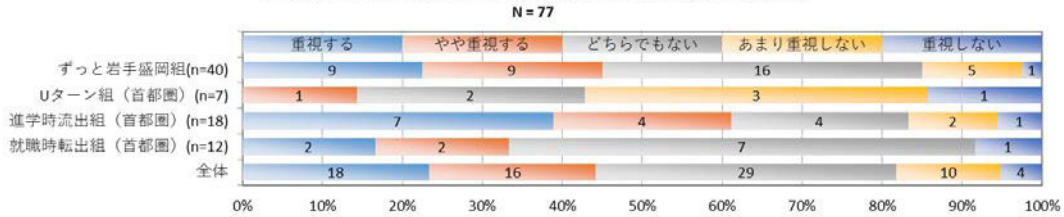


(盛岡に住むときに重視すること) 親、親族からの支援や資産の活用が期待できる

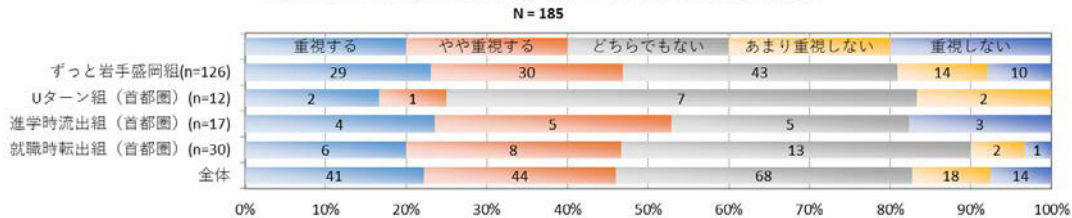


フ (盛岡に住むときに重視すること) 親、親族の世話、介護を行う必要性がある。
この項目では、親、親族の世話、介護を行う必要性を重視するかを尋ねた。
特に男性の進学時流出組で重視する比率が突出して高い。

(盛岡に住むときに重視すること) 親、親族の世話、介護を行う必要性がある



(盛岡に住むときに重視すること) 親、親族の世話、介護を行う必要性がある

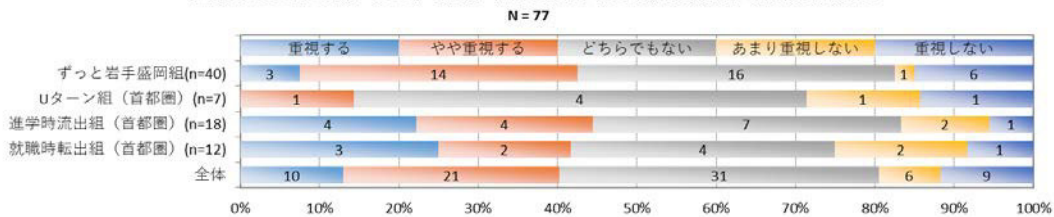


ヘ (盛岡に住むときに重視すること) 町内会・近所づきあいなど地域の人間関係、助け合いが良好だ。

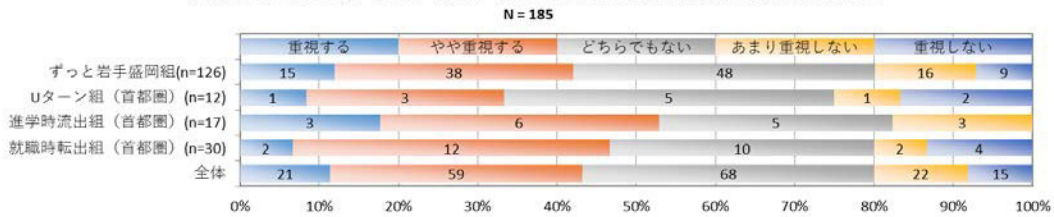
この項目では、町内会・近所づきあいなど地域の人間関係、良好な助け合いを重視するかを尋ねた。

仕事や生活の項目と比較すると重視度が低い傾向にある。

(盛岡に住むときに重視すること) 町内会・近所づきあいなど地域の人間関係・助け合いが良好だ



(盛岡に住むときに重視すること) 町内会・近所づきあいなど地域の人間関係・助け合いが良好だ

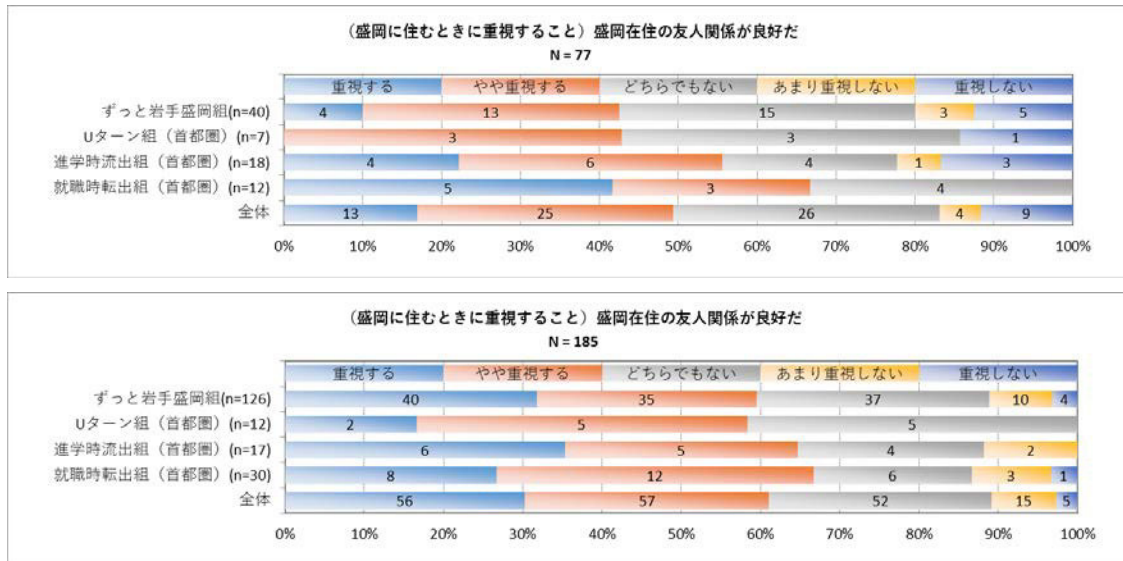


ホ (盛岡に住むときに重視すること) 盛岡在住の友人関係が良好だ

この項目では、盛岡在住の友人関係をどれだけ重視するかを尋ねた。

男性では、「重視する」が就職時転出組で突出している。女性では「重視する」の比率

が高い。



第3 インタビュー調査による若者の価値観・行動様式の把握

盛岡に暮らす若者や、盛岡出身で東京に居住する若者に対してインタビューを行い、若者の実態を把握した。インタビュー内容は、個人を特定できないよう、簡潔な表現やより幅の広い表現に変更している。

(a) 20代後半, 女性, 既婚, 医療・福祉従事者

盛岡広域出身。岩手県内の大学に通って資格を取得した。

高校生のころから、将来設計を考え始めた。

将来の親の世話や、親から受けられる支援、これまで構築した人間関係を維持していくことを考えると盛岡広域に住みたいと考えていた。

将来設計の中で、夫については収入が高く安定性が高い人物を望んでいたが、盛岡では条件を満たす職業は限定されていて絶対数が少ない。自分の条件に合う人を探し何度か合コンを繰り返した結果、安定した職業の男性と出会って結婚した。

もし出会いがなければ、資格を武器に、適齢期のうちに大都市に出ることを考えていたかもしれない。

自分の給料は低いが、給料が少ないことだけを理由として、東京に出ようと思えることはなかった。

東京への憧れはないし、ほかの土地で暮らしていく自信がない。

東京や仙台に進出したい人は、もともと都会に住むことを望む性向を持った人ではないか。そのような人は盛岡や盛岡の人間関係について価値をあまり感じていないと感じている。

女性は将来の生活を考えて行動する傾向があるので、男性の経済力や安定性が大切だと思う。

(b) 20代前半, 女性, 未婚, 学生

盛岡広域出身, 盛岡広域育ち。

理系分野に興味があり, 実家から岩手県内の大学に通っている。

地元に対する愛着は無いし, 岩手には自分が学んだことを活かせる仕事がないと思う。希望する業界の会社から内定が出たので, 都内の憧れの場所に住みたいと思っている。将来のUターンは考えたことはないし, 親も何も言っていない。

若者はテレビも見ることが少ないし, 新聞も雑誌も読まない人が多いので, スマートフォンに出てこない情報は無いのと同じ。東京圏に進学した友達とも SNS で繋がっ

ていて、東京圏の情報は豊富にあり、岩手県側から東京圏側に飛び越えるハードルは低いと思う。

(c) 20代前半, 女性, 未婚, 学生

B県生まれ, B市育ち。

企業の研究開発に興味があり, 岩手県内の大学の理系学部に進学した。

研究開発ができる東京圏に就職したい。

一人っ子であり, 将来の親の世話や介護の必要性はあるのかもしれないが, 漠然としている。改めて意識したことはないし, 親も, 自分の夢を応援してくれている。

(d) 20代前半, 女性, 未婚, 学生

C県出身で, 医療・福祉系の資格をとるために岩手県内の大学に進学した。

卒業後は地元に戻りたいと考えていて, 少なくとも東北から出たくない。地元で一定の収入を得て働くための武器として, 資格取得が必要だと考えている。

(e) 20代前半, 男性, 未婚, 学生

D県出身で, IT技術を学ぶために岩手県内の大学に進学した。卒業後は人脈づくりや先端技術を学ぶために東京圏に就職するが, 将来的には地元の近くに帰って起業したいと考えている。しかし, 地元にはマーケットがないので, 起業をするのであれば盛岡が好適地だろうと考えている。

(f) 20代後半, 女性, 未婚, 教育・学習支援

盛岡広域出身, 盛岡広域育ち。

お世話になった教員に憧れて, 教員を目指すため東北にある大学に進学した。

卒業後は仙台に住みたかったが, 採用試験で岩手県に採用された。

大学院での研究や, 大都市への移住など, 自分がステップアップできるチャンスが今なのではないかと漠然と考えている。

学生のころはアパレル関係のアルバイトをしていて, アパレル業界にも興味がある。盛岡にはアパレルの店舗が少ないので, 仙台に惹かれる。

(g) 20代前半, 女性, 未婚, 学生

A県生まれ, A県育ち。

A大学への入学が難しかったので, 岩手県内の大学に進学した。

企業の研究職に興味があるので, 将来は東京圏に就職したい。

将来の親の世話や介護のことまでは考えていないし, 地元へのUターンもまだ考えていない。

(h) 20代前半, 男性, 未婚, 学生

盛岡広域出身, 盛岡広域育ち。

建築に興味があり, 東京にある大学に進学した。

必要な資格をとるためには実務経験が必要なので, 卒業後は国内各所で実務経験を積みたいと考えている。

秋祭りなど地域の活動に子どもころから関わっていて, 地元に着があり, 将来的には盛岡広域に戻ってきて盛岡広域で仕事をしたいと考えている。

(i) 20代前半, 女性, 未婚, 学生

岩手県内出身, 岩手県内の大学で学んでいる。

卒業後は, 大学で身に着けた技術や知識を活かして親元に近い岩手県内で就職したい。

岩手県内には, 女性がショッピングできる場所がない。

ショッピングとは, 買い物だけではなくて, カフェによったりランチしたりしながら

ら、友人と一日を共に過ごすことだが、選択肢がごく少ない。

東京や仙台で服を購入したとしても、岩手にはそれを着ていく場所がないし、インスタグラムで発信したいおしゃれな場所もない。

(j) 20代前半, 女性, 未婚, 学生

B県出身。岩手県内の大学で学んでいる。

卒業後は、研究開発職に就きたいと考えているが、東北や岩手には働く場所がない。

B県には求める仕事がないので帰ることは考えていない。

(k) 20代前半, 女性, 未婚, 学生

岩手県内出身, 親元から岩手県内の大学に通っている。

親から東北の公立大学か, 県内の私立大学のいずれかの選択を提示され県内の私立大学を選択した。

趣味の活動を続けているので, 就職するとしても盛岡広域を離れたくない。

親元から離れて, ほかの場所で生活していく自信がない。

交際している男性は, いったん東京で就職先を探すと言っているが, ついて行くかどうかはわからない。

(l) 20代前半, 女性, 未婚, 学生

B県出身, 学びたいことはほかにあったが, 自分の受験スキルにかなう範囲内でB県より少し都会だと思える岩手県内の大学に進学した。

やりたい仕事は漠然と東京圏にあるのではないかと考えている。

しかし, 交際している男性が岩手県内に就職する希望をもっており, その男性と離れられないでいるのではないかと思う。

(m) 30代前半, 女性, 未婚, 医療・福祉従事者

岩手県内出身, A県の大学に通ったのち, そのままA県で仕事をしていた。

2人兄弟の弟が遠方にいるため, 親の面倒を自分が見る必要があると考えていて, 親が高齢になってきたので岩手にUターンした。

現在は, 実家から盛岡にある職場に通っている。

(n) 20代前半, 男性, 未婚, 学生

岩手県内出身。

親が公務員であり, 自分も公務員を目指して岩手県内の大学に進学した。

趣味の団体に属していて, 今後も継続して参加し続けたいと考えており, 県内の公務員を目指して勉強している。

(o) 30代前半, 女性, 未婚, その他のサービス業従事者

岩手県内出身, 東京の専門学校に通ったのち, 就職先を見つけられず生活コストを節約するために実家に戻った。

実家から通える範囲で販売員や事務の仕事が続けていたが, 盛岡広域に仕事が多かったため, 安いアパートを借りて盛岡広域に転居し, 非正規雇用として働いている。

東京に戻りたい気持ちはあるが, コストがかかる。趣味の活動を通じて人間関係を構築できているので盛岡広域から離れないと思う。

(p) 30代前半, 男性, 未婚, 情報通信業従事者

盛岡広域出身。

東京の大学を卒業した後, 盛岡にUターンして情報通信業の仕事についている。

Uターンした最大の理由は, 親と支えあって生活するため。東京圏のほうが, 自分と同じ価値観を持つ人が多く過ごしやすいし, 自分の成長も望める。しかし, 30代に

なって東京圏に出ても多くのリターンを得られないと思い、盛岡に住み続けている。

(q) 20代前半, 男性, 未婚, 学生

岩手県内出身。

岩手県内の大学で学んでいる。将来的には理系の教員になりたいと思っている。教員になったら、自分の趣味に関連する部活動の顧問になって、ずっと趣味に携わっていききたい。

自分がこれまで趣味を通じて培った人脈も資産であると思っており、これを手放したくないのも、岩手県内にこだわる理由だ。

(r) 20代前半, 男性, 未婚, 学生

E県出身。

岩手県内の大学で学んでいる。

卒業後は、自分のスキルを活かせる研究開発の仕事があれば、そこに就職したいと考えており、住む場所は特に希望はない。

親も地元に戻ってほしいとは言っていない。

(s) 20代前半, 女性, 未婚, 学生

盛岡広域出身。

岩手県内の大学で学んでいて、将来的には岩手県内の教員を目指したいと考えている。

片親の家庭であり、大学進学で親に経済的な負担をかけたと考えている。卒業後は地元で親を支えたいと考えており、独立して東京圏に進出することは考えていない。

(t) 20代前半, 男性, 未婚, 学生

岩手県内出身。

岩手県内の大学で学んでいて、将来的には岩手県内の教員を目指したいと考えている。

経済的に豊かでない家庭であり、親には好きなことを学ぶために大学に進学させてもらっている恩義がある。奨学金の返済もあり、卒業後は親と支えあいながら地元で生活していきたい。

(u) 20代前半, 男性, 未婚, 学生

盛岡広域出身。

東京圏の大学に進学し、建設業に就職予定である。

いつかは地元に戻りたいと考えているが、奨学金を返済する必要があり、収入が高い東京圏の企業を選択した。やりがいもある仕事だと思う。

将来的にいつかUターンするのかもしれないが、盛岡に自分が求めるような仕事があるのか探したことはない。

(v) 30代前半, 女性, 未婚, 教育・学習支援業従事者

盛岡広域出身。

東京にある大学に進学したが、東京でよい就職先を東京で見つけられなかったため実家にUターンし、非正規雇用として働いている。

実家から盛岡広域の職場に通っている。盛岡広域には大卒女性が正規雇用で働ける事務職の仕事が少ない。賃金も少なく、いわば実家に寄生している状況だ。